

○苟モ放火ノ所爲カ一定ノ目的物上ニ行ハレ導火材料ヲ離レ獨立シテ燃焼作用ヲ營ミ得ヘキ状態ニ在ルトキハ公共ノ靜謐ニ對スル危險ハ既ニ發生セルヲ以テ縱令其目的物ヲシテ全然其效用ヲ喪失セシムルニ迫ハサルモ刑法ニ所謂燒燬ノ結果ヲ生シ放火ノ既遂状態ニ達シタルモノトス

七

二九

(同主旨)

刑法第八條ニ所謂燒燬トハ犯人ノ點シタル火力其媒介物タル燃料ヲ離レ建造物其他同條列記ノ物件ニ移リ獨立シテ其燃焼力ヲ繼續スル事實ヲ指稱ス從テ此等ノ目的物ヲ燒燬ノ爲メ其存在ヲ亡失スルニ至ルトハ放火罪ノ既遂ト爲ル條件ニ非ス

四三

三八四

○自己ノ故意行爲ニ歸スヘカラサル原因ニ由リ既ニ刑法第八條以下ニ記載スル物件ニ發火シタル場合ニ於テ之ヲ消止ムヘキ法律上ノ義務ヲ有シ且容易ニ之ヲ消止メ得ル地位ニ在ル者カ其既發ノ火力ヲ利用スル意思ヲ以テ鎮火ニ必要ナル手段ヲ執ラサルハ法律ニ所謂火ヲ放ツノ行爲ニ該當スルモノト解スルヲ相當トス

七

一五五八

○如上物件ノ占有者又ハ所有者カ自己ノ故意行爲ニ歸スヘカラサル原因ニ由リ其物件ニ發火シ爲メニ公共ニ對シ危害ノ發生スル虞アル場合ニ之ヲ防止スルコトヲ得ヘキトキハ其發火ヲ消止メ以テ公共ノ危險ノ發

生ヲ防止スル義務アルモノトス

『第八條』

(第八條)

七

一五五八

○村役場ハ役場吏員カ其職務執行ノ爲メ現ニ住居スル用ニ供セラルル建造物ナリトス從テ之ヲ燒燬シタル所爲ハ刑法第八條ノ犯罪ヲ構成ス

○舊刑法第四百二條ニ人ノ住居シタル家屋及ヒ刑法第八條ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物トアル人トハ犯人以外ノ者ヲ指稱シ其家屋又ハ建造物ノ所有權カ犯人ニ屬スルト否トハ問フ所ニ非ス

○單一ナル放火行爲ニ因リ人ノ住居ニ使用セサル建造物及ヒ人ノ住居スル家屋ヲ燒燬シタルトキハ其目的物ヲ包括的ニ觀察シ最モ重キ他人ノ住家ヲ燒燬シタル罪ヲ以テ論セサルヘカラス

(同主旨)

四二

一七三五

被告人カ單一ノ放火行爲ニ因リテ處罰規定ヲ異ニスル數箇ノ目的物ヲ燒燬シタルトキハ該目的物ヲ包括的ニ觀察シ其最モ重キ處罰規定ニ該當スル燒燬罪ヲ以テ論スヘキモノトス

四三

一六四五

○家宅侵入ノ行爲ハ放火ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ト雖モ放火行爲ノ一部ヲ成スモノニ非スシテ全然別異ノ犯罪行爲ナリトス

○犯人カ人ノ住居スル家屋ノ外壁ニ接著シアル藁圍ヲ導火線トシテ之ニ放火シ其住家ヲ燒燬シタル場合ニ在テハ該藁圍ハ住家ト獨立シテ燒燬

四三

三四九

ノ目的物ト爲ルヘキモノニ非サレハ之ヲ燒燬シタル點ニ付キ特ニ擬律ヲ爲ササリシハ相當ナリ

○刑法第百八條ニ所謂現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トハ現實ニ人ノ住居トシテ使用セル建造物ノ謂ニシテ放火ノ當時人ノ現在スルコトヲ必要トセス

○人ノ住宅ヲ燒燬スルトキハ個人ノ財産的の法益ヲ侵害スルト同時ニ靜謐ナル公共的の法益ヲ侵害スルヲ以テ法律ハ右公共的の法益侵害ニ重キヲ置キ財産ニ對スル罪ト其規定ヲ異ニシ放火罪トシテ之ヲ處分スルモノナレハ單一ナル放火行爲ヲ以テ二箇ノ住宅ヲ燒燬スルモ單一ナル放火罪トシテ之ヲ處分スヘキモノトス

○單一意思ノ發動ニ基キ數次ニ爲シタル各行爲カ一ハ刑法第百八條ニ於ケル放火罪ノ既遂ニシテ他ハ其未遂タルニ止マル場合ニ於テハ之ヲ連續ノ一罪ト爲シ該行爲ノ全體ニ通シテ犯罪ノ既遂ニ關スル刑法第百八條及ヒ第五十五條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス

○刑法第百八條ノ罪ト同第百九條ノ罪トハ其ニ同一罪質ニ屬スル放火罪ナルヲ以テ右兩罪ノ間ニ連續犯アリト認ムルモ不當ニ非ス

○刑法第百八條ニ所謂現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物トハ現ニ人ノ起臥

寢食ノ場所トシテ日常使用セラルル建造物ヲ謂フモノトス

○校舍ノ一室ヲ宿直室ニ充テ宿直員ヲシテ夜間宿泊セシムルトキハ其校舍ハ現ニ宿直員ノ起臥寢食ノ場所トシテ日常使用セラルルモノニシテ現ニ人ノ住居ニ使用スル建造物ナリトス

(同義旨)

學校ノ宿直室又ハ寄宿舎ノ如キ荷モ學校ノ閉鎖セラレサル以上反對ノ明示ナキ限り當然宿直員ノ勤務在寮生ノ存在アルヘキモノト云ヒ得ルカ故ニ二者孰レモ現ニ人ノ住居ニ使用セラルル建造物ナリト云フコトヲ得ルモノトス

○官廳ノ宿直員ハ非常ヲ警戒スヘキ責任ヲ有スルヲ以テ執務時限後ト雖モ廳中ノ各部分ヲ巡視スルヲ通例ト爲スカ故ニ宿直室カ廳舎ト獨立シタル建造物内ニ在リタル場合ト雖モ廳舎ヲ以テ人ノ住居ニ使用セル建造物ナリト云フヲ妨ケス

○裁判所ノ建物ハ刑法ノ適用上人ノ住居ニ使用セル建造物ナルヲ以テ放火ノ當時人カ現在セス又犯人ニ於テ當時人ノ現在セルコトヲ認識セザリシトスルモ荷モ人ノ住居ニ使用セル建造物ナルコトヲ認識シテ之ニ放火シタル以上ハ刑法第百八條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○放火ノ手段カ家屋ニ傳火シ得ヘキモノナルコト物理上明白ナル以上ハ

二	二	二	三	三	三
一五七	一五七	一五七	二四七	二四七	二四七

二	二	二	四	四	六
二八五	八二	三〇六	三二〇	三二〇	六

未タ家屋ノ一部ニ傳火セサルモ刑法第百八條ニ於ケル犯罪ノ著手アリタルモノトス

○被告カ間接ニ導火材料ノ燃燒作用ヲ藉リテ其目的トセル他人ノ住宅ヲ燒燬シ得ヘキコトヲ認識シ該材料ニ點火シテ其燃燒作用ヲ繼續シ得ヘキ状態ニ措キタル以上ハ未タ該住宅ニ延燒セサルトキト雖モ放火罪(刑法第百八條)ノ未遂犯ヲ構成スルニ妨ナシ

○人ノ住居ニ使用スル建造物ヲ燒燬スル目的ヲ以テ其邸内ニ在ル他ノ建造物ニ放火シ因テ該住家ヲ燒燬シタル所爲ハ一箇ノ住家燒燬罪ヲ構成スルモノトス

〔第百九條〕

○物置小屋ハ人ノ住居スヘキ建造物ニ非サルモ人カ其内ニ立入りテ現在スルコトアルヘキ建造物ナリトス從テ之ヲ燒燬シタル所爲ハ刑法第百九條第一項ノ犯罪ヲ構成ス

○刑法第百九條ニ所謂建造物タルニハ必スシモ一定ノ基礎ノ上ニ建設セラレタル物件ナルコトヲ要セス所謂掘立小屋ノ如キモ同條ノ建造物タルコトヲ失ハス

○刑法第百八條ノ罪ト同第百九條ノ罪トハ共ニ同一罪質ニ屬スル放火罪

三	一七八
三	一八四
五	六六
四	一〇一
元	一三八

ナルヲ以テ右兩罪ノ間ニ連續犯アリト認ムルモ不當ニ非ス

○人ヲ殺害シタル後其犯跡ヲ蔽ハシカ爲メニ其死屍ノ横ハレル家屋ニ放火シ之ヲ燒燬シタル行爲ハ該家屋ニ他ニ住居スルモノナク又人ノ現在セル事實ナキ以上ハ刑法第百九條ニ該當スヘキモノトス

〔第百十條〕

○刑法第百十條ニ所謂公共ノ危險トハ同條所定ノ物件ニ放火シタル行爲カ一般不特定ノ多數人ヲシテ同第百八條及ヒ第百九條ノ物件ニ延燒スル結果ヲ發生スヘキ虞アリト思料セシムルニ相當ナル状態ヲ指稱ス故ニ苟モ理性ノ判斷ニ依リ叙上ノ虞アリト認ムヘキ場合ニハ縱令其當時物理上結果ノ發生ヲ虞ルヘキ理由ナカリシトスルモ之カ爲メニ該判斷ノ當否ヲ論難スルヲ許サス

〔第百十六條〕

○汽船内ニ於テ火ヲ失シ其託送貨物ヲ燒燬シタルトキハ其火力ハ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノト云フヲ得ヘシ從テ該所爲ハ刑法第百十六條ニ該當スルモノトス

○煙突ノ占有者ニ雇使セラレテ其掃除ニ從事スル者ハ煤煙ノ堆積ヨリ生スル危險豫防ノ責任ヲ當然負擔スヘキモノニ非スシテ其責任ハ雇傭契

二	一八五
六	三二
四	六五
四	一〇一

約ノ内容如何ニ依リテ定マルモノトス

○刑法第百十六條第二項ニ所謂公共ノ危険ヲ生セシメタルトハ火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第百九條ノ物又ハ第百十條ノ物ヲ燒燬シ因テ第百八條及ヒ第百九條ノ物ニ延燒セントシ其他一般不定ノ多數人ヲシテ生命身體及ヒ財産ニ對シ危害ヲ感セシムルニ付キ相當ノ理由アル状態ヲ發生シタルノ義ナリトス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

〔第百十九條〕

○堤防ヲ決潰シテ溢水セシメ處罰規定ヲ異ニスル數箇ノ目的物ヲ浸害シタルトキハ該目的物ヲ包括的ニ觀察シテ其最モ重キ處罰規定ニ該當スル溢水ノ罪ヲ以テ論スヘキモノトス

〔第百二十條〕

○刑法第百二十條ニ所謂公共ノ危険ヲ生セシメタルトキトハ溢水セシメテ同條所定ノ物件ヲ浸害スルニ止マラス其結果第百十九條ニ規定スル物件ニ波及シ不特定ノ多數人ヲシテ其生命身體財産ニ付キ危険ヲ感セシムヘキ状態ヲ謂フモノトス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

〔第百二十五條〕

○刑法第百二十五條第一項ハ鐵道又ハ其標識ノ損壞又ハ其他ノ方法ニ依リ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシメタル行爲ヲ處罰シ鐵道營業法第三十六條ハ其結果未タ汽車又ハ電車ノ往來ノ危険ヲ生セシムルニ至ラサル同條所定ノ單純ナル行爲ヲ處罰スルモノニシテ右兩箇ノ犯罪ハ各其構成要件ヲ異ニスル別箇獨立ノ犯罪ナリトス

〔第百二十六條〕

○刑法第百二十六條ニ所謂人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ破壞シタル者トハ人ノ現在スル汽車又ハ電車ノ實質ヲ害シテ其交通機關タル用法ノ全部又ハ一部ヲ不能ナラシムヘキ程度ノ損壞ヲ致シタル者ヲ指稱スルモノトス
○刑法第百二十六條第三項ハ同條第一二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル行爲ヲ處罰スル規定ニシテ其殺意ニ出テタルト否トヲ問ハサルモノトス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

刑法 罪 往來ヲ妨害スル罪 住居ヲ侵ス罪

三 二五〇

五 一三五

四 一九七

四 二四二

七 一三七

四 一八六

七 一四五

(第三百三十條)

『第三百三十條』

○家宅侵入ノ行爲ハ放火ノ目的ヲ以テ之ヲ爲シタル場合ト雖モ放火行爲ノ一部ヲ成スモノニ非スシテ全然別異ノ犯罪行爲ナリトス

○家宅侵入未遂行爲ニ付キ巡査ノ逮捕ヲ免ルル爲メニ爲シタル公務執行妨害ノ行爲ハ侵入未遂ノ所爲ヨリ生スヘキ當然ノ結果ト云フヲ得サルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ノ規定ニ該當セス

○家宅侵入ノ行爲ハ殺人未遂罪ヲ犯スノ手段ナルヲ以テ家宅侵入ノ點ニ對シ刑法第三百三十條ヲ適用シ且殺人未遂罪トノ關係上同法第五十四條第一項後段ヲ適用處罰スヘキモノトス

(同主旨)

甲者カ乙者ヲ殺害セント企テ丙者ノ住宅ニ侵入シテ其目的ヲ遂ケタルトキハ右ノ家宅侵入ノ所爲ハ殺人行爲ノ手段ナルカ故ニ刑法第五十四條ヲ適用シテ之ヲ處分スヘキモノトス

○他人ヲ殺害スル目的ヲ以テ其住宅ニ侵入シタル行爲ハ一面ニ於テ殺人豫備罪ニ該リ他ノ一面ニ於テ家宅侵入罪ニ當ルヲ以テ所謂一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ其重キニ從テ處斷スヘキモノトス

○一箇ノ殺人罪及ヒ三箇ノ殺人未遂罪ヲ行フ手段トシテ一箇ノ家宅侵入罪ヲ犯シタルトキハ其各行爲ハ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ重キ

四	四	四	四	四
三九	一九五	二七三	二二〇	二二八

殺人罪ヲ以テ處斷スヘキ一罪ヲ構成スルモノトス從テ輕キ家宅侵入及ヒ殺人未遂ノ各行爲ハ獨立シテ累犯加重ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

○家宅侵入ノ行爲ハ盜罪ノ要素ニ屬セス單ニ盜罪遂行ノ手段ニ外ナラサレハ盜罪ノ既遂タルト未遂タルトヲ問ハス別ニ家宅侵入罪ヲ構成スルコト論ヲ竣タス

○人ノ住居ヲ侵害シ其者ニ傷害ヲ加フルニ於テハ其住居侵害ハ侵入ナルト不退去ナルトヲ問ハス傷害ノ手段ニシテ獨立ノ犯罪ヲ構成セス

(同主旨)

入ヲ毆打スル爲メ其家宅ニ侵入シタルトキハ刑法第五十四條第一項ニ依リ該侵入行爲ハ傷害ノ行爲ト相合シ一罪トシテ處分セラレヘキモノナレハ其毆打ノ事實ニ對スル起訴ニハ當然家宅侵入ノ行爲ヲ包含スルモノトス

入ヲ傷害スル爲メ其住居ニ侵入シタル場合ニ在テハ住居侵入ノ行爲ハ入ヲ傷害スル手段ナルヲ以テ刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノトス

○縱令親族ノ關係アリト雖モ同居ノ事實ナキ者ノ家宅ヘ強盜ノ爲メ侵入シタル以上ハ家宅侵入罪ヲ構成スルモノトス

○竊盜ヲ爲シタル者カ逮捕ヲ免ルル目的ヲ以テ他人ヲ傷害シタルトキハ法律上強盜傷人ノ一罪ヲ構成スルニ過キサレハ其成立要素タル竊盜行爲ノ手段トシテ行ハレタル建造物侵入ノ所爲ハ強盜傷人罪ノ手段ナリ

四	四	四	四	四
一五七六	一九八九	一四八五	四四四	六五八

ト論斷スルヲ相當トス

○住居侵入行爲カ竊盜又ハ強盜行爲ニ對スル手段結果ノ關係ヲ有スル他
ノ住居侵入行爲ト共ニ連續ノ一罪ヲ構成スル場合ニ於テハ該住居侵入
行爲ヲ包含スル住居侵入ノ連續犯ハ竊盜又ハ強盜ニ對シ牽連關係ヲ有
スルモノトス

○同居者ニ非サル以上家宅管理者ノ親族ト雖モ管理者ノ不承諾ナルコト
明白ナルニ拘ハラズ其家宅ニ侵入スルハ即チ故ナク家宅ニ侵入シタル
モノトス

○他人ノ不在ニ乘シ其妻ト姦通スル目的ヲ以テ其住宅ニ侵入セントシタ
ルトキハ縱令豫メ妻ノ承諾ヲ得タリトスルモ當然本夫タル住居權者カ
被告ノ住居ニ入ルコトヲ認容スル意思ヲ有スト推測シ得ヘキモノニ非
サレハ妻カ本夫ニ代リ承諾ヲ與フルモ何等效力ヲ生スヘキモノニ非ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

(第三百二十九條)

『第三百二十九條』

○阿片煙ヲ吸食スルニ際リ其吸食ノ爲メニスル阿片煙及ヒ吸食器具ヲ一
時握持スル行爲ハ當然其吸食罪中ニ包括セラレ刑法第三百二十九條第一

(第四百十條)

『第四百十條』

項ノ一罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ同法第四百十條ノ罪ヲ構成スルモノ
ニ非ス

○阿片煙膏ハ刑法第四百十條ニ所謂阿片煙ナリトス

○阿片煙ヲ吸食スルニ際リ其吸食ノ爲メニスル阿片煙及ヒ吸食器具ヲ一
時握持スル行爲ハ當然其吸食罪中ニ包括セラレ刑法第三百二十九條第一
項ノ一罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ同法第四百十條ノ罪ヲ構成スルモノ
ニ非ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

○法文中金銀貨紙幣銀行券ノ語辭ニ内國若クハ外國等ノ文辭ヲ加ヘサル
トキハ刑法ノ用語トシテハ通例内國發行ニ係ルモノヲ意味スレトモ總
テノ法規ニ付キ同一ノ文例ヲ以テ解釋スルコトヲ得サルモノトス
○我刑罰法上金額ト交換スヘキ證券カ銀行券タルニハ銀行業者ニ於テ之
ヲ發行シタルノミヲ以テ足レリトセス常ニ必ス其發行ニ付キ政府ノ承
認ヲ經タルモノナルコトヲ要ス

(第四百十八條)

『第四百十八條』

刑法 罪 通貨偽造ノ罪

五

一三六

五

一五八九

七

四〇五

七

一五〇六

六

一〇三

六

一〇一

六

一一〇

四二

一四六〇

三

一一二

モノトス

○刑法第五十三條ニ所謂器機トハ汎ク貨幣紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ得ヘキ一切ノ器機ヲ指稱スルモノニシテ偽造又ハ變造ニ直接必要ナル器機ノミヲ指稱スルモノニ非ス

○刑法第五十三條ハ通貨ノ偽造變造罪ノ既遂若クハ未遂罪ニ對シテハ豫備ノ程度ニ在ルモ特ニ器機又ハ原料ヲ準備シタル場合ニ限り其豫備行為ヲ獨立罪トシテ處罰スル旨趣ナリトス

○刑法第五十三條ノ通貨偽造變造準備ノ罪ニ在リテハ準備シタル器機原料カ偽造變造ノ用ニ供スルモノトシテ客觀的ニ可能性ヲ有スルコトヲ要スト雖モ苟モ偽造變造ノ用ニ供スヘキ目的ヲ以テ之ヲ準備シタル以上ハ犯人ニ於テ偽造變造ノ實行方法ニ關スル計畫ノ一定セルト否トヲ問ハス本罪ヲ成立スルモノトス

○刑法第五十三條ノ犯罪ノ成立スルニハ貨幣紙幣又ハ銀行券ノ偽造變造ノ實行ヲ爲ス意思ヲ有スル者カ偽造變造ニ關シ可能性ヲ有スル器機又ハ原料ヲ準備スルコト若クハ其者ヲ幫助スル爲メ他人カ之ヲ準備スルコトヲ要ス

○詐欺罪ノ犯人カ通貨偽造ノ意思ナク單ニ通貨ヲ偽造スヘキコトヲ告ケ

四

一四七五

二

二六

五

一九二五

五

一九二五

五

一九二五

○テ詐欺ノ手段ト爲シタル場合ト雖モ其被害者カ眞ニ通貨偽造ノ實行ヲ爲ス意思ヲ有シ偽造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ偽造ニ可能ナル器機原料ヲ準備シタル以上ハ通貨偽造準備罪ヲ構成ス

五

一九二五

第十七章 文書偽造ノ罪

『第五百五十五條』

〔第五百五十五條〕

○同一犯人カ公務所ノ文書ヲ偽造シテ行使シタルトキハ其偽造ト行使トノ各所爲ハ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ合シテ一罪ト爲ルヘキモノナレハ其何レヲ重シトシテ處斷スルニ拘ハラス常ニ同罪最後ノ所爲タル行使ヲ終リシ日ニ發生シタルモノト云フヘク該犯罪ニ對スル公訴時効ノ期間モ亦同日ヨリ進行ヲ始ムヘキモノトス

四

一〇四八

○區長ハ一般ノ慣例上國稅ノ納付又ハ建物ノ所有ニ關スル事項ニ付キ證明書ヲ與フルノ職務權限ヲ有スルモノトス

四

五三二

○郵便局ニ備付アル受付時刻記入用ノ日附印ヲ不正ニ使用シ其影跡ノ空間ニ年月日ノ數字ヲ記入シタル所爲ハ郵便局ノ公印ヲ不正ニ使用シタルモノニ非スシテ郵便局ノ署名ヲ偽造シ其受付時刻證明書ヲ偽造シタルモノトス

四

八六〇

- 市町村長若クハ區長ハ一般ノ慣例上一定ノ場合ニ於テ個人ノ請求ニ因リ其印鑑ニ付キ證明書ヲ付與スルノ職務權限ヲ有ス
- 舊藩制時代ノ村ハ現今ノ觀念ニ於ケル自治團體ニ該當セス從テ當時村ノ行政ニ干與シタル庄屋ノ職務上ノ地位ハ官吏ニシテ公吏ニ非ス
- 開札調書ハ町村稅等ノ滯納處分上其作成ヲ必要トスルモノナレハ縱令此種ノ調書作成ノ權限及ヒ方式ニ付テハ法律上特ニ規定スル所ナシト雖モ當該公務員ノ職務上作成スヘキ文書ナリト云ハサルヲ得ス
- 村稅賦課調定簿ハ村會ノ議決シタル賦課徵收ノ方法ニ從ヒ毎戸ニ賦課スヘキ稅金額ヲ掲クルモノニシテ村長ノ管掌ニ屬スル村稅徵收ニ關シ其職務ノ執行上必要欠クヘカラサル文書ナリトス
- 文書偽造罪(刑法第百五十六條第百五十五條第一項)ノ成立ニハ犯人ノ所爲カ公文書ノ内容ノ眞實ニ對スル公ノ信用ヲ害シ又ハ害スヘキ危險アルヲ以テ足り此以外ニ於テ更ニ害ヲ生シ若クハ生シ得ヘキコトヲ要セス
- 封建時代ニ於ケル名主後見ハ村ノ代表者ニ非スシテ一ノ行政官ナリトス
- 苟モ領收證ニ爲シタル收入役ノ署名ニシテ偽署タル以上ハ其印章ノ如

四	四	四	四	四
二〇三	二八九	一三九	一四三	四二七

何ニ關セス其作成名義ヲ詐リタルモノナレハ刑法第百五十五條第一項ノ公文書偽造罪ヲ構成ス

- 數人共同シテ公證人ヲ欺キ債權證書ヲ作成セシムルニ當リ其中ノ一人カ之カ爲メニ要スル印鑑證明書ノ偽造及ヒ變造ノ行爲ニ全然干與セサルニ拘ハラズ之ニ關スル責任ヲ負ハシムルハ失當ナリ
- 氏名ヲ記載セサルモ或一定ノ公務員ヲ指稱シタルコト明カナル場合ニ於テハ公務員ノ署名ト認ムルニ妨ナシ
- 町村長ハ其職權ニ關スル事項ニ付キ個人ヨリ證明ヲ出願シタル場合ニ之カ證明書ヲ付與スルコトヲ得ルハ一般ノ慣例ナルヲ以テ村長名義ノ納稅額證明書ヲ偽造シタル所爲ニ對シ刑法第百五十五條ヲ適用シタルハ相當ナリ
- 輜重兵大隊ハ師團ヲ組成スル一箇ノ軍隊ナレトモ一面自ラ其隊ノ事務ヲ處理スル獨立ノ官廳ナレハ刑法ニ所謂公務所ニ外ナラス
- 刑法第百五十五條ニ所謂公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書トハ公務所又ハ公務員カ其名義ヲ以テ其權限内ニ於テ所定ノ形式ニ從ヒ作成スヘキ文書ニシテ其權限カ法令ニ因ルト内規又ハ慣例ニ因ルトハ之ヲ問フコトナク汎ク其職務執行ノ範圍内ニ於テ作成セララルヲ要スルノミ

四四	四四	四四	四五
一三九	一六〇	一九八九	四六四

○公文書偽造罪ノ成立ニハ文書ノ形式又ハ其内容ヲ偽リタル所爲カ一般人ヲシテ公務所又ハ公務員ノ權限内ニ於テ作成シタル文書ナリト信セシムル程度ニ於テ其形式外觀ヲ具有シ公文書ノ信用ヲ害スヘキ危険アルヲ以テ足り其文書ノ日附當時之ニ署名セル公務員ノ生存シタルヤ否ヤハ同罪ノ成立要件ニ非ス

○文書偽造及ヒ偽造文書行使ハ真正ナル文書ニ對スル公ノ信用ヲ害スル犯罪ナルヲ以テ文書ノ性質如何ニ因リ被害法益ヲ異ニスルモノニ非ス

○富山縣三等輸出米検査證票ナルモノハ單ニ同縣三等輸出米ノ検査ヲ爲シタルコトヲ示ス所ノ一種ノ符號タルニ過キサレハ刑法第百五十五條ニ所謂公務所ノ文書ニ非スシテ同法第百六十六條ニ所謂公務所ノ記號ナリトス

○公文書偽造變造竝ニ其行使ノ行爲ト私文書偽造變造竝ニ其行使ノ行爲トハ文書ノ性質效用ヲ異ニシ且之ニ適用スヘキ罰條ヲモ異ニスルヲ以テ同一意思ノ發動ニ基キ連續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ各連續ノ一罪ヲ構成スヘク一箇ノ連續犯トシテ論スヘキモノニ非ス

○刑法第百五十五條第一項ニ所謂公務所ノ署名ヲ使用シトハ正當ニ表示セラレタル公務所ノ署名ヲ不正ニ使用スルノ謂ナルヲ以テ村役場名ノ

元

二

二

二

一三三

一一四

三〇〇

四〇〇

記載アル印鑑簿ニ當該届出人ノ偽造印ヲ押捺シ虚偽ノ事實ヲ記入スルハ右條項ニ該當スルモノトス

○既存ノ正當ナル文書中作成名義若クハ其他重要ナル點ヲ變更シ爲メニ其變更前ノ文書ト全然別箇獨立ナルモノト爲ストキハ文書ノ偽造ニシテ變造ニ非ス

○他人ニ下付セラレタル外國旅行券中其下付ノ人名及ヒ渡航地ニ變更ヲ加ヘタル所爲ハ旅行券ノ偽造ヲ以テ論スヘキモノトス

○印鑑ハ個人カ其提出セル印影ハ自己ノ實印ナル旨ノ意思ヲ表示シタル私文書ナレハ其印鑑證明書中ニ顯出セラレアルトキト雖モ該證明書トハ全ク別箇ノ文書ニシテ其内容ヲ成スヘキモノニ非ス

(同主旨)

印鑑證明書ハ相當官吏ニ於テ個人ノ提出ニ係ル印影カ實印ニ相違ナキコトヲ證明スルモノナレハ其提出シタル印影カ別紙ニ顯出セラレタル場合ハ勿論證明書中ニ顯出セラレアルトキト雖モ該文書ノ内容ヲ成スモノト云フヲ得ス

○府縣金庫ハ内務省令ニ依リ府縣ニ屬スル現金ノ出納及ヒ保管ノ爲メ設ケラレタルモノニシテ一ノ公務所ナレハ其名義アル文書ヲ偽造シタルトキハ刑法第百五十五條第一項ノ公文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

三

三

三

三

四三

四

一八二

二〇四

二〇四

二六八

二六七

四一七

○刑法第五十五條ニ所謂公務員ノ印章トハ公務員ノ職印ノミニ限ラス其公務上使用スル總テノ印章ヲ包含スルモノトス

(同案旨)

刑法第五十五條ニ所謂公務員ノ印章トハ公文書ヲ作成スルニ當リ之ニ公務員ノ印トシテ使用スル一切ノ印章ヲ汎稱シ其本來ノ性質カ私印ナルト否トハ之ヲ區別セサルノ法意ナリトス

○町村長ノ臨時代理ニ非スシテ單ニ町村長ノ命ニ依リ戶籍事務ヲ擔任セラル町村役場書記カ行使ノ目的ヲ以テ當該町村役場名義ノ戶籍簿ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ刑法第五十五條第一項ノ文書偽造罪ニ問擬スヘキモノニシテ公務員其職務ニ關シ虛偽ノ文書ヲ作成シタルモノトシテ同法第五十六條ニ問擬スヘキモノニ非ス

○通信事務員カ郵便局ノ事務ニ從事中同局ノ印章ヲ不正ニ使用シテ現金出納簿現金出納日報等ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル所爲ハ刑法第五十五條第一項ニ該當スルモノトス

○公務員カ公務員タル名義ヲ以テ虛偽ノ内容ヲ有スル文書ヲ作成シタル場合ニ於テ其文書ノ作成カ何等職務ノ執行ニ關セサルモノナルトキハ公務員ニ非サル者カ公務員ノ作ルヘキ文書ヲ偽造シタルニ異ナラサレハ刑法第五十五條ニ問擬スヘキモノトス

五

八六六

四

四七

五

一九〇五

六

四三九

七

一三七八

○帝國鐵道廳カ手荷物ノ發送ニ付キ使用シタル驛名札ハ舊刑法ニ在テハ其第二百三條ニ所謂官ノ文書ニ該當シ現行刑法ニ於テハ其第五十五條第三項ニ所謂公務所ノ作ルヘキ文書ニ該當ス

四

八七七

○登記カ虛偽ノ申立ニ基ク場合ト雖モ登記官吏ノ作成シタル登記簿ハ形式上公文書ニ外ナラサルヲ以テ之ヲ變造シタル所爲ハ公文書變造罪ヲ構成スルモノトス

四

一七〇

○苟モ公文書トシテ成立シタルモノナル以上ハ其内容カ眞實ニ適合スルモノナルト否トヲ問ハス擅ニ之ヲ増減變更シタルトキハ他ニ實害ヲ生スルト否トニ拘ハラズ公文書變造罪ヲ構成スルモノトス

四

一三九〇

(參照)

公文書ノ變造ト其偽造トハ同一ノ罪名ニ非ス從テ郵便貯金通帳中郵便局長ノ作成ニ係ル貯金受入ノ記載事項ヲ増減變換シ且郵便貯金支局長作成名義ノ貯金現在高檢閱濟ノ記載事項ヲ偽造シタル所爲ヲ合セテ一ノ公文書偽造罪ニ問擬シタル判決ハ失當ナリ(刑事訴訟法第二百六十九條第十號四年二〇七二頁參照)

四

一八五一

(第五十六條)

『第五十六條』

○村長カ其保管ニ屬スヘキ種類ノ文書ヲ現ニ保管シアルモノトシテ之ヲ偽造行使シタルトキハ舊刑法ニ於テハ管掌ニ係ル文書ヲ偽造行使シタルモノトシテ處斷スヘク刑法ニ在テハ公吏其職務ニ關シ文書ヲ偽造シ

且之ヲ行使シタルモノトシテ處斷セサルヘカラス

○村長カ或轉籍者ノ前科ニ關スル照會ニ對シ其回答書ノ内容ノ虛偽ナルコトヲ知リテ之ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ完成ス而シテ犯人カ其虛偽ナルコトヲ知リタル因由如何ハ問フ所ニ非ス

○町村長ノ職ニ在ル者カ當該官吏ヲ欺罔セント企テ虛偽ノ上申書ヲ提出シタル以上ハ縱令其動機ノ私利ヲ計ルニ在ラスシテ自己ノ奉職スル町村ノ繁榮ヲ目的トシタル場合ト雖モ文書偽造罪ノ成立ヲ妨ケス

○村長カ公務員タル署名ヲ用キテ虛偽ノ村會招集公告案及ヒ告知案ヲ作成シタル所爲ハ刑法第百五十六條第百五十五條第一項ノ罪ヲ構成スルモノトス

○助役ハ村長ノ補助機關ニ過キサレハ村長自ラ其資格ヲ冒用シテ虛偽ノ文書ヲ作成スルニ當リ助役之ニ加功スルモ其助役ハ自己ノ職務ニ關シ虛偽ノ文書ヲ作成シタルモノト云フヲ得ス

○公務員ト共謀シテ其公務員ノ職務ニ關シ虛偽ノ文書ヲ作成スルニ於テハ公務員ニ非サル者モ亦刑法第百五十六條ニ於ケル犯罪ノ正犯タルヲ免レス

(同罪)

四三 七三

四三 一三四五

四三 二八一

四四 二八二

四四 六八七

四四 六八七

執達吏ト共謀シテ其職務ニ關スル公文書ヲ偽造シタル一私人ハ刑法第百五十六條ノ犯罪者タルコトヲ免レス

○助役カ村長ノ代理トシテ職務ヲ執行スルニ當リ村長ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スト雖モ其文書ニシテ助役カ村長代理トシテ正當ニ作成シ得ヘキ性質ノモノナルトキハ職務ノ便宜上代理名義ヲ省畧シタルニ止マリ之ヲ以テ偽造ト認ムヘキモノニ非ス

○一私人ノ渡航歸朝ニ關スル事實ノ證明ヲ爲スハ村長ノ職務ニ屬スルモノナルヲ以テ右渡航歸朝ノ事實ナキコトヲ知り乍ラ其事實アルモノノ如ク證明シタル村長名義ノ文書ハ刑法第百五十六條ニ所謂公務員カ其職務ニ關シ作りタル虛偽ノ文書ナリトス

○苟モ行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シ又ハ偽造文書ヲ行使シタル以上ハ直ニ文書偽造罪又ハ偽造文書行使罪ヲ構成スヘク之ニ因リテ現實ニ實害ヲ生シ又ハ生スル虞アルコトヲ必要トセス

(同罪)

文書偽造罪ノ成立ニハ文書ノ形式又ハ其内容ヲ偽リタル所爲カ抽象的ニ該文書ノ信用ヲ害スヘキ危險アルノミヲ以テ足り之ヲ外ニシテ特定ノ人ニ對シ具體的ニ損害ヲ與ヘ又ハ之ヲ與フルノ危險アルコトヲ要セス

文書偽造罪(刑法第百五十六條第百五十五條第一項)ノ成立ニハ犯人ノ所爲カ公文書ノ内容ノ

四四 六〇五

四四 一三四七

二 八二八

三 一六二〇

四三 二八一

眞實ニ對スル公ノ信用ヲ害シ又ハ害スヘキ危險アルヲ以テ足り此以外ニ於テ更ニ害ヲ生シ若クハ生シ得ヘキコトヲ要セス

○村長ノ職務上爲シタル出願ニ對シ師團經理部カ建物ノ拂下ヲ爲ス場合ニ於テ其代金上納書建物受領證等ヲ差出スハ村長ノ職務權限ニ屬スルモノトス

○甲者公務員ノ資格ニ於テ主債務ヲ負擔シ乙者何等ノ資格ナクシテ保證債務ヲ負擔シタル旨記載シタル文書ハ縱令紙面同一ナリト雖モ其一部ハ公文書ニシテ他ハ私文書タルノ性質ヲ有スルモノトス

○外務書記生ハ其上官タル外務書記官ノ職務ニ屬スル出納事務ニ關シ上官ヲ補助シ帳簿ノ記載ヲ爲シ之ヲ保管スヘキ職務ヲ有スルモノトス

○町村長ノ臨時代理ニ非スシテ單ニ町村長ノ命ニ依リ戶籍事務ヲ擔任セシテ同法第百五十六條ニ間擬スヘキモノニ非ス

○北海道支廳ノ慣例ニ依リ支廳長代理タル巡視員ノ作成シ復命書ニ代ヘ且支廳長ヨリ道長官ニ差出スヘキ報告書ニ添附スル狀況調書ハ支廳長

四四

二八二

三

二六九

四

四八

五

五七

五

一九〇五

代理トシテ町村戶長役場ノ事務ヲ視察シタル支廳在勤北海道屬ノ職務上作成スヘキ文書ナリトス

○民法第七百七十二條ニ違反スル婚姻届ト雖モ戶籍吏ニ於テ之ヲ受理シタル以上ハ其故意ニ出テタルト否トヲ問ハス婚姻ハ效力ヲ生シ其取消アル迄有效ニ成立スルモノトス從テ之カ受理ヲ爲シタル戶籍吏ハ戶籍法ニ從ヒ遲滞ナク登記ヲ爲スヘキモノナレハ其登記ヲ目シテ不實ノ記載ト云フヲ得ス

○甲乙間ノ不動産賣買ハ甲カ未成年者丙ノ後見人トシテ其職務ニ從事中其資格ヲ濫用シ乙及ヒ裁判所書記丁等ト通謀シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ニシテ法律上無効ノモノナレハ丁カ其職務ノ執行トシテ登記簿原本ニ爲シタル各賣買登記及ヒ之ニ伴フ各登記濟證ノ記載ハ何レモ虛偽ニシテ刑法第百五十六條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○抵當附貸借ニ依リ受取リタル金圓ヲ返還シ其擔保トシテ設定シアリタル抵當權ノ抹消登記ヲ爲シタルトキハ其記載ハ眞正ノ事實ニ適合スルモノナレハ之ヲ以テ虛偽ノ記載トシテ刑法第百五十六條ニ依リ處罰スルヲ得サルモノトス

○郵便振替貯金ノ拂込ヲ受ケタル郵便局カ監査票ニ押捺スヘキ日附印ハ

六

二三

六

二八二

六

六九九

六

六九九

- 受入日附印ニシテ拂込ヲ受入レタル日附ヲ證明スルモノトス
- 郵便局長カ行使ノ目的ヲ以テ其職務上記入スヘキ振替貯金監査票等ニ故ラニ受入當日ヨリ後レテ拂込金額拂込者及ヒ加入者等ヲ記入シ之ニ記入當日ノ日附印ヲ押捺シ文書トシテ此日附ニ於テ拂込ヲ受入レタル旨ノ虚偽ノ事實ヲ證明スルニ至ラシメタル行爲ハ刑法第百五十六條ノ文書偽造罪ニ該當スルモノトス
- 郡役所カ恤救行政ニ關シ村長ニ指揮命令シタル事項ニ付キ報告ヲ促シタルニ對シ村長ノ提出スル報告書ハ監督官廳ニ對スル職務上ノ文書トシテ公文書ノ性質ヲ具有スルモノトス
- 市町村長ハ届出事項カ眞實ニシテ止タ實體法規ニ牴觸シ其效力ヲ生セサル場合ニ於テ之ヲ知り乍ラ戸籍簿ニ記載スルモ刑法第百五十六條ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス
- 本院判例ハ公務員カ虚偽ノ文書ヲ作成シタル場合ニ於テ其文書カ職務ノ執行ニ關スルモノタルト否トヲ問ハス盡ク刑法第百五十六條ニ問擬スヘキモノナリトスル旨趣ニ非ス

『第百五十七條』

○ 詐欺取財ヲ爲スニ因リ公正證書ヲ偽造行使シタル場合ニ於テハ該證書

六	九四一
六	九四一
七	一〇一六
七	一〇一六
七	一三七八

(第百五十七條)

作成ノ委任狀ハ公正證書ノ成立ト分離スヘカラサル密接ノ關係ヲ有シ二者相待テ詐欺取財罪ノ實行手段タルヘキ行爲ニ外ナラス故ニ裁判所カ右委任狀偽造ノ行爲ニ對シ刑法第五十四條第一項ヲ適用シタルハ相當ナリ

- 公正證書ニ囑託者ノ氏名ヲ偽署スル所爲ト公證人ヲシテ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル所爲トハ各別箇ノ行爲ナルモ前者ハ後者ノ當然ノ結果ナルカ故ニ純然タル二罪トシ併合罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス
- 公務員ヲシテ登記簿又ハ公正證書原本等ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル行爲ト其文書ヲ公務所ニ備付ケシムル行爲トハ一ハ手段ニシテ他ハ其結果タルヘキ關係アル別箇ノ行爲ナリ

(同主旨)

偽造ノ登記申請書ヲ登記官吏ニ提出シテ行使シタル行爲ト登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル行爲トハ互ニ相牽聯シテ手段結果ノ關係ヲ有スルモ元來別箇ノ行爲ニシテ同一行爲ニ非ス

- 他人ヲ欺罔スル意思ヲ以テ登記申請者ノ雙方共謀合意ノ上虚偽ノ抵當權登記ヲ申請シ登記官吏ヲシテ該登記ヲ爲サシメタル所爲ハ刑法第百五十七條ノ犯罪ヲ構成ス

四	二七
四	一五六
四	二三
四	一六六七
四	二三

○公務員ニ對シテ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル所爲(刑法第五十七條)ハ真正ナル公正證書ノ内容ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危険アルカ爲メニ之ヲ處罰スルモノトス從テ本罪ノ成立ニハ此以外ニ於テ實害ヲ生シ得ヘキコトヲ要セス

○苟モ公務員ニ對シテ存在セサル事實ヲ存在スルモノトシ又ハ存在スル事實ヲ存在セサルモノトシテ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタルトキハ直ニ刑法第五十七條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ申立人カ其資格ヲ詐リタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

○刑法第五十七條ニ所謂公正證書トハ公務員カ其職務ヲ以テ利害關係人ノ爲メニ或事實ノ存在ヲ證明スル文書ヲ指稱ス

○登記官吏カ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ登記事項ヲ記載スル登記簿ハ刑法第五十七條ニ所謂公正證書ノ原本ニ該當スルモノトス

○土地所有主タル甲者カ乙者ト通謀シ虚偽ノ賣買ヲ爲シタル後丙者ヲ欺罔シテ其土地ニ付キ抵當權ヲ設定シ登記ヲ經タル場合ニ於テハ該設定行爲ハ無効ナリト云フヲ得サレハ其登記モ亦之ヲ不實ト認ムヘキモノニ非ス

四	三	三	三	四
二四二	一四五七	一八九五	一八九五	二〇七

○刑法第五十七條第一項ニ所謂虚偽ノ申立ヲ爲シ若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメトハ申立事項ノ内容若クハ記載事項ノ内容ニ虚偽又ハ不實アル場合ニノミ限ラス申立人ニ關シテ虚偽ノ申立ヲ爲シ若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ヲモ包含ス

○電話加入申込原簿ハ電話開通ノ順序ヲ決定スル用ニ供スル目的ヲ以テ當該郵便官署ニ於テ電話加入ノ申込ヲ受理シタル場合ニ申込順序ヲ登記スル公簿ニシテ其登記ハ權利ノ得喪變更等ノ證明ヲ目的トスルモノニ非サレハ虚偽ノ申立ヲ爲シ之ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルモ刑法第五十七條ニ該當セス

○刑法第五十七條第一項ノ罪ハ公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルコトヲ要スルモ其申立事項及ヒ記載事項自體ノ不法ナルコトヲ必要トセス

○公證人ヲシテ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルニ當リ他人ノ氏名ヲ詐稱シ之ニ其署名ヲ偽造シタル行爲ハ右公證人ヲシテ不實ノ記載ヲ爲サシメタル行爲トハ全ク別箇ノ行爲ナリトス

(同三官)

公證人ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル所爲ト行使ノ目的ヲ以

三	元	四五	四
八六七	一四六三	七五	八二七

テ他人ノ署名ヲ偽造シタル所爲トハ各別箇ノ犯罪ニシテ公正證書偽造行使ノ一罪ニ非ス
 ○裁判所カ亡甲者ノ家督相續人選定ノ爲メ乙丙丁ノ三名ヲ親族會員ニ選
 定シ某月日其招集ヲ爲ス旨ヲ決定シテ適法ニ該決定書ヲ右三名ニ送達
 シタル以上ハ縱令丁者カ無届缺席スルモ將々其事實ヲ知ラサリシトス
 ルモ會員ノ過半数タル乙丙兩名ニ於テ有效ニ甲者ノ相續人ヲ選定シ得
 ヘキモノトス故ニ被告カ丁者ノ署名印章ヲ冒用シテ相續人選定決議書
 ヲ作成シ戸籍吏ニ届出テ戸籍簿ニ登記セシムルモ文書偽造及ヒ其行使
 罪ノ成立スルハ格別刑法第百五十七條第一項ノ罪ヲ構成スヘキモノニ
 非ス

○刑法第百五十七條第一項ニ所謂權利義務トハ單ニ財産上ノ權利義務ノ
 ミヲ指稱スルモノニ非ス

○民法上善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル意思表示ト雖モ苟モ其虛
 偽ナルコトヲ認識シテ登記官吏ニ之カ申立ヲ爲シ登記簿原本ニ不實ノ
 記載ヲ爲サシメタル以上ハ刑法第百五十七條第一項ノ罪責ヲ免ルルコ
 トヲ得ス

○文書偽造行使ニ因リ當該區裁判所ヲシテ假差押命令及ヒ其登記囑託ヲ
 發セシメ登記官吏ヲシテ該登記ノ前提トシテ登記簿原本ニ被告所有ノ

四二

五九三

三

二五七九

四

五五一

五

八九一

家屋ヲ被告ノ所有トシテ表示シタル保存登記ヲ爲サシメ之ヲ當該裁判
 所ニ備付ケシメタル行爲ハ現實存在セル自己ノ家屋ニ付キ保存登記ヲ
 爲サシメ之ヲ當該裁判所ニ備付ケシメタルニ過キス從テ右登記ハ區裁
 判所ノ囑託ニ因リタルモノニシテ被告ノ不實ノ申立ニ因ルモノニ非サ
 レハ縱令其囑託ヲ爲サシムルニ至リタル手續上ニ詐欺手段アリタリト
 スルモ之ヲ以テ不實ノ申立ヲ爲シ虛偽ノ登記ヲ爲サシメ行使シタル犯
 罪行爲ナリト論スルヲ得ス

○公務員タル登記官吏ニ對シ賣買ノ事實ナク所有權移轉ノ效果ヲ生セサ
 ルニ拘ハラス恰モ賣買契約ヲ爲シ所有權ノ移轉アリタルカ如キ虛偽ノ
 事實ヲ陳述シタル登記申請書ヲ提出シ之ニ因リ不動産登記簿原本ニ不
 實ノ記載ヲ爲サシムル行爲ハ刑法第百五十七條ニ該當スルモノトス
 ○出願者カ虛偽ノ申立ヲ爲シ狩獵免狀ノ下付ヲ受ケタル場合ニ於テ刑法
 第百五十七條第二項ノ罪ノ成立スルニハ免狀ニ具體的不實ノ記載アル
 コトヲ要ス

○一箇ノ行爲ヲ以テ公務員ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シ外國渡航許可書及ヒ
 旅行免狀ニ不實ノ記載ヲ爲サシメントシタル所爲ハ刑法第百五十七條
 第二項第三項第五十四條第一項前段ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス

六

九八四

六

一〇二四

四

四九一

七

八七六

〔第五百五十八條〕

○公證人ニ對シ他人ノ代理人タル資格ヲ詐リ公正證書ヲ作成セシメ之ニ署名シタル所爲ハ新刑法第五百五十八條第一項第五百五十七條第一項ニ問擬スヘキモノニシテ公正證書ノ偽造ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

四

一三六

○刑法第五百五十八條第五百五十七條ハ犯人カ自己ノ名義ヲ用キタルト將タ他人ノ名義又ハ代理資格ヲ詐リ其資格ヲ以テ公正證書ニ署名スルトヲ問ハス苟モ公證人ニ對シ虛偽ノ事實ヲ申立テ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ行使シタル者ヲ處罰スルノ旨趣ナリトス

四

八

○他人ノ印章及ヒ署名ヲ使用シテ委任狀ヲ偽造シ公證人ヲシテ公正證書原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ行使シタル場合ニ於テハ此等ノ所爲ハ孰レモ手段若クハ結果タル關係ヲ有スルニ因リ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用シ各所爲ニ對スル刑ノ中最モ重キモノヲ以テ之ヲ處斷セサルヘカラス

四

二一〇

〔同主旨〕

公正證書作成ノ代理委任狀ヲ偽造シ公證人ヲシテ公正證書ヲ作成セシメ之ヲ行使シタル場合ニハ該委任狀ノ偽造行使ハ公正證書偽造行使ノ所爲ノ手段ニ外ナラサレハ刑法第五十四條ヲ適用處斷スヘキモノトス從テ右二箇ノ所爲ヲ箇箇獨立セルモノトシ同法第四十七條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

○公證人ヲシテ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ行使シタル罪ハ公證人カ其證書ヲ公證役場ニ備付クルニ因リテ成立シ偽造署名行使ノ罪ハ他人ノ氏名ヲ偽署シテ公證人ニ提示スルト同時ニ成立ス從テ右二箇ノ行使ハ一箇ノ行爲ニ依リテ行ハレタルモノト云フヲ得ス

四

一六六

○偽造ノ登記申請書ヲ提出シ登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ登記ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其提出者ハ登記官吏ノ爲シタル備付ノ行爲ニ付キ直接正犯ト同シク刑法上ノ責任ヲ負ハサルヘカラス

四

一五六

〔同主旨〕

虛偽ノ登記申請ヲ爲シ登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ登記ヲ爲サシメタル者カ該登記簿ハ當然登記官吏ニ依テ其所屬登記所ニ備付ケラルヘキコトヲ豫見シタル以上ハ自ら直接ニ其備付ニ干與セサリシ故ヲ以テ右ノ所爲ニ對スル刑法上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

四

七八三

○公務員ヲシテ登記簿又ハ公正證書原本等ニ不實ノ記載ヲ爲サシムル行爲ト其文書ヲ公務所ニ備付ケシムル行爲トハ一手段ニシテ他ハ其結果タルヘキ關係アル別箇ノ行爲ナリ

四

一三

○刑法第五十八條第一項ハ其前四條ニ記載セル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ノ公務員タルト否トヲ區別セサレハ公務員ニ非サル者カ此等ノ

文書又ハ圖畫ヲ行使シタル場合ニモ適用セラレヘキモノトス

四三

九九五

○偽造ニ係ル印鑑證明書及ヒ金圓借用證書ヲ同時ニ行使シタルトキハ即チ一箇ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトス

四五

九三三

○苟モ行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シ又ハ偽造文書ヲ行使シタル以上ハ直ニ文書偽造罪又ハ偽造文書行使罪ヲ構成スヘク之ニ因リテ現實ニ實害ヲ生シ又ハ生スル虞アルコトヲ必要トセス

三

一六二〇

〔第五十九條〕

○有價證券ノ偽造ト其行使又ハ文書圖畫ノ偽造ト其行使トハ同一犯人ニ依リテ遂行セラレタルト否トヲ論セス各獨立シタル二箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四二

二二七

(反對)

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキハ其行使ヲ待タズシテ刑法第五十九條ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノトシテ偽造シテ行使シタルトキハ單ニ同第六十一條ノ偽造文書行使罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス
○犯人カ他人ノ署名ト其偽造シタル他人ノ印章トヲ使用シテ自ら文書ヲ偽造シ自身ニ之ヲ行使シタル所爲ハ新刑法第六十一條第一項ニ該當スルモノトス
○犯人カ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シテ自ら之ヲ行使シタル

四二

一一三六

○場合ニハ其所爲ハ偽造シテ行使シタル一罪ニシテ偽造ト行使トノ二罪ニ非ス

四二

一一八三

○行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シ其目的ニ從ヒテ之ヲ行使シタルトキハ其偽造ノ所爲ハ行使ノ手段ト爲リ又行使ノ所爲ハ偽造ノ結果ニ外ナラサレハ刑法第五十四條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノトス

四二

一一二七

○他人ノ印章及ヒ署名ヲ使用シテ委任狀ヲ偽造シ公證人ヲシテ公正證書原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメ之ヲ行使シタル場合ニ於テハ此等ノ所爲ハ孰レモ手段若クハ結果タル關係ヲ有スルニ因リ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用シ各所爲ニ對スル刑ノ中最モ重キモノヲ以テ之ヲ處斷セサルヘカラス

四二

一一〇

(同主旨)

公正證書作成ノ代理委任狀ヲ偽造シ公證人ヲシテ公正證書ヲ作成セシメ之ヲ行使シタル場合ニハ該委任狀ノ偽造行使ハ公正證書偽造行使ノ所爲ノ手段ニ外ナラサレハ刑法第五十四條ヲ適用處斷スヘキモノトス從テ右二箇ノ所爲ヲ箇箇獨立セルモノトシ同法第四十七條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

四二

一六六

○文書ノ署名トハ文書自體ニ爲シタル署名ノ謂ナレハ文書ヲ離レテ他ノ物體ニ爲シタル署名ハ縱シヤ其物體カ該文書ニ添附セラレ又ハ之ヲ封入スルノ用ニ供セラレタル場合ト雖モ文書ノ一部分ヲ成スヘキモノニ非ス從テ該文書ト他ノ物體ニ爲シタル署名トハ各獨立シテ其效力ヲ有

スルモノトス

○私文書偽造罪ノ成立ニハ他人ノ作成名義ヲ冒シテ文書ヲ作成スルコトヲ要ス故ニ他人ノ署名ヲ偽造シタルノミニ止マルトキハ其所爲ハ未タ以テ文書ヲ偽造シタルモノト云フヲ得ス

○苟モ他人ノ代理者タル資格ヲ詐リ文書ヲ作成スルニ於テハ其效果ハ直接ニ他人ノ署名ヲ詐リタル場合ト擇フ所ナシ從テ此所爲ハ刑法第五百十九條第一項所定ノ犯罪中ニ包含セラルルモノトス

○名義人カ眞實筆記シタル署名ヲ冒用シテ文書ヲ作成シタル場合ハ刑法第五百十九條第一項前段ニ該當シ新ニ他人ノ名義ヲ冒署シテ文書ヲ作成シタル場合ハ其後段ニ該當スルモノトス

○鑛業所計理課カ其出納方ニ宛テ發行スル勞銀券ハ有價證券ニ非スシテ單純ノ私文書ナリ

○合資會社ノ清算人カ會社ノ帳簿書類ヲ偽造シ之ヲ會社ニ備付ケタルトキハ直ニ偽造文書行使罪ヲ構成ス而シテ一旦其偽造書類ヲ備付ケタル以上ハ爾後之ヲ破毀若クハ抹消シ社員ヲシテ閱覽シ能ハサラシムルコトアルモ既ニ成立シタル犯罪ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

○他人名義ノ白紙委任狀ヲ寄託セラレタル者カ其名義者ノ承諾ヲ得スシ

三二八

六二〇

七三六

一四三〇

一五五四

一六六一

○テ受託ノ當時限定セラレタル方法以外ニ使用スル目的ヲ以テ其委任狀ニ一定ノ文字ヲ記入シ之ヲ行使シタルトキハ文書偽造行使罪ヲ構成スルモノトス

○犯人自ラ偽造シタル他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキト雖モ其所爲ハ刑法第五百十九條第一項後段ニ依リテ之ヲ處斷スレハ足り印章偽造ノ所爲ニ對シ別ニ同第六十七條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス

○電報規則第二十三條ニ依リ賴信紙ニ發信人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ何レノ方法ヲ執ルモ其何人ナルヤヲ受信人ニ傳達スルノ效果ハ同一ニシテ均シク發信人ノ名義ヲ表示シ通信文ノ一部ヲ構成スルモノトス

○刑法ニ所謂署名トハ通例一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メニ文字ヲ以テ其氏名ヲ表記セルモノヲ指稱スレトモ單ニ片假名ヲ用キ其氏ノミヲ表記シタル場合ニ於テ之ヲ署名ニ非スト謂フヲ得ス

○苟モ他人ノ承諾ヲ得スシテ其署名ヲ偽リ文書ヲ作成スルニ於テハ爾後承諾ヲ豫知シ得ヘキ場合ナルト否トヲ論セス直ニ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

○他人ノ印影ヲ盜用シテ借用證書及ヒ抵當登記申請委任狀ヲ偽造シタル

一七〇〇

五一

七四

七四

二七六

トキハ刑法上其私印盗用ノ所爲ハ獨立シタル別箇ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非スシテ私文書偽造罪ニ包括シ一罪トシテ處斷セラルヘキモノトス

(同主旨)

他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第五十九條第一項ニ依リテ之ヲ處罰スレハ足り其他ニ印章ノ不正使用罪ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス

○他人名義ノ金圓借用證書及ヒ延期證書ヲ偽造シ同時ニ之ヲ使用シタルトキハ其行爲ハ一箇ナレトモ二箇ノ偽造文書行使ナル罪名ニ觸ルルモノトス

○偽造文書ノ内容ヲ構成スヘキ權利義務若クハ事實證明ニ關スル事項ハ必スシモ現實ニ存在スルモノニ係リ且其事項ニ付キ詐欺ノ記載ヲ爲シタルニ因リテ文書ノ署名者ニ實害ヲ與フル如キ性質ノモノナルコトヲ要セス

○郵便爲替證書ニ於ケル受領證ハ受取人カ其名義ヲ以テ作成スヘキ權利義務ニ關スル私文書ニシテ全然該證書ト分離シ獨立ノ存在ヲ有スルモノトス

○金圓借用證書領收證書及ヒ委任狀ハ各其文書ノ性質效用ヲ同ウセサル

四三

三九七

四三

五三六

四三

四九元

四三

四四八

四三

八二二

モ之ヲ偽造スルニ於テハ孰レモ刑法第五十九條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス故ニ連續シテ右三箇ノ文書ヲ偽造シタルトキハ同第五十五條ニ依リ一罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス

四三

二五六

○文書トハ文字若クハ之ニ代ルヘキ符號ヲ用キ永續スヘキ状態ニ於テ或物體ノ上ニ記載シタル意思表示ヲ指稱ス而シテ其物體ノ種類ニ付テハ法律上何等ノ制限ナシ

四三

一五七二

○死亡者名義ノ委任狀ト雖モ其者ノ生存中ニ作成セラレタルモノノ如ク日附ヲ溯記スルニ於テハ之ヲ行使シテ或犯罪ノ目的ヲ達スルコトヲ得從テ其偽造若クハ行使ノ當時委任者ノ死亡シ居リタル事實ハ文書偽造罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

四三

一七五二

(同主旨)

死亡者ノ印章若クハ署名ヲ使用シ又ハ偽造セル死亡者ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル場合ト雖モ該文書ニシテ其生存中ノ日附ニ係ルトキハ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

四三

一七七八

○文書ノ偽造トハ他人ノ作成名義ヲ偽リ新ニ文書ヲ作成スルコトヲ指稱シ其文書カ何人ノ作成名義ニ係ルヤハ該書面自體ニ依リテ之ヲ判斷シ得ルコトヲ要ス

四三

二二六五

○偽造文書ノ行使ヲ受クヘキ相手方ヲ特定スルコトハ文書偽造罪ノ構成要件ニ非サレハ縦令此點ニ付キ教唆者ノ意思ト被教唆者ノ實行行為トノ間ニ齟齬アルモ教唆犯ノ成立ヲ阻却スルコトナシ

○銀行支店ノ預金通帳ニ虚偽ノ預金ヲ記載シ偽造ノ入金傳票ヲ添ヘテ之ヲ支配人ニ提出シ通帳ニ於ケル各金額記入ノ下ニ同支店印ヲ押捺セシメタル所爲ハ該銀行支店ノ署名及ヒ印章ヲ使用シテ預金通帳ヲ偽造シタルモノニ外ナラス

四三
二三〇七
四五八

○貨物保管證ナルモノハ會社ヨリ貨物ノ預主ニ交付スヘキ一ノ預證券ニシテ其控書ハ右保管證ヲ交付シタル事實ヲ會社ノ記録ニ掲置ク一ノ文書ナルヲ以テ兩者其效用ヲ異ニスル獨立ノ文書ナリ故ニ右文書ノ偽造ニ對シ各別ニ處分シタルハ違法ニ非ス

四四
七三

○文書偽造罪ニ於ケル文書ハ必スシモ偽造者若クハ情ヲ知ラサル第三者ニ於テ之ヲ作成スルヲ要セス署名者ヲシテ他ノ文書ナリト誤信セシメ又ハ其内容ヲ知悉セシメシテ之ヲ作成スル場合ニ於テモ文書偽造罪ノ成立ヲ妨ケス

四四
八二七

○親權者若クハ後見人カ未成年ノ子又ハ被後見人ノ財産ニ付キ管理ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テ作成スル文書ハ其資格ヲ以テ事務報告ノ爲メニ作

成スルモノナレハ自己ノ文書ニ外ナラス從テ其内容ニ虚偽ノ記載アリト雖モ之ヲ以テ文書偽造罪ナリト云フヲ得ス

○親權者若クハ後見人カ其親權若クハ後見ノ下ニ在ル者ノ爲メニ其財産ニ關スル帳簿其他ノ文書ヲ作成スル場合ニ在テハ自己ノ事務ヲ報告スルモノニ非サルヲ以テ其文書ハ自己ノ文書ニ非ス故ニ該文書ニ虚偽ノ記載ヲ爲スニ於テハ當然文書偽造罪ヲ以テ論スヘキモノトス

四四
九六七

○帳簿上ノ記名ハ帳簿ノ内容ヲ構成スル文書ノ作成名義ヲ表示スルモノニ外ナラサルヲ以テ不法ニ他人ノ記名アル帳簿ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルノ所爲ハ刑法ニ所謂他人ノ署名ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタルモノニ該當ス

四四
九六七

○文書偽造罪ノ成立ニハ法律カ保護スル文書ノ真正ヲ詐ルニ因リ公ノ信據力ヲ害スル危険アルヲ以テ足り更ニ之ニ因リテ文書ノ作成名義ヲ冒サレタル者若クハ偽造文書ノ行使ヲ受クヘキ者ニ對シテ特別ノ法益侵害アルコトヲ必要トセス

四四
一五三二

(同主旨)

苟モ他人ノ作成名義ヲ偽リ文書ヲ偽造行使スルニ於テハ之ト同時ニ真正ナル文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危険ヲ生シタルモノトス從テ文書偽造行使罪ノ成立ニハ此以外ニ

於テ更ニ他ノ法益ヲ害シ又ハ害スヘキ危険ヲ生スルコトヲ要セス
文書偽造罪ノ成立ニハ文書ノ偽造又ハ偽造文書ノ行使ニ依リテ該文書ノ作成名義ニ對スル公
ノ信用ヲ害スル危険ヲ生スルハ足りテ其行爲ニ因テ或實害ヲ生シタルコトヲ要セス

○轉居届ハ居所移轉ノ事實ヲ證明スヘキ文書ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シ
タル所爲ハ刑法第百五十九條及ヒ第百六十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノ
トス

○文書偽造罪ヲ構成スヘキ既存文書ノ増減變更トハ效力ノ消滅シタル既
存文書ヲ利用シテ新ナル文書ヲ作成シ若クハ既存文書ノ效力ヲ全然滅
却シテ新ニ別異ノ權利關係ヲ證明スヘキ效力ヲ生セシメタル場合ヲ謂
フモノニシテ效力ノ現存セル文書ノ記載ヲ増減シテ其證明力ヲ變更シ
タル場合ヲ謂フニ非ス

○文書偽造罪ニ因リ侵害シタル法益ハ署名者各自ノ信用ニ非スシテ寧ロ
文書ノ真正ニ對スル公ノ信用ニ存スルモノナルヲ以テ偽造文書ノ侵害
スル法益ノ箇數ハ署名者ノ數ニ應シテ存在スルモノニ非ス

○他人ノ署名ヲ偽造シタル封筒ト同一人ノ署名ヲ冒用シテ作成シタル偽
造文書トハ各自別異ノ存在ヲ有シ各別ニ作成セラルルモノナルヲ以テ
其偽造罪ハ各獨立シテ成立スルモノト云フヘク右偽造ハ文書カ封筒ニ

四二

一七二四

四三

七三

四四

一七三

四四

一八四三

四五

七五

包裏セララルルヲ竣テ始メテ完成スルモノニ非ス

四五

九三

○刑法第百五十九條第一項ノ犯罪カ成立スルニハ必スシモ印章ヲ不正ニ
使用シタル事實アルコトヲ要セサルモ苟モ印章ヲ不正ニ使用シテ文書
ヲ偽造シタル事實ヲ認示シタル以上ハ其印章不正使用ノ所爲ニ付キ證
據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ說示セサルヘカラス

四五

○虚偽ノ事項ヲ公ニセントスル廣告依頼書ハ其廣告ヲ申込ミタル事實ヲ
證明スルノ具ナルヲ以テ刑法第百五十九條ニ所謂事實證明ニ關スル文
書ナリトス

四五

○同町村内若クハ同區域内ニ同姓名ノ者數人アル場合ニ於テ之ヲ特定セ
スシテ單ニ其氏名ヲ冒用シ手形ヲ偽造シ之ヲ以テ詐欺ノ手段ト爲シタ
ルトキト雖モ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

四五

八〇

○刑法第百五十九條ニ規定スル私文書偽造罪ノ成立ニハ他人ノ作成名義
ヲ冒用シテ文書ヲ作成スルコトヲ要スルモノニシテ文書ニ他人ノ署名
アルモ之ヲ其文書ノ作成名義ニ冒用セサルトキハ縱令文書ノ内容虚偽
ニ涉ルモ本罪ヲ構成セス

四五

九〇

○文書偽造ノ場合ニ於ケル作成名義人ノ署名ナルモノハ必スシモ其氏ト
名ヲ併記スルヲ要セス何人カ此文書ヲ作成シタルカヲ識別スルコトヲ

得ル程度ニ於テ其氏若クハ名ヲ表記スレハ足ルモノトス

(同主旨)

一定ノ關係アル者ノ間ニ於テハ單ニ氏若クハ名ノミヲ以テスルモ其人ヲ表彰スルニ足ルカ故ニ氏若クハ名ノミヲ表記スルモ尙ホ之ヲ署名ト謂ハサルヲ得ス

○苟モ文書ノ偽造行使アリタル以上ハ公ノ信用ヲ害シ若クハ害スル虞アルモノニシテ作成名義ヲ冒用セラレタル他人ノ方面ニ於テ損害ヲ生セス却テ利益ヲ生シ得ヘキ場合アリトスルモ文書偽造行使罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

○一定ノ人ノ名義ヲ冒シテ文書ヲ作成スルニ當リ作成者ノ誤信ニ因リ署名中ノ或文字ヲ誤記シタルトキト雖モ其文字カ誤記タルコトノ明認セラレ得ル場合ニ在リテハ文書偽造罪ヲ構成スルコト論ヲ竣タス

○他人ニ行使スル目的ヲ以テ委任者ノ署名ヲ偽造シ白紙委任狀ヲ作成シタル所爲ハ文書偽造罪ヲ構成ス

○刑法第百五十九條第一項ニ於テハ偽造罪ノ客體タル文書圖書ヲ權利義務ニ關スル事實ヲ證明スルモノノミニ限局セサルヲ以テ苟モ文書圖書ニシテ事實ヲ證明スルニ足ルヘキモノハ其事實ノ權利義務ニ關スルト否トヲ問ハス總テ文書偽造罪ノ客體タルヲ妨ケス

四五 九九五

四三 七四

四五 一〇〇九

元 二四九

元 二四二五

二 四三

○畫家ノ作成スル繪畫及ヒ之ニ題スル贊ノ如キハ刑法第百五十九條第一

項ニ所謂文書圖書ニ非スト雖モ其作成者カ之ニ某時某所ニ於テ書寫シタル旨ヲ記載シ署名捺印シタルトキハ其記載ハ畫贊ノ真正ナルコトヲ表明シタル文書ニ外ナラス

○公文書偽造變造竝ニ其行使ノ行爲ト私文書偽造變造竝ニ其行使ノ行爲トハ文書ノ性質效用ヲ異ニシ且之ニ適用スヘキ罰條ヲモ異ニスルヲ以テ同一意思ノ發動ニ基キ連續シテ右各行爲ヲ反覆スルモ各連續ノ一罪ヲ構成スヘク一箇ノ連續犯トシテ論スヘキモノニ非ス

(同主旨)

私文書偽造ノ行爲ト公文書偽造ノ行爲トハ文書ノ性質ヲ異ニスルヲ以テ共ニ連續犯ヲ構成スヘキモノニ非ス

○世話掛ヲ囑託スル辭令書ハ或事務ヲ處理スルノ權限ヲ授與スルモノナレハ即チ權利關係ヲ證明スル文書ナリトス從テ之ヲ偽造シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成ス

○偽造文書ノ行使ハ必スシモ宛名人ニ對シテノミ行ハルルニ限ラス宛名人其情ヲ知ルモ尙ホ他ニ之ヲ行使スルヲ得ヘキヲ以テ苟モ真正ノモノトシテ其效用ヲ爲サシムル目的ヲ以テ偽造セラレタル以上ハ始ヨリ情

二 四三

二 四三〇

四 三二七

二 五〇二

ヲ知レル者ニ之ヲ交付シタルニ過キサレ場合ニ於テモ亦刑法第百五十九條第一項ニ行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シタルニ該當スルモノトス

二

五三三

○金圓借用證書ヲ偽造スルニ際シ共犯者ノ一人カ父ノ實印ヲ偽造セシ事實ヲ知ラス其實印ヲ盜捺シタルモノト誤信スルモ斯ノ如キ事實上ノ錯誤ハ刑法第百五十九條第一項ニ於ケル犯罪ノ故意ヲ阻却スルモノニ非ス

二

五五九

○借用證書ニ保證人トシテ署名スルハ證書記載ノ債務ニ對シテ辨濟ヲ擔保スル意思表示ヲ爲スモノナレハ證書中ニ保證債務ノ内容ヲ明示セサルモ保證證書タルニ妨ナシ故ニ借用證書ニ保證人トシテ他人ノ署名ヲ偽造スルハ保證證書ノ偽造ニシテ署名ノ偽造ニ非ス

二

五六五

○刑法第百五十九條第一項ニ所謂他人ノ署名トハ作成者ノ誰タルヲ示スニ足ルヘキ記名ノ謂ニシテ其氏名ノ自署ノミニ限ルモノニ非サルヲ以テ苟モ作成者タル他人ノ記名ヲ使用シテ文書ヲ偽造スルニ於テハ其記名カ本人ノ氏名ヲ顯ハスモノナルト其通稱若クハ商號ヲ顯ハスモノナルトヲ問ハス又本人ノ自筆タルト他人ヲシテ代筆セシメタルト若クハ印刷ニ依リ表示シタルトニ論ナク該條項ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノ

トス

八五三

(同主旨)

苟モ一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メニ用ウル所ノ名稱ナル以上ハ其氏名ヲ記載スルト商號其他ノ符號文字ヲ記載スルトナ間ハ刑法上之ヲ署名ト認ムヘキモノナリ苟モ作成者タル他人ノ記名ヲ使用シテ文書ヲ偽造シタル以上ハ其記名カ本人ノ氏名ヲ顯ハスモノナルト商號若クハ通稱ヲ顯ハスモノナルトナ間ハス又本人ノ自筆ニ成ルト本人カ他人ヲシテ代筆セシメタルト若クハ印刷ニ因リ表示シタルトナ論セス刑法第百五十九條第一項ノ文書偽造罪ヲ構成ス

四三

四一四

四五

七九〇

○文書ノ信用ヲ害スヘキ危險カ客觀的ニハ實在スルモ偽造者カ主觀的ニ全然之ヲ否定シ又ハ全然之ヲ意識セサリシ場合ニ於テハ所謂行使ノ目的ナキモノニシテ文書偽造罪ハ成立セサルモノトス

二

一三八七

○書畫ハ唯之ニ筆者ノ落款及ヒ押印ヲ加フルコトノミニ因リテ直ニ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ト爲ルモノニ非ス

二

一四八一

○親族會員選定及ヒ招集決定書謄本ノ寫ニ同會員タル他ノ一人ノ氏名ヲ記入シタル上有合印ヲ押捺シ以テ右決定書謄本ノ寫ナル旨ノ意思ヲ表示シタル行爲ハ文書ノ偽造ニシテ署名ノミノ偽造ニ非ス

三

一七

○妻カ訴訟行爲ヲ他人ニ委任スル行爲ト妻ノ訴訟行爲ニ對スル夫ノ許可トハ全ク其性質及ヒ效果ヲ異ニスルモノナルヲ以テ縱合同一紙片ノ前

○數箇ノ偽造署名ヲ使用シテ一通ノ文書ヲ偽造シタル所爲ハ文書偽造ノ一罪ヲ構成スルモノトス

(同主旨)

他人ノ署名ヲ使用シテ一箇ノ文書ヲ偽造シタルトキハ單一ノ犯罪ヲ構成スルニ止マリ其署名者ノ員數ニ從ヒテ數箇ノ犯罪成立スルモノニ非ス
二人ノ保證セル金圓借用證書ヲ偽造行使スルモ其偽造及ヒ行使ノ所爲ハ各一箇ニシテ一ノ偽造罪ト一ノ行使罪ヲ構成スルニ過キサルモノトス
數人ノ署名ヲ冒シテ刑法第五十九條第一項ニ該當スル一箇ノ私文書ヲ偽造シ之ヲ行使シタル場合ニ於テハ其署名者ノ數ニ關係ナク私文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ナル一箇ノ利益ヲ侵害シタルモノニ外ナラサルハ一箇ノ行爲ニ依リテ數箇ノ罪名ニ觸レタルモノト云フヲ得ス

(反對)

單一ナル意思ノ發動ニ因リ同時ニ二人以上ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務ニ關スル一箇ノ文書ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナリトス

○數人ノ署名ヲ偽造シ同一内容ヲ有スル事實證明ノ文書ヲ作成シタル所爲ハ文書偽造ノ一罪ヲ構成スルモノニシテ署名者ノ數ニ應シテ數箇ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノニ非サレハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當セス

四	四	四	四	四	四	四	四
二二四	三三三	八五四	一三三	一三九	二二五	二六六	

○新聞紙ニ掲載セル他人ノ寄書又ハ廣告ハ寄書家又ハ廣告依頼者ノ作成ニ係ル私文書ニシテ編輯人又ハ發行人ノ作成セル文書ニ非ス

二二〇

○情ヲ知ラサル新聞社員ヲシテ他人ノ名義ヲ冒シタル虛偽ノ廣告文ヲ其新聞紙ニ掲載セシメタル所爲ハ私文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

二二〇

○新聞紙ノ如キハ其多數ヲ刷出シ頒布スヘキ性質ノモノニシテ偽造文書ヲ之ニ掲載頒布セシメタル者ノ如キモ亦之ヲ豫期シ得ヘキモノナレハ偽造及ヒ行使ノ各所爲ハ連續犯ヲ構成スルモノトス

二二〇

○後見人カ被後見人ノ地所ヲ抵當トシ金四百圓ヲ借入ルルカ爲メニ交付セラレタル金額記載ナキ親族會ノ同意書ニ擅ニ金額ヲ千圓ト記入シタル行爲ハ親族會員ノ署名捺印ヲ冒用シテ新ニ金千圓ノ借入及ヒ右借入ニ必要ナル抵當權ノ設定ニ關スル同意書ヲ作成シタルモノニシテ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

二〇一

○文書ノ内容ヲ詐リ他ノ事項ニ關スル文書ナルカ如ク欺キ之ニ作成者トシテ他人ニ署名捺印セシメ之ヲ利用シテ一定ノ文書ヲ完成シタルトキハ縱合其署名者若クハ代筆者カ署名中ノ或文字ヲ誤記シタル場合ト雖モ當該署名者ノ文書ヲ偽造シタルモノト謂ヒ得ヘキモノトス

二四〇

○自己ノ占有スル他人ノ白紙賣渡證書ヲ横領シ之ヲ材料トシテ文書ヲ偽

二四〇

造シタル場合ニ於テハ横領ト偽造トハ手段又ハ結果ノ關係ヲ有セス各
獨立罪ヲ構成スルモノトス

○文書ノ要部カ既ニ作成セラレアル場合ト雖モ苟モ其内容ヲ成スヘキ月
日竝ニ債權者名ヲ附加記載シタルトキハ當該文書ハ之ニ依リテ完成シ
タルモノト認ムルヲ相當トス

○既存文書ト雖モ承諾ナキ他人ノ氏名ヲ冒書シ恰モ其者カ文書ノ旨趣ヲ
承認シタルモノノ如ク裝フトキハ其氏名ヲ冒用セラレタル者トノ關係
ニ於テ新ニ作成アリタルト異ナル所ナキヲ以テ文書偽造罪ヲ構成スヘ
キモノトス

○署名者ヲシテ證書ノ内容ヲ誤認セシメタル結果之ニ署名捺印セシムル
ニ於テハ其欺罔手段ハ證書偽造ノ手段ニ外ナラスシテ署名者ハ偽造ノ
器械ニ使用セラレタルモノナレハ證書ノ内容ヲ認識シ乍ラ詐欺手段ニ
依リテ之ヲ騙取セラレタル場合ト相異ナルコト論ヲ竣タス

(同主旨)

依頼者ノ文盲ナルニ乘シ行使ノ目的ヲ以テ其意思ニ反スル文書ヲ作成シ依頼者ヲ欺キ之ニ署
名捺印セシメタル所爲ハ刑法第百五十九條第一項ニ該當シ詐欺罪ヲ以テ問擬スヘキモノニ非
ス
入ヲ欺罔シ他ノ文書ナリト誤信セシメ之カ内容ヲ了知セシメスシテ其署名捺印アル權利義務

四三

五

五

五

四

一六四七

七〇五

一一三

一〇一

二〇二九

ニ關スル文書ヲ作成シ之ヲ自己ニ交付セシメタルトキハ文書偽造罪ヲ成立セシメ別ニ詐欺罪
ヲ構成スルモノニ非ス

四四

八一七

入ノ文盲ナルニ乘シテ證書ノ作成名義人ヲ欺罔シ之カ内容ヲ了知セシメスシテ其署名ノ下ニ
捺印セシメ以テ證書ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成シ證書騙取罪ヲ構成スルモノニ非
ス

四四

一五三

○甲者カ乙者名義ノ文書ヲ偽造シ之ヲ郵便ニ付シテ丙者ニ發送スルモ此
事實ノミニ依リテハ未タ丙者ヲシテ偽造文書ノ内容ヲ認識セシムヘキ
状態ニ置キタルモノト云フヲ得サレハ之ヲ偽造文書行使ノ既遂罪ニ問
擬シタル判決ハ不法ナリ

五

二三八

○苟モ證書ノ偽造カ行使ノ目的ニ出テタル以上ハ常ニ犯罪ヲ構成スルモ
ノニシテ其使途ノ如何ハ之カ成否ニ影響ヲ及ホスコトナシ
○文書ハ實質上數箇ノ法律關係ヲ包含スルトキト雖モ其形式ニ於テ不可
分ナルトキハ之ヲ單一ナリト認ムヘキモノトス

六

一六二

○苟モ實在セル他人ノ氏名ヲ冒用シ文書ヲ作成シタル以上ハ其検査役タ
ル資格ノ虛無ナルト否トヲ問ハス文書偽造罪ノ構成要件ヲ具備スルモ
ノトス

六

八五四

○衆議院議員候補者ノ推薦狀ハ推薦ノ事實ヲ直接ニ證明スル文書ナルカ
故ニ之ヲ偽造スルトキハ刑法第百五十九條第一項ノ犯罪ヲ構成スルモ

ノトス

○職務又ハ權限ノ行使ニ基クニ非スシテ個人カ法人ノ作成名義ヲ冒用シ擅ニ法人ノ資格ニ於テ虚偽ノ事實ヲ内容トスル文書ヲ作成スルハ單純ニ自己ノ文書ニ虚偽ノ事實ヲ掲載シタルモノト性質ヲ異ニシ該文書ハ法人ノ文書ノ外觀ヲ有スルニ拘ハラズ其成立真正ナラサルヲ以テ其行爲ハ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

○取締役カ自己ノ爲メニ文書ヲ作成スルニ當リ擅ニ會社ノ名義ヲ使用シテ會社ノ資格ニ於テ文書ヲ作成スルハ文書ノ偽造ニ外ナラサルモノトス

○取締役カ其地位ヲ濫用シテ私用ノ金圓ヲ調達スル爲メ取締役ノ資格ヲ冒シテ手形ヲ作成シ又ハ自己ノ犯セル横領罪ノ證據ヲ隱蔽スル目的ヲ以テ會社ノ帳簿ニ虚偽ノ事實ヲ記載シタルトキハ手形又ハ文書ノ偽造ニ付キ取締役タル資格ナキ者ノ犯セルト等シク罪責ヲ免レサルモノトス

(同主旨)

株式会社ノ取締役カ自己ノ利益ノ爲メ若クハ他人ニ利益ヲ得セシムル爲メ擅ニ會社ノ名義ヲ冒用シ定期預金證書ヲ作成シタルトキハ何等ノ權限ナキ者ニ於テ取締役ノ名義ヲ冒用シ該證書ヲ作成シタル場合ト同シク文書ノ實質ノ外其作成資格ヲモ偽リタルモノトス從テ其所爲ハ

六

1165

六

1154

六

1154

六

1101

文書偽造罪ヲ構成ス

○取締役カ其作成スル文書ニ虚偽ノ事實ヲ記載スルトキハ之ヲ以テ悉ク文書偽造罪ニ問擬スヘキモノトスルハ刑法ノ精神ニ反スルモノトス

○會社設立登記ノ申請書ハ取締役監査役ノ文書ニ外ナラサレハ其内容ニ虚偽ノ記載アリト雖モ之ヲ以テ文書偽造罪ナリト云フヲ得ス

○被告カ通信事務員トシテ郵便物ノ區分ニ從事中爲替證書在中ノ郵便物ヲ竊取シ尙ホ爲替證書ニ受取人ノ氏名ヲ偽署シ名下ニ偽造印ヲ押捺シ之ヲ郵便局ニ提出行使シタルトキハ該文書偽造ト其行使トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條後段第十條ヲ適用スヘキモノナリト雖モ此等ノ罪ト如上竊盜罪トノ間ニハ牽連關係ヲ存セス全然并立スル犯罪ナルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス

○縱令人格ヲ有セサルモ取引關係ニ於テ獨立ノ人格者ト同様ニ取扱ハルヘキ一定ノ管理者ノ下ニ存在スルモノノ名稱ハ之ヲ刑法第百五十九條ニ所謂他人ノ署名ト稱スルヲ妨ケサルモノトス

○牽連罪ノ手段タル文書ノ偽造行爲カ舊刑法時代ニ在リテ既ニ完成シ而モ當時ニ在リテハ單純ナル文書ノ偽造ハ法律上罪トシテ論セザリシトスルモ苟モ其結果タル文書ノ行使カ刑法時代ニ行ハレタル以上右兩箇

四二

1170

六

1160

六

1161

七

1137

七

1156

ノ行爲ヲ通シ相合シテ牽連ノ一罪ヲ構成スヘキヲ以テ右文書偽造ノ所爲ニ對シテハ刑法第五十九條第一項ヲ適用シ其行使ノ所爲ニ對シテハ同第六十一條第一項第五十九條第一項ヲ適用シ其間手段結果ノ關係アルヲ以テ同第五十四條第一項ヲ適用シ之ヲ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

九〇九

○私書變造及ヒ其行使罪ト横領罪トノ間ニ因果ノ關係アルトキハ刑法第五十四條ニ依リ重キニ從ヒ一罪トシテ之ヲ處分スヘキモノトス故ニ該犯罪ノ一部ニシテ重罪ナル以上ハ重罪ノ手續ヲ以テ其全部ヲ審理セサルヘカラス

四

一〇九七

○如上ノ債權證書中ノ一字ヲ改描シテ其内容ヲ變更シタルトキハ無効ニ歸シタル既存ノ文書ヲ利用シテ新規ノ效力ヲ有スヘキ文書ヲ作成シタルモノニ非サルヲ以テ文書偽造罪ニ非スシテ文書變造罪ニ該當スルモノトス(諸法令中民法第一編第六章時効第一節總則四五年二三一頁參照)

四五

二三二

○銀行ノ仕拂傳票ハ金圓ヲ支拂フヘキ旨ノ意思ヲ表示スルモノナルヲ以テ刑法上ニ所謂文書ナリ從テ之ヲ偽造シタル行爲ハ刑法第五十九條第三項ニ該當スルモノトス

三

四七八

(同罪)

銀行ノ出金票ハ金員支拂ヲ命令スル傳票ニシテ權利義務ニ關スル證書ナントモ其效用ノ署名者ヲ要セサルカ故ニ之ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第五十九條第三項ニ該當スルモノトス

四三

一八九

(第六十條)

『第六十條』

○應召員カ演習召集ヲ免ルル爲メ醫師ニ依囑シテ虛偽ノ診斷書ヲ作成セシメ之ヲ當該官廳ニ提出シテ召集ニ應セサリシトキハ其各行爲ノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

四三

二七〇

○醫師カ自ラ診察セサルニ拘ハラズ診斷書ヲ作成シ診斷ノ内容ニ關スル虛偽ノ記載ヲ爲シテ之ヲ交付シタルトキハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ刑法第五十四條第一項前段ニ依リ處斷スヘキモノトス

五

七一

○醫師カ公務所ニ提出スヘキ診斷書ヲ作成スルニ當リ自ラ診察ヲ爲サスシテ診斷ニ關スル虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ刑法第六十條ノ犯罪ヲ構成ス

五

七一

○醫師カ其作成スル診斷書ノ公務所ニ提出スルモノナルコトヲ知了シ乍ラ人ノ健康状態ニ關スル診斷ノ結果ニ付キ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタル

行為ハ刑法第六十條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
○刑法第六十條ニ所謂公務所ニ提出スヘキ診斷書ハ醫師ニ於テ自ら提出スルモノナルト否トヲ論セス汎ク公務所ニ提出セラルヘキ診斷書ヲ包含スルモノトス

五 二七九

○刑法第六十條ノ處罰規定ハ虛偽ノ證明ヲ禁止スルノ旨趣ニ出テタルモノナレハ所謂虛偽ノ記載タルニハ其診斷書等ノ記載カ實質上眞實ニ違背スルコトヲ要ス從テ其記載カ實質上眞實ニ適合セルニ拘ハラズ單ニ之ヲ作成スル醫師ニ於テ不實ト誤信シタル場合ノ如キハ犯罪ヲ構成セサルモノトス

五 二七九

○刑法第六十條ニ所謂醫師ノ診斷書トハ醫師カ診察ノ結果ニ關スル判斷ヲ表示シテ人ノ健康上ノ状態ヲ證明スル爲メニ作成スル文書ヲ指稱スルモノニシテ傳染病豫防法第三條ノ規定ニ依リ醫師カ傳染病患者ヲ診斷シタルコトアル旨ノ届出ヲ爲ス爲メニ作成スル届書ノ如キモノヲ包含セサルモノトス

六 一七九

〔第六十一條〕

○苟モ偽造ノ證書ヲ眞正ノ證書トシテ他人ニ提出シ或證明ノ用ニ供スルニ於テハ其證書ノ本旨ニ從ヒ之ヲ使用シタル場合ト同シク行使ノ事實

アルモノトス

○有價證券ノ偽造ト其行使又ハ文書圖畫ノ偽造ト其行使トハ同一犯人ニ依リテ遂行セラレタルト否トヲ論セス各獨立シタル二箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四二 一三〇
四二 一三七

(反對)

行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキハ其行使ヲ待タズシテ刑法第五十九條ノ文書偽造罪ヲ構成スルモ之ヲ偽造シテ行使シタルトキハ單ニ同第六十一條ノ偽造文書行使罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

四二 一三六
四二 一三八

犯人カ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シテ自ら之ヲ行使シタル場合ニハ其所爲ハ偽造シテ行使シタル一罪ニシテ偽造ト行使トノ二罪ニ非ス

四二 一三八

○行使ノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造シ其目的ニ從ヒテ之ヲ行使シタルトキハ其偽造ノ所爲ハ行使ノ手段ト爲リ又行使ノ所爲ハ偽造ノ結果ニ外ナラサレハ刑法第五十四條ヲ適用シテ之ヲ處斷スヘキモノトス

四二 一三七

○戶籍吏ニ對シ偽造ノ養子縁組届書ナルコトヲ告ケテ之ヲ受付ケ戶籍役場ニ備付ケシメタル所爲ハ偽造文書行使罪ヲ構成ス

四二 一三四

○告訴又ハ告發ノ代人ハ證據書類ノ眞偽ヲ判別シ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ

司法警察官又ハ検事ニ提出スルモノトス故ニ本人タル被告人ノ目的ハ偽造證書ヲ當該官吏ニ提出シテ事實證明ノ具ニ供セントスルニ在ルモ之ヲ真正ノ證書トシテ代人ニ交付スルトキハ其瞬間ニ於テ偽造證書行使罪ヲ完成スルモノナリ

四二

一〇三五

○合資會社ノ清算人カ會社ノ帳簿書類ヲ偽造シ之ヲ會社ニ備付ケタルトキハ直ニ偽造文書行使罪ヲ構成ス而シテ一旦其偽造書類ヲ備付ケタル以上ハ爾後之ヲ破毀若クハ抹消シ社員ヲシテ閱覽シ能ハサラシムルコトアルモ既ニ成立シタル犯罪ニ何等ノ消長ヲ來スコトナシ

四二

一〇六一

○偽造ノ登記申請書ヲ登記官吏ニ提出シテ行使シタル行為ト登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル行為トハ互ニ相牽聯シテ手段結果ノ關係ヲ有スルモ元來別箇ノ行為ニシテ同一行為ニ非ス

四二

一〇六七

○他人名義ノ白紙委任狀ヲ寄託セラレタル者カ其名義者ノ承諾ヲ得スシテ受託ノ當時限定セラレタル方法以外ニ使用スル目的ヲ以テ其委任狀ニ一定ノ文字ヲ記入シ之ヲ行使シタルトキハ文書偽造行使罪ヲ構成ス苟モ他人ノ作成名義ヲ偽リ文書ヲ偽造行使スルニ於テハ之ト同時ニ真正ナル文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ生シタルモノトス從テ文書偽造行使罪ノ成立ニハ此以外ニ於テ更ニ他ノ法益ヲ害シ

四二

一〇〇〇

又ハ害スヘキ危險ヲ生スルコトヲ要セス

四二

一七二四

○偽造文書ノ行使ハ偽造ノ當初ニ於テ特定セル事實タルコトヲ要セス犯人カ後日ニ至リ該文書ヲ行使シタルトキハ其行使ハ即チ偽造ノ目的タル所爲ニシテ其結果ト云フヲ妨ケス

四三

三六

○他人名義ノ金圓借用證書及ヒ延期證書ヲ偽造シ同時ニ之ヲ使用シタルトキハ其行為ハ一箇ナレトモ二箇ノ偽造文書行使ナル罪名ニ觸ルルモノトス

四三

四二九

○應召員カ演習召集ヲ免ルル爲メ醫師ニ依頼シテ虛偽ノ診斷書ヲ作成セシメ之ヲ當該官廳ニ提出シテ召集ニ應セサリシトキハ其各行為ノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

四三

一一七〇

○數人ノ署名ヲ冒シテ刑法第一百五十九條第一項ニ該當スル一箇ノ私文書ヲ偽造シ之ヲ行使シタル場合ニ於テハ其署名者ノ數ニ關係ナク私文書ノ作成名義ニ對スル公ノ信用ナル一箇ノ法益ヲ侵害シタルモノニ外ナラサレハ一箇ノ行為ニ依リテ數箇ノ罪名ニ觸レタルモノト云フヲ得ス

四三

一三三九

(同主旨)

二人ノ保證セル金圓借用證書ヲ偽造行使スルモ其偽造及ヒ行使ノ所爲ハ各一箇ニシテ一ノ偽

造罪ト一ノ行使罪ヲ構成スルニ過キサルモノトス

○偽造文書ノ行使ハ其文書ノ原本ヲ真正ニ作成セラレタルモノトシテ他人ノ閲覧ニ供スルニ因リ成立ス從テ該文書ノ謄本ヲ他人ニ示シ若クハ其内容形式ヲ口頭又ハ文書ニ依リ他人ニ告知スルノミニテハ未タ偽造文書ヲ行使シタルモノト云フヲ得ス

○駐在巡查ハ警察署長カ其事務ヲ執行スル補助機關ナルヲ以テ同署長ニ對シ提出スヘキ書類ヲ差出ス者アルトキハ之ヲ受取り所屬警察署ニ進達スルノ職責ヲ有ス從テ海外渡航許可願ニ關スル偽造證書ヲ巡查駐在所ニ提出シタル所爲ハ偽造文書行使罪ヲ構成ス

○金圓ヲ騙取セント企テ意思ヲ繼續シテ數次ニ虛偽ノ借用證書ヲ行使シ其目的ヲ遂ケタルトキハ刑法第五十四條第一項ニ依リテ之ヲ處分スヘキモノトス

○偽造ノ銀行預金通帳ヲ真正ノモノトシテ預人ニ交付シタル以上ハ真正ノ文書ニ對スル公ノ信用ヲ害スル危險ヲ生シタルコト勿論ナレハ其所爲ハ偽造文書行使ノ既遂犯ヲ構成スルモノトス

○轉居届ハ居所移轉ノ事實ヲ證明スヘキ文書ナルヲ以テ之ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法第一百五十九條及ヒ第六十一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

トス

○偽造又ハ虛偽ノ事項ヲ記載シタル文書等ヲ行使シテ物ヲ騙取シタル場合ニ於テハ其行使ノ行爲ハ詐欺罪構成ノ要件タル欺罔ノ手段タルニ過キスシテ欺罔其モノニ非サルヲ以テ直ニ詐欺罪ノ構成要件ト爲ルモノニ非ス

○刑法第六十一條第一項ハ偽造變造ノ文書ヲ行使シタル者ヲ罰スルノ旨趣ニシテ其偽造變造ノ行爲カ犯罪行爲タルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

○偽造ニ係ル印鑑證明書及ヒ金圓借用證書ヲ同時ニ行使シタルトキハ即チ一箇ノ所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトス

○文書偽造行使罪ニ於ケル偽造文書ノ行使ニ付キテハ犯人カ偽造文書ヲ相手方ニ提示シテ現ニ其内容ヲ認識セシメ又ハ其他ノ方法ニ依リ相手方ヲシテ之ヲ認識スルコトヲ得セシムヘキ状態ニ置クコトヲ要ス從テ偽造文書カ直接自己ノ手裡ニ存セサルモ尙ホ自己ノ監督内ニ在リテ人ノ之ヲ認識スルコトヲ妨ケ得ルトキハ未タ其行使ナキモノトス

○娼妓名簿登錄申請書ヲ偽造行使シタル所爲ハ刑法ニ於ケル文書偽造行

八五四

二四五二

一七七八

三三七

四五八

一七三三

一八七一

四四五

九三三

一三八七

使罪ニ該當スルト同時ニ娼妓取締規則ニ違反スルモノニシテ兩者其侵害スル法益ヲ異ニスルモノナレハ之ヲ數箇ノ罪名ニ觸ルル一箇ノ行為ト認ムヘク單ニ偽造申請書行使ノ一罪ノミニ問擬スヘキモノニ非ス

○司法警察官カ犯罪捜査ノ爲メ被告人ノ供述ヲ聽取スルニ際シ之ニ對シテ偽造文書ヲ呈示シタルトキハ該文書ノ行使アリタルモノトス

○詐欺ヲ爲ス目的ヲ以テ偽造文書ヲ情ヲ知ラサル訴訟代理人ニ交付シ裁判所ニ提出セシメタルトキハ其代理人ニ對シテ偽造文書ノ行使アルハ勿論訴訟代理人ノ手ヲ藉リ裁判所ニ對シ欺罔手段ヲ施スモノニ外ナラサレハ裁判所ニ對シテモ行使ノ事實ヲ認ムルヲ至當トス

○偽造シタル借用證書ヲ真正ナルモノトシテ確定日附ヲ得ル爲メ公證人ニ提出シタルトキハ偽造文書ノ行使アリタルモノトス

○裁判所カ亡甲者ノ家督相續人選定ノ爲メ乙丙丁ノ三名ヲ親族會員ニ選定シ某月日其招集ヲ爲ス旨ヲ決定シテ適法ニ該決定書ヲ右三名ニ送達シタル以上ハ縱令丁者カ無届缺席スルモ將タ其事實ヲ知ラサリシトスルモ會員ノ過半数タル乙丙兩名ニ於テ有效ニ甲者ノ相續人ヲ選定シ得ヘキモノトス故ニ被告カ丁者ノ署名印章ヲ冒用シテ相續人選定決議書ヲ作成シ戸籍吏ニ届出テ戸籍簿ニ登記セシムルモ文書偽造及ヒ其行使

三

八四二

三

一八〇

三

二〇七

三

二五七

罪ノ成立スルハ格別刑法第百五十七條第一項ノ罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○偽造文書ヲ相手方ノ代理人ヲ經由シテ相手方ニ交付セシメタル行為ハ法律上包括シテ之ヲ觀察シ單一ナル偽造文書行使罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

○偽造證書ヲ真正ニ成立シタルモノトシテ裁判所ニ提出セシムル爲メ情ヲ知ラサル訴訟代理人ニ交付シタル行為ハ偽造文書行使罪ヲ構成スルモノトス

三

二五七九

四

二二六

四

六四五

(同罪)

苟モ偽造ノ證書ヲ真正ノ證書トシテ自己ノ訴訟代理人ニ交付シタル以上ハ縱令其最終ノ目的ハ裁判所ニ之ヲ提出セントスルニ在ルモ訴訟代理人トノ關係ニ於テ該證書ヲ事實證明ノ用ニ供シタルモノニ外ナラサレハ偽造證書行使ノ事實アルモノトス

四

四八一

○新聞紙ノ如キハ其多數ヲ刷出シ頒布スヘキ性質ノモノニシテ偽造文書ヲ之ニ掲載頒布セシメタル者ノ如キモ亦之ヲ豫期シ得ヘキモノナレハ偽造及ヒ行使ノ各所爲ハ連續犯ヲ構成スルモノトス

○代表者カ法人ヲシテ關稅ヲ免レシムル爲メ他人ノ文書ヲ變造行使シタルトキハ法人ニ對スル關稅法違反罪ノ外別ニ代表者其人ニ於テ文書變

四

一三〇〇

造行使ノ罪責ヲ負フヘキモノトス

○時ヲ異ニシテ順次ニ數通ノ私文書ヲ偽造シタル後各文書ヲ一括シテ同時ニ單一ノ動作ヲ以テ之ヲ行使シタル場合ニハ刑法第五十五條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○偽造證書ヲ行使シテ受訴裁判所ヲ欺罔シ訴訟ノ相手方ヨリ財物ヲ交付セシメント企テ該證書ヲ證據物トシテ情ヲ知ラサル訴訟代理人ニ交付シ其手ヲ經テ之ヲ提出セシメタル行爲ハ畢竟欺罔手段ニ依リ勝訴ノ判決ヲ得ント欲スル包括的意思ノ發動ニ出テタルモノナレハ包括的一罪トシテ處斷スヘキモノニシテ連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非ス

(同主旨)

偽造證書ヲ證據物トシテ情ヲ知ラサル訴訟代理人ニ交付シ其者ヲシテ之ヲ裁判所ニ提出セシムル行爲ハ包括的一箇ノ偽造文書行使罪ヲ構成スルモノトス

○偽造若クハ變造文書行使罪ハ偽造若クハ變造ニ係ル文書ヲ真正ノモノトシテ他人ニ呈示スルニ因リテ成立スルモノニシテ文書ノ内容ノ旨趣ヲ主張シテ其作成名義人ニ對シ之ヲ行使スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナキモノトス

○銀行ノ休業中ナルト否トヲ問ハス銀行ノ帳簿ニ一部分ノ偽造ヲ爲シ銀

行内ノ特殊ノ關係ヲ有スル者ノ觀覽シ得ヘキ状態ニ置クトキハ即チ備付ニ依ル行使アリタルモノトス

○牽連罪ノ手段タル文書ノ偽造行爲カ舊刑法時代ニ在リテ既ニ完成シ而モ當時ニ在リテハ單純ナル文書ノ偽造ハ法律上罪トシテ論セサリシトスルモ苟モ其結果タル文書ノ行使カ刑法時代ニ行ハレタル以上右兩箇ノ行爲ヲ通シ相合シテ牽連ノ一罪ヲ構成スヘキヲ以テ右文書偽造ノ所爲ニ對シテハ刑法第五十九條第一項ヲ適用シ其行使ノ所爲ニ對シテハ同第六十一條第一項第五十九條第一項ヲ適用シ其間手段結果ノ關係アルヲ以テ同第五十四條第一項ヲ適用シ之ヲ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

(第六十二條)

『第六十二條』

○有價證券ノ偽造ト其行使又ハ文書圖畫ノ偽造ト其行使トハ同一犯人ニ依リテ遂行セラレタルト否トヲ論セス各獨立シタル二箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス(第五十四條第一項後段四二年一二七頁參照)

○他人ノ印章ヲ偽造シ且之ヲ使用シテ有價證券ヲ偽造シタル場合ニ於テ

刑法 罪 有價證券偽造ノ罪

二二三

四

一七四五

五

八

五

八〇九

四

六四五

六

三〇五

六

一五四一

七

九〇九

四

一三七

ハ印章偽造及ヒ偽造印章使用ノ所爲ハ孰レモ刑法第六十二條第一項ニ規定スル有價證券偽造ノ所爲中ニ包含處罰セラルヘキモノトス從テ此場合ニハ刑法第六十七條第一項及ヒ第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス

四二

八四一

(同主旨)

刑法第六十二條ニハ第五十五條第五十九條等ニ於ケルカ如ク特ニ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シ云云ノ文詞ナキモ有價證券ノ偽造變造等ノ場合ニ於テハ偽造印章使用等ノ所爲ハ自ラ證券偽造ノ所爲中ニ包含處罰セラルルコト明カナルヲ以テ特ニ其旨ヲ明揭セサリシモノトス

四二

六一

○小切手ハ刑法第六十二條ニ所謂有價證券ナリトス

四二

二九六

○鑛業所計理課カ其出納方ニ宛テ發行スル勞銀券ハ有價證券ニ非スシテ單純ノ私文書ナリ

四二

一五五

○刑法第六十二條ニ所謂有價證券トハ證券上表示セラレタル權利ノ行使ニ其證券ノ占有ヲ必要トスルモノヲ汎稱ス從テ約束手形ノ如キハ其性質上當然之ニ包含セラルヘキモノトス

四二

二〇三

(同主旨)

刑法ニ所謂有價證券トハ證券上表示セラレタル權利ノ行使ニ其證券ノ占有ヲ必要トスルモノヲ汎稱ス從テ約束手形ノ如キハ其性質上當然之ニ包含セラルヘキモノトス

四二

二六一

○官ノ印影ヲ不正ニ使用シテ公債證書ヲ偽造シ之ヲ行使シタルトキハ其官印不正使用ノ點ハ證書偽造ノ行爲ト相合シ包括シテ刑法第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ別ニ同第六十五條第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス

四三

三〇三

○裏書人ヲシテ金額ノ記載ナキ手形用紙ニ署名捺印セシメタル後其承諾セサル金額ヲ記入シ之ヲ振出タル所爲ハ振出行爲トシテハ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス然レトモ振出人カ裏書人ノ署名捺印ヲ該金額ノ裏書ニ利用シタルハ即チ擅ニ裏書ヲ偽造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ其手形ヲ行使スルニ於テハ裏書偽造行使ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス

四三

二五八

○同一意思ノ發動ニ因リ數通ノ手形ヲ偽造シタルトキハ縱令同時ニ之ヲ行使スルモ數行爲トシテ連續犯ヲ構成スルモノトス

四三

二五八

○被告人カ株式賣買ノ擔保義務ヲ不法ニ免脱セント企テ先ツ甲銀行頭取名義ノ預金手形ヲ偽造シ乙銀行ヲ欺キ同行カ丙銀行ニ對シテ有スル預金ヲ甲銀行ニ振替ヘタル後頭取ノ名義ヲ冒シテ小切手ヲ偽造シ之ヲ丁者ニ交付シテ賣買ノ證據金ニ代用シタルトキハ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス

四三

一九四

○會社ノ取締役ハ其權限外ノ事項ニ付キ會社ヲ代表スルノ資格ヲ有セサ

- レハ其權限ヲ踰越シテ會社ノ名義ヲ用キ小切手ヲ振出シタル行爲ハ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス
- 荷爲替手形ハ商法ニ所謂爲替手形ニシテ單ニ之ニ動的擔保ヲ附シタルニ過キササルヲ以テ刑法第六十二條ノ有價證券ニ外ナラス
- 東亞同文會ハ法人ニ非サルヲ以テ其編纂局ハ人格ヲ有セサルコト勿論ナリト雖モ同局代表者タル主幹者ノ資格ヲ詐リテ爲シタル手形ノ署名ハ右團體ニ屬スル編纂局員ノ總代名義ヲ詐リタルモノニシテ他人ノ作成名義ヲ詐リタルモノニ外ナラス
- 凡ソ行使ノ目的ヲ以テ他人ノ振出シタル手形ノ振出日附若クハ受取日附ヲ妄ニ改竄スルノ行爲ハ手形ノ一部分ニ不法ナル變更ヲ加フルモノナレハ縱令之ニ因リ振出人若クハ受取人ニ實害ヲ及ホササル場合ト雖モ手形變造罪ヲ構成スルモノトス
- 刑法第六十二條ニ規定スル有價證券偽造罪ハ內國ニ於テ發行又ハ流通スル有價證券偽造ノ場合ヲ除外シタルモノトス
- 一箇ノ約束手形ヲ偽造シ之ニ數多虛偽ノ裏書ヲ記入スルモ其表裏ノ記入相合シテ裏書擔保アル一箇ノ有價證券ヲ形成スルニ過キサレハ其所

四三

二〇三

四四

七三

四四

八三

三三

七六

三三

二二

爲ハ單ニ刑法第六十二條第一項ノ有價證券偽造ノ一罪ヲ構成スルモノトス

○電車乘車券ハ刑法ニ所謂有價證券ナリ

四四

三五

○鐵道無賃乘車券ハ流通性ヲ有セサルモ乘車ニ付キ使用セシムル目的ヲ以テ發行シタル一種ノ證券ニシテ之ニ表示セラルル財産上ノ權利ノ行使ニ其占有ヲ必要トスルモノナレハ刑法第六十二條ノ所謂有價證券ニ該當ス

五二

七三

(同三)

鐵道營業法ノ規定ニ依ル乘車券ハ其證券ニ表示セラルル財産上ノ權利ノ行使ニ付キ該證券ノ占有ヲ必要トスルモノナレハ刑法第六十二條ノ所謂有價證券ニ外ナラス

三三

二〇〇

○取締役カ其地位ヲ濫用シテ私用ノ金圓ヲ調達スル爲メ取締役ノ資格ヲ冒シテ手形ヲ作成シ又ハ自己ノ犯セル横領罪ノ證據ヲ隱蔽スル目的ヲ以テ會社ノ帳簿ニ虛偽ノ事實ヲ記載シタルトキハ手形又ハ文書ノ偽造ニ付取締役タル資格ナキ者ノ犯セルト等シク罪責ヲ免レサルモノトス

六六

一六〇

效力ノ有無ハ同罪ノ成否ニ何等ノ關係ナシ

○約束手形ハ其満期日後ト雖モ有效ニ裏書讓渡ヲ爲シ得ヘキモノトス從テ其裏書ヲ偽造シタル者ハ刑法第六十二條第二項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

○有效ニ成立シタル約束手形ニ裏書ヲ偽造スルハ刑法第六十二條第二項ニ所謂有價證券ニ虚偽ノ記入ヲ爲シタルモノナリトス

○刑法第六十二條第二項ニ所謂虚偽ノ記入トハ有價證券ニ眞實ニ反スル記載ヲ爲ス總テノ行爲ヲ指稱スルモノニシテ其記入ノ形式カ他人ノ署名ヲ冒用スルト否トヲ區別スルコトナシ

○貨物引換證ニ於ケル荷送人及ヒ運送人ノ記載カ同一名義人ナルカ如キ實質上商法ノ規定ニ違背スルカ爲メ無効ナリトスルモ形式上ヨリ有價證券トシテ認ムルニ於テ更ニ妨アルコトナシ

○苟モ行使ノ目的ヲ以テ形式上人ヲシテ有價證券ト誤信セシムル程度ニ於テ虚偽ノ記入ヲ爲スニ於テハ刑法第六十二條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス

第六十三條

○有價證券ノ偽造ト其行使又ハ文書圖畫ノ偽造ト其行使トハ同一犯人ニ

第六十三條

四三	九七
四五	二九一
二	四七七
二	七〇五
二	七三三
二	七三三

依リテ遂行セラレタルト否トヲ論セス各獨立シタル二箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス(第五十四條第一項後段四二年一二七頁參照)

○裏書人ヲシテ金額ノ記載ナキ手形用紙ニ署名捺印セシメタル後其承諾セサル金額ヲ記入シ之ヲ振出シタル所爲ハ振出行爲トシテハ何等ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非ス然レトモ振出人カ裏書人ノ署名捺印ヲ該金額ノ裏書ニ利用シタルハ即チ擅ニ裏書ヲ偽造シタルモノニ外ナラサルヲ以テ其手形ヲ行使スルニ於テハ裏書偽造行使ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス

○同一意思ノ發動ニ因リ數通ノ手形ヲ偽造シタルトキハ縱令同時ニ之ヲ行使スルモ數行爲トシテ連續犯ヲ構成スルモノトス

○偽造手形ノ行使ハ手形本來ノ效用ニ從ヒ之ヲ流通ニ措ク場合ノミニ限ラス汎ク偽造ノ手形ヲ眞正ノ手形トシテ使用スルコトヲ指稱スルモノトス(同一判例四四年四八二頁)

○甲者カ乙者ヲシテ流通セシムル爲メニ非サルモ其親族ニ呈示セシムル爲メ手形ヲ偽造シ眞正ノ手形トシテ之ヲ交付シタル所爲ハ即チ偽造手形ノ行使ニ外ナラス(同一判例四四年四八二頁)

○刑法第六十三條ニ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者トアルハ

四三	二二七
四三	六八九
四三	二五八
四	八三三
四	八三三

○偽造ノ有價證券ヲ行使セシムル意思ヲ以テ之ヲ情ヲ知ル他人ニ交付シタル場合ヲ規定シタルモノニシテ其交付ヲ受ケタル者カ後日ニ至リ之ヲ行使セサルコトアリトスルモ同罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

四四

九七

○有價證券偽造行使罪ト詐欺罪トハ其侵害スル法益ヲ同フセサルカ故ニ有價證券ヲ偽造シ其行使ヲ手段トシテ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルトキハ其詐欺ノ點ヲ有價證券偽造行使罪中ニ包含セシメテ不問ニ付スルコトヲ許サス二者各別箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ヲ受クヘキモノナリ

三

一八七

○苟モ善意ニ手形ヲ取得シタル者ハ後日ニ至リ該手形ノ偽造ナルコトヲ知リタル場合ト雖モ手形金ヲ回收スル爲メ眞實ナル署名者ニ對シ手形ヲ呈示シテ債務ノ履行ヲ請求スルハ當然ノ權利行爲ニ屬シ刑法上偽造手形ノ行使罪ヲ以テ律スヘキモノニ非ス

三

三七

第十九章 印章偽造ノ罪

〔第六十五條〕

○郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發著日時印紙ノ消印等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニ在テハ官署ノ印ニ該當シ刑法ニ在テハ公

務所ノ印章ニ該當ス

四

八四

○縣廳ニ於テ製絲用種ノ検査合格ヲ證明スル爲メ蠶種製造用ノ臺紙ニ押捺シタル印章中四十二年トアル二ノ字ヲ擅ニ三ト描改シ同縣明治四十二年度ノ検査合格證印ト爲シタル所爲ハ公務所ノ印章偽造ヲ以テ論スヘキモノトス

四三

八四

○公務所ノ印章ト記號トヲ區別スル標準ハ其使用ノ目的如何ニ在リ文書ニ押捺シテ證明ノ用ニ供スルモノハ公務所ノ印章ニシテ產物商品書籍什物等ニ押捺スルモノハ其記號ナリトス

四四

二七〇

○官ノ印影ヲ不正ニ使用シテ公債證書ヲ偽造シ之ヲ行使シタルトキハ其官印不正使用ノ點ハ證書偽造ノ行爲ト相合シ包括シテ刑法第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ別ニ同第六十五條第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス

三

二〇八

○郵便局ニ備付アル受付時刻記入用ノ日附印ヲ不正ニ使用シ其影蹟ノ空間ニ年月日ノ數字ヲ記入シタル所爲ハ郵便局ノ公印ヲ不正ニ使用シタルモノニ非スシテ郵便局ノ署名ヲ偽造シ其受付時刻證明書ヲ偽造シタルモノトス

四三

三〇三

○印章署名若クハ記號不正使用罪（刑法第六十五條乃至第六十七條

四三

八六〇

各第二項)ノ犯意アリトスルニハ公務署公務員又ハ他人ノ署名印章若クハ公務署ノ記號ナルコト及ヒ其使用カ自己ノ權限又ハ權利ニ屬セスシテ眞正ヲ詐ルモノナルコトヲ認識スレハ足り其以外ニ於テ特殊ナル違法性ノ認識アルコトヲ要セス

○公務所ノ印章又ハ記號ノ不正使用アリトスルニハ不正ニ物體上ニ表顯セシメタル影蹟ヲ現實ニ他人ノ閱覽ニ供スルコトヲ必要トセスト雖モ少クトモ之ヲ他人ノ閱覽シ得ヘキ狀態ニ置クコトヲ要スルモノトス

〔第六十六條〕

○稅務監督局織物査定濟ノ證ナル紙票ハ當局官吏カ納稅濟又ハ移出許可ノ證トシテ使用スヘキモノナルモ毛織物以外ノ織物ニ之ヲ貼用シ證印ニ代用スルモノナレハ刑法第六十六條ノ所謂官ノ記號ニ外ナラス
○稅關ノ日附印ト雖モ圓形ノ輪廓内ニ年月日ノ數字ヲ西洋數字ニテ現ハシタルノミニ止マリ該官廳ヲ表示スル文字ナキモノハ印章ニ非スシテ記號ナリ

○林區署カ官林拂下等ノ場合ニ檢査濟ノ證トシテ豫定木ニ押捺シ又ハ立木伐採後伐採ノ證トシテ材木ニ押捺スル檢印ハ刑法ニ於テハ其第六十六條ニ所謂公務所ノ記號ニ該當シ舊刑法ニ在テハ其第九十六條ニ

五
二二二

四
八〇三

四
二五五

所謂產物商品ニ押用スル官ノ記號印章ニ該當ス

○當該官廳ヲ表示スル文字ナク單ニ或處分ヲ爲シタル符號ヲ印スルモノニ過キササル極印ハ刑法第六十六條ニ所謂記號ナリトス

○刑法第六十六條ニ所謂公務所ノ記號トハ他ノ物體ノ上ニ現出セシメタル其記號ノ影蹟ノミヲ謂フニ非スシテ其影蹟ヲ現出セシムヘキ物體ヲモ包含指稱スルモノトス

○富山縣三等輸出米檢査證票ナルモノハ單ニ同縣三等輸出米ノ檢査ヲ爲シタルコトヲ示ス所ノ一種ノ符號タルニ過キサレハ刑法第五十五條ニ所謂公務所ノ文書ニ非スシテ同法第六十六條ニ所謂公務所ノ記號ナリトス

○他人カ製作シタル印章若クハ記號ハ人ヲシテ特定人ノ印章又ハ公務署ノ記號ナリト誤認セシムヘキモノト雖モ之ヲ偽造ノ印章若クハ記號ト謂フヲ得然レトモ之ヲ利用シテ或物體ノ上ニ特定人ノ印章又ハ公務署ノ記號トシテ不法ニ其影蹟ヲ表顯セシメタル以上ハ印章偽造罪若クハ記號偽造罪ヲ構成スルモノトス

○公務所ノ印章ト記號トヲ區別スル標準ハ其使用ノ目的如何ニ在リ文書ニ押捺シテ證明ノ用ニ供スルモノハ公務所ノ印章ニシテ產物商品書籍

四
一三五

四
二四七〇

四
四九一

二
三三〇

三
一九八〇

什物等ニ押捺スルモノハ其記號ナリトス

○米穀検査吏員カ米ノ検査ヲ爲シ或等級ニ合格シタルコトヲ示ス符號トシテ米ノ包裝ニ押捺スル印ハ刑法第百六十六條ニ所謂公務所ノ記號ニ該當スルモノトス

○明治四十三年茨城縣令第八十九號米穀検査規則第十一條ニ定メラレタル記號ハ同縣米穀検査員カ其職務ノ執行トシテ輸出米穀ノ検査ヲ爲ス際合格シタル米穀ノ等級ヲ表スル爲メニ使用スルモノナレハ公務所ノ記號ニ屬スルモノトス

○國有林ノ立木ヲ盜伐シ其伐根ニ拂下木ノ引渡ニ用ウル官ノ極印ヲ不正ニ打記シ以テ罪跡ノ湮滅ヲ圖リタル行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ同時ニ森林法及ヒ刑法ノ規定ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段ニ該當スルモノトス

○印章署名若クハ記號不正使用罪（刑法第百六十五條乃至第百六十七條各第二項）ノ犯意アリトスルニハ公務署公務員又ハ他人ノ署名印章若クハ公務署ノ記號ナルコト及ヒ其使用カ自己ノ權限又ハ權利ニ屬セスシテ真正ヲ詐ルモノナルコトヲ認識スレハ足り其以外ニ於テ特殊ナル違法性ノ認識アルコトヲ要セス

三	六	六	三
二〇八	六五	六五	七九七

（第百六十條）

○拂下許可ノ上拂下木引渡ノ證トシテ之ニ打込ムヘキ官ノ記號タル山極印ハ森林主事タル被告カ小林區署長ノ命ニ依リ國有林内ノ各被害木ニ對シ毎木調査ヲ爲スニ當リ拂下許可ヲ豫想シテ係爭樹木ニ打込ミ置キタルモノナリト雖モ相被告ノ依頼アルヤ拂下許可前竊ニ伐採スルコトヲ内諾シ同人ヲシテ之ヲ利用伐採スルニ至ラシメタルハ即チ其影跡ヲ不正ニ使用シタルモノニシテ官ノ記號不正使用罪ヲ構成スルモノトス

【第百六十七條】

○他人ノ印章ヲ偽造シ且之ヲ使用シテ有價證券ヲ偽造シタル場合ニ於テハ印章偽造及ヒ偽造印章使用ノ所爲ハ孰レモ刑法第百六十二條第一項ニ規定スル有價證券偽造ノ所爲中ニ包含處罰セラレヘキモノトス從テ此場合ニハ刑法第百六十七條第一項及ヒ第二項ヲ適用スヘキモノトス

○犯人自ラ偽造シタル他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタルトキト雖モ其所爲ハ刑法第百五十九條第一項後段ニ依リテ之

六	七	四三
五七七	二二	八四一

ヲ處斷スレハ足り印章偽造ノ所爲ニ對シ別ニ同第六十七條第一項ヲ適用スヘキモノニ非ス

四

五

○刑法ニ所謂署名トハ通例一定ノ人カ自己ヲ表彰スル爲メニ文字ヲ以テ其氏名ヲ表記セルモノヲ指稱スレトモ單ニ片假名ヲ用キ其氏ノミヲ表記シタル場合ニ於テ之ヲ署名ニ非スト謂フヲ得ス

四

七

○一定ノ關係アル者ノ間ニ於テハ單ニ氏若クハ名ノミヲ以テスルモ其人ヲ表彰スルニ足ルカ故ニ氏若クハ名ノミヲ表記スルモ尙ホ之ヲ署名ト謂ハサルヲ得ス

四

七

○印章ノ偽造(刑法第六十七條第一項)トハ雷ニ其影跡ヲ現出シタル場合ノミナラス他人ノ事實證明ノ用ニ供スル文字又ハ符號ヲ刻セル印類其物ノ偽造ヲ完成シタル場合ヲモ包含スルモノトス

四

二〇三

○他人ノ代理者トシテ公正證書ニ署名スル場合ニ於テハ其署名ハ本人ノ爲メニ之ヲ爲スモノナレハ其效力ハ本人ニ對シテ生スルモノト云ハサルヘカラス故ニ他人ノ代理者タル資格ヲ冒シテ公正證書ニ署名シタル場合ニ於テモ其效果ハ直接ニ其他人ノ署名ヲ之ニ冒用シタル場合ト敢テ擇ム所ナキモノトス

四

二七

○刑法第六十七條所定ノ罪ハ他ノ信用ニ對スル罪ト同シク偽造行爲若

クハ使用行爲ニ因リテ印章若クハ署名ノ眞正又ハ其正當ノ使用ニ對スル公ノ信用ヲ害シ若クハ害スル危険アルコトヲ要スト雖モ此以外ニ於テ他人ノ財産權上又ハ其他ニ損害ヲ發生セシメ若クハ發生セシムルノ危険アルコトヲ必要トセス

四

三二

○電報規則第二十六條ニ依リ賴信紙ノ端末ニ記載スル發信人ノ氏名ハ受信人ニ傳送セラレヘキ通信文ノ一部ヲ構成スルモノニ非スシテ單ニ電信官署ニ於ケル事務取扱ノ用ニ供スルモノニ過キサレハ之ヲ偽署シタル者ハ刑法第六十七條第一項ニ該當スルモノトス

四

六八

○借用證書ニ保證人トシテ署名スルハ證書記載ノ債務ニ對シテ辨濟ヲ擔保スル意思表示ヲ爲スモノナレハ證書中ニ保證債務ノ内容ヲ明示セサルモ保證證書タルニ妨ナシ故ニ借用證書ニ保證人トシテ他人ノ署名ヲ偽造スルハ保證證書ノ偽造ニシテ署名ノ偽造ニ非ス

二

五六

○親族會員選定及ヒ招集決定書謄本ノ寫ニ同會員タル他ノ一人ノ氏名ヲ記入シタル上有合印ヲ押捺シ以テ右決定書謄本ノ寫ナル旨ノ意思ヲ表示シタル行爲ハ文書ノ偽造ニシテ署名ノミノ偽造ニ非ス

三

一七

○公證人ヲシテ公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシムルニ當リ他人ノ氏名ヲ詐稱シ之ニ其署名ヲ偽造シタル行爲ハ右公證人ヲシテ不實ノ記

載ヲ爲サシメタル行爲トハ全ク別箇ノ行爲ナリトス

(同主旨)

公證人ニ對シテ虛偽ノ申立ヲ爲シ公正證書ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル所爲ト行使ノ目的ヲ以テ他人ノ署名ヲ偽造シタル所爲トハ各別箇ノ犯罪ニシテ公正證書偽造行使ノ一罪ニ非ス

○私印偽造罪(刑法第六十七條)ハ之ヲ廣義ニ解釋シ私人ノ記號偽造行爲ヲモ當然包含スルモノト爲スヲ相當トス

○生命保險ノ申込書ニ存スル被保險者ノ署名ハ商法第四百二十八條ノ規定ニ基ケル同意書ノ性質ヲ有シ又被保險者ノ夫ノ署名ハ其妻ノ行爲ニ對スル許可書ノ性質ヲ有スルモノナレハ其偽署ハ署名偽造罪ヲ構成スルモノニ非スシテ私文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第六十七條ノ印章署名偽造罪成立スルニハ或物體ノ上ニ表現セシメテ之ヲ他人ノ真正ナル印章署名トシテ事實證明ノ用ニ供スル目的ヲ以テ偽造ヲ爲スヲ以テ足り其印章署名ノ現出セラルヘキ物體ノ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書圖畫ナルコトヲ要セス

(同主旨)

偽造ノ目的タル署名ハ敢テ法律事項ノ證明ニ關スルモノタルコトヲ要セス苟モ行使ノ目的ヲ以テ署名ヲ偽造スルニ於テハ刑法第六十七條第一項ニ規定スル署名偽造罪ノ構成ニ缺クル所ナシ

○有合印ト雖モ第三者ノ作製ニ係リ或物體ノ上ニ表現セラルヘキ特定ノ人ヲ表識スル文字又ハ符號ノ影蹟ニシテ特定人ノ印章ト誤認スヘキモノナル以上ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ利用シ其影蹟ヲ或物體ノ上ニ顯出セシメタル所爲ハ當然印章偽造罪ヲ以テ論スヘキモノトス

(同主旨)

他人カ製作シタル印章若クハ記號ハ人ヲシテ特定人ノ印章又ハ公務所ノ記號ナリト誤認セシムヘキモノト雖モ之ヲ偽造ノ印章若クハ記號ト謂フヲ得然レトモ之ヲ利用シテ或物體ノ上ニ特定人ノ印章又ハ公務署ノ記號トシテ不法ニ其影蹟ヲ表顯セシメタル以上ハ印章偽造罪若クハ記號偽造罪ヲ構成スルモノトス

○落款ハ書畫ノ落成ノ真正ヲ證スルカ爲メニ作製者自ラ其名稱ヲ掲記シ其印章ヲ押捺スルモノトス而シテ雅號ハ特定人カ自己ヲ表彰スル一種ノ名稱ナレハ氏名ト等シク署名ト謂フヲ妨ケス又雅號印モ或方法ニ依リテ或物體ノ上ニ現出セシムル特定人カ自己ヲ表識スル一種ノ文字又ハ符號ノ影蹟ニシテ氏名ノ影蹟ト異ナラサレハ此等ノモノヲ偽造スル行爲ハ刑法ノ署名印章偽造罪ニ該當スルモノトス

(同主旨)

書畫ニ於ケル落款ハ作成者ノ氏名ナルト雅號ナルトヲ問ハス均シク署名タルコト毫モ疑ナケレハ苟モ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ印章署名偽造罪ヲ構成スルモノトス

三

八六七

四

五九三

三

二〇〇八

四

二三六

五

一八五六

二

三三八

五

一八五六

三

一九八〇

五

一八五六

二

三三七

一ノ雅號ト雖モ荷モ特定ノ人ヲ表示スルニ足ルヘキモノナル以上行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ印章偽造罪ヲ構成スルモノトス

書畫ノ筆者カ書畫ニ押用スル印章ト雖モ荷モ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ印章偽造罪ヲ構成スルモノトス

偽造ノ目的タル印章ハ必スシモ權利義務ノ證明ニ關スルモノタルコトヲ要セス雅號ヲ彫刻シタル印章ト雖モ特定人ノ印章トシテ行使スル目的ヲ以テ之ヲ偽造スルトキハ印章偽造罪ヲ構成シ偽造タルノ情ヲ知テ之ヲ使用スルニ於テハ偽造印章使用罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第六十七條第二項ハ印章若クハ署名ノ不正使用又ハ偽造印章若クハ偽造署名ノ使用ノ所爲カ他ノ犯罪所爲中ニ包含處罰セララルコト

ナク獨立シテ一ノ犯罪ヲ構成スル場合ノミヲ規定シタルモノトス

○被告人カ債務者ノ承諾ナキニ拘ハラス契約證書ニ存スル印影ヲ偽造文書ニ利用シタル所爲ハ私印盜用罪ヲ構成ス

○他人ノ印影ヲ盜用シテ借用證書及ヒ抵當登記申請委任狀ヲ偽造シタルトキハ刑法上其私印盜用ノ所爲ハ獨立シタル別箇ノ犯罪ヲ構成スルモノニ非スシテ私文書偽造罪ニ包括シ一罪トシテ處斷セラルヘキモノトス

(同主旨)

他人ノ印章ヲ使用シテ權利義務ニ關スル文書ヲ偽造シタル所爲ハ刑法第五十九條第一項ニ

三三八

一四八一

二一〇八

六二

七〇一

三九七

○依リテ之ヲ處罰スレハ足り其他ニ印章ノ不正使用罪ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス

○他人ノ印章ヲ偽造シ其承諾ヲ得ス擅ニ之ヲ文書ニ押捺行使シタルトキハ刑法第六十七條第二項ニ所謂他人ノ印章ヲ不正ニ使用シタルモノトス

○他人ノ印章ヲ自己ノ署名下ニ押捺シ若クハ自己ヲ表識スル旨趣ニ於テ他人ノ印章ヲ使用スルモ刑法第六十七條第二項ニ所謂他人ノ印章ヲ不正ニ使用スル行爲ニ該當セサルモノトス

○他人ノ印章ヲ竊取スルト其竊取シタル印章ヲ不正ニ使用スルトハ一ハ他人ノ財産權ヲ害シ他ハ公ノ信用ヲ害スル行爲ニシテ全然行爲ノ性質及ヒ侵害セラレタル法益ヲ異ニスルヲ以テ各獨立シテ別箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○印章署名若クハ記號不正使用罪(刑法第六十五條乃至第六十七條各第二項)ノ犯意アリトスルニハ公務署公務員又ハ他人ノ署名印章若クハ公務署ノ記號ナルコト及ヒ其使用カ自己ノ權限又ハ權利ニ屬セスシテ真正ヲ詐ルモノナルコトヲ認識スレハ足り其以外ニ於テ特殊ナル違法性ノ認識アルコトヲ要セス

○第三者カ行使ノ目的ヲ以テ偽造セル他人ノ印章ヲ情ヲ知リテ行使ノ目

四二

五三六

四四

八六二

四五

三三二

四五

六五八

五

一一三二

的ヲ以テ之ヲ文書圖畫其他ノ物體ニ押捺シ其影蹟ヲ表現セシムル行爲
ハ刑法第六十七條第二項ノ偽造印章使用罪ヲ構成シ同條第一項ノ印
章偽造罪ニ該當セサルモノトス

五

一八五六

第二十章 偽證ノ罪

〔第六十九條〕

○刑法第六十九條ノ規定ハ舊刑法第二百十八條ノ如ク偽證カ被告人ヲ
曲庇スルノ目的ニ出テタル條件ヲ要セサレハ其適用ノ範圍ハ舊刑法ヨ
リ廣濶ニシテ舊法ノ偽證ニ該當スル所爲ハ當然刑法ノ偽證罪中ニ包含
セラルヘキモノトス

四

二三四

○法律ニ依リ宣誓シタル證人カ故意ニ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證
罪ヲ構成ス而シテ犯人ノ目的カ被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルニ在ルト否
トヲ問ハサルハ勿論其陳述カ現實被告人ヲ曲庇又ハ陷害スルコトヲ知
リタルヤ否ヤモ亦犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホサス

四

一一三五

○證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル原因如何ハ偽證罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ
及ホサス

四

一五七三

○苟モ他人ヲ教唆シテ偽證罪ヲ實行セシメタル以上ハ縱令偽證セラレタ

ル本案被告事件ニ付キ法律上證人トシテ宣誓スル能力ヲ有セサルモ之
ヲ同罪ノ教唆者トシテ處罰スルコトヲ妨ケス

四

一七八四

○偽證罪(刑法第六十九條)ハ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虛偽ノ供述
ヲ爲スニ因リテ直ニ成立スルモノトス而シテ其供述ニ係ル事實カ法律
上適法ノ效力ヲ有スヘキモノナルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナ
シ

四

一〇一

○苟モ證人トシテ適法ニ宣誓シタル上虛偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ縱令其
證言事項ニシテ自己ノ犯罪事實ニ係ルコトアルモ偽證罪ノ成立ヲ妨ケ
ス

四

一五七

○苟モ法律ニ依リ宣誓シタル證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ
構成スルモノニシテ偶被告事件ノ公判手續ニ違法ノ廉アリテ其公判ノ
無效ヲ來スコトアルモ偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

四

一〇六七

○刑法第六十九條ノ偽證罪成立スルニハ證人カ法律ニ從ヒ宣誓シタル
コト及ヒ故意ニ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルコトヲ以テ足り宣誓カ陳述前ニ
在ルト其後ニ在ルトハ本罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスコトナシ

四

一一〇〇

○人ヲシテ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル行
爲ト右申告ノ結果他人カ被告人トシテ取調ヲ受クルニ際シ其證人トシ

テ該申告事實ト同一旨趣ノ供述ヲ爲シタル行爲トハ全然別箇ノ行爲ニシテ各別箇ノ罰條ニ觸ルルモノナルカ故ニ右二箇ノ行爲ハ各獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

元 二二三

○偽證罪ノ成立スルニハ適法ニ宣誓シタル證人カ故意ニ自己ノ認識セル事實ニ反シテ虚偽ノ供述ヲ爲スコトヲ要スルモ其供述スヘキ事項ニ關シテ眞正ノ事實ヲ熟知スルコトヲ必要トセス

二 六六七

○偽證罪ヲ構成スルニハ證人カ宣誓ノ上裁判官ノ訊問ニ對シ虚偽ノ事實ヲ陳述シタルノミヲ以テ足り其陳述カ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスノ虞アルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

二 八四四

(同主旨) 適法ニ宣誓シタル證人ニシテ苟モ訊問事項ニ關シ事實ニ反スルコトヲ知り乍ラ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ直ニ偽證罪ヲ構成ス而シテ其陳述カ當該事件ノ裁判ノ結果ニ影響ヲ及ホスヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

四三 二七四

○他人ニ對シ偽證罪ヲ犯サンコトヲ教唆シタル結果其他人カ現ニ偽證罪ヲ犯スニ至リタルトキハ偽證教唆罪ヲ以テ論スヘキモノニシテ教唆ノ當時其他人カ證人トシテ證言ヲ爲シ得ヘキ地位ニ在リシヤ否ヤヲ區別

四四 三九

スルコトヲ要セス ○偽證罪ハ證言ノ不實ナルコトヲ要件トスルモノニ非サルヲ以テ證言ノ内容タル事實カ眞實ニ一致シ若クハ少クトモ其不實ナルコトヲ認ムル能ハサル場合ト雖モ苟モ證人カ故ラニ其記憶ニ反シタル陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ構成スルモノトス

二 九〇五

(同主旨) 事實ヲ見聞セサル證人カ現ニ之ヲ見聞シタリト稱シ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪ヲ完成スルモノトス而シテ其現ニ見聞シタリト供述セル事實カ實際ノ事實ニ符合スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

三 六五四

○偽證教唆ノ犯罪ヲ構成スルニハ教唆者ニ於テ證人ノ供述カ其記憶ニ反スル事實ヲ知ルヲ以テ足り其眞實ナルコトヲ確信セルト否トハ其罪責ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス

四二 七三五

○刑事訴訟法又ハ民事訴訟法ニ於テ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得ヘキ者ト雖モ苟モ證人トシテ適法ノ宣誓ヲ爲シタル上虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪成立スルモノトス

四四 一八四

(同主旨) 苟モ證人カ其實驗セサル事實ヲ實見シタルモノノ如ク偽リ證言スルトキハ常ニ偽證罪ヲ構成スルモノニシテ其證言カ偶事實ニ適合スルカ如キハ該犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキモノニ非ス

三 六五四

○刑事訴訟法又ハ民事訴訟法ニ於テ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得ヘキ者ト雖モ苟モ證人トシテ適法ノ宣誓ヲ爲シタル上虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ偽證罪成立スルモノトス

四 一八

苟モ適法ニ宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ縱令其宣誓ヲ爲ス資格ナキコトヲ
隱秘シテ宣誓シタル場合ト雖モ偽證罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス
事實上證人タル資格ナキ者ト雖モ證人トシテ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ偽證罪ヲ
構成ス

○ 苟モ證人トシテ適法ニ宣誓シタル後虚偽ノ陳述ヲ爲スニ於テハ資格審査ノ瑕疵若クハ無資格
者タルコトノ隱秘ニ依リ證人タル資格ナキ者ヲシテ宣誓ヲ爲サシメタル場合ト雖モ偽證罪ノ
成立ヲ妨ケス

○ 偽證罪(刑法第六十九條)ハ法律ニ認メラレタル手續ニ依リ證人トシテ宣誓シタル上虚偽ノ
陳述ヲ爲スニ因リテ成立ス而シテ被告カ現實證人タル法律上ノ資格ヲ有スルコトハ犯罪ノ構
成ニ必要ナル條件ニ非ス

○ 證人トシテ適法ニ宣誓シタル後虚偽ノ陳述ヲ爲シタル所爲ハ偽證罪ヲ構成ス而シテ被告カ其
宣誓ノ當時現ニ證人タル資格ヲ有シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○ 同一事件ニ付キ同一豫審廷ニ於テ同一被告人ヲ曲庇スル爲メ爲サレタ
ル虚偽ノ陳述ハ縱令數箇ノ事實ニ關スル場合ト雖モ一箇ノ偽證罪ヲ構
成スルモノトス

○ 偽證教唆ノ旨趣カ偽證ノ旨趣ト大體符合スル以上ハ縱令證書日附ノ如
キ些末ノ點ニ於テ教唆者ノ指示ニ異ナレル陳述アリトスルモ偽證教唆
罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○ 甲及ヒ乙カ丙ト共謀シテ丁ヨリ丙ニ對スル貸金請求事件ニ付キ裁判所

四二	八〇八
四三	一四九八
四三	一五七三
四三	一五八五
四	二〇六八
五	二二

ヲ欺罔シ丙ヲシテ不法ノ利益ヲ獲得セシムル爲メ特約附ノ借用證書ヲ
偽造シ丙ノ訴訟代理人ニ交付シテ裁判所ニ提出セシメ且之ニ牽連シテ
甲ハ該證書ノ特約文詞及ヒ宛名カ真正ニ成立シタルモノノ如ク虚偽ノ
證言ヲ爲サンコトヲ乙ニ教唆シ偽證ヲ爲サシメ裁判所ヲ欺罔シタルモ
事發覺シテ詐欺ノ目的ヲ遂ケ得サリシ場合ニハ其偽證行爲ト詐欺未遂
行爲トノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項ノ規定
ヲ適用スヘキモノトス

○ 損害賠償ノ民事訴訟中金錢騙取ノ目的ヲ以テ事實ヲ虚構シ請求金額ヲ
増加シタル場合ニ於テ犯人カ其目的ヲ達スル爲メ詐欺ノ情ヲ知ラサル
他人ヲ教唆シ偽證ヲ爲サシメ以テ裁判所ヲ欺罔シタルモ詐欺ノ目的ヲ
遂クルニ至ラサルトキト雖モ其偽證教唆ノ行爲ハ詐欺罪ノ手段ニシテ
刑法第五十四條第一項ノ牽連罪ヲ構成スルモノトス

○ 犯人カ自己ニ對スル刑事被告事件ニ付キ證人トシテ呼出ヲ受ケタル者
ヲ教唆シ宣誓ノ上虚偽ノ陳述ヲ爲サシメタル以上偽證教唆罪ハ完全ニ
成立スルモノナレハ同事件ニ付テハ自ら證人タルヘキ資格ナク又同事
件ニ付キ其罪ヲ免レン爲メ犯シタルノ故ヲ以テ偽證教唆ノ罪責ヲ免ル
ルコトヲ得サルモノトス

五	八三三
六	一五四
六	八四八

(同主旨)

刑事被告人カ自己ヲ曲庇スル爲メ他人ニ囑託シテ偽證ヲ爲サシメタルトキハ刑法第六十九條ノ罪ニ對スル教唆トシテ同條及ヒ第六十一條第一項ヲ適用スヘキモノトス
刑事被告人カ他人ヲ教唆シテ自己ノ利益ト爲ルヘキ虚偽ノ證言ヲ爲サシメタル所爲ハ偽證教唆罪ヲ構成ス

(第七十條)

『第七十條』

○犯人カ自己ノ犯罪事實ヲ自首シ又ハ當該官ノ問ニ對シテ自認シタル場合ハ刑法第七十條ノ所謂自首ニ該當スルモノトス

○刑法第七十條ニ依ル刑ノ免除ノ判決ハ被告ニ對シテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモノニ非ス却テ之ヲ有罪ト認メ相當ノ刑ヲ科スヘキモノナルモ裁判確定前自白シタル爲メ特ニ其刑ヲ免除セルニ過キサレモノトス從テ被告カ自己ノ利益ヲ保護スル爲メ上訴ノ方法ニ依リテ該判決ノ變更ヲ求メ得ヘキハ當然ナリ

○刑法第七十條ノ減輕又ハ免除ヲ爲スニハ當該被告ニ於テ其偽證シタル事件ノ裁判確定前一度自白シタルノ事實アルヲ以テ足り第二審ニ至ルモ尙ホ一貫シテ其自白ノ旨趣ヲ支持スルコトヲ要スルモノニ非ス
○衆議院議員選舉法違反罪ト併合罪ノ關係アル刑法犯ニ付キ刑ノ免除ヲ爲シ得ヘキ原因アリテ其免除ヲ言渡ス場合ニ在リテハ選舉法違反罪ニ

四二	二六二
四三	二一九
四二	一七九五
三	一八五三
四	二六四

(第七十一條)

『第七十一條』

ハ最早該刑法犯ト共ニ併合罪ノ處分ヲ爲スヘキモノニ非サレハ刑法第四十七條第十條第九條等ノ適用ヲ爲スコトナク單純ニ選舉法違反罪ニ付キ刑ヲ言渡スヘキモノトス

○舊刑法ノ詐欺鑑定罪(第二百二十四條)及ヒ刑法ノ虚偽鑑定罪(第七十一條)ハ共ニ法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人カ虚偽ノ鑑定ヲ爲スコトニ因テ完成シ其鑑定カ爾後如何ニ使用セラレタルヤハ犯罪ノ成立ニ關係ナキモノトス

○一箇ノ教唆行爲ニ依リ數箇ノ虚偽鑑定ヲ爲サシメタルトキハ一箇ノ詐欺鑑定教唆罪ヲ構成スルニ過キスシテ各虚偽ノ鑑定毎ニ一箇ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

第二十一章 誣告ノ罪

(第七十二條)

『第七十二條』

○數人共謀シテ人ヲ誣告センコトヲ企テ其目的ヲ遂行シタル以上ハ縱令共謀者ノ一人ニ於テ自ラ犯罪行爲ニ干與セザリシトキト雖モ共ニ誣告ノ刑責ヲ免ルルコトヲ得ス

刑法 罪 誣告ノ罪

四三	八八六
四二	一七九五
四二	一七九五
七	三三四

○誣告罪ハ人ヲシテ刑事又ハ懲戒處分ヲ受ケシムル爲メ不實ノ事項ヲ申告スルニ因リテ成立ス從テ單ニ其事項ヲ記載シタル書面ヲ郵便ニ付スルモ未タ犯罪行爲ニ著手セルモノト云フヲ得ス

○一人ニ對シ數箇ノ犯罪アリトシテ不實ノ申告ヲ爲スモ一通ノ告訴狀ヲ以テシタルトキハ其行爲ハ一箇ノ誣告罪ヲ構成スルニ過キササルモノトス

○同一意思ノ發動ノ下ニ同一ノ誣告事項ヲ記載シタル書面數通ヲ作り之ヲ犯罪捜査ノ職責ヲ有スル官署ニ送致シタルトキハ縱令該書面ハ同時ニ發送セラレタルニモセヨ申告ヲ受クル官署ニシテ各相異ナル以上ハ其行爲タルヤ一箇ニ非スシテ連續シタル數箇ノ行爲ナリトス

○人ヲシテ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル行爲ト右申告ノ結果他人カ被告人トシテ取調ヲ受クルニ際シ其證人トシテ該申告事實ト同一旨趣ノ供述ヲ爲シタル行爲トハ全然別箇ノ行爲ニシテ各別箇ノ罰條ニ觸ルルモノナルカ故ニ右二箇ノ行爲ハ各獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ當該官ニ虛偽ノ事實ヲ申告シタルトキハ誣告罪ヲ完成スルモノトス而シテ其申告ノ方

四三	二二七六
四四	三三〇
四四	二八二六
元	一一三三

法又ハ形式等ノ如何ハ本罪ノ成立ニ影響ヲ及ホサス
(同主旨)

人ヲシテ處罰ヲ受ケシムル爲メ虛偽ノ事實ヲ當該官ニ申告シタル所爲ハ其口頭ニ依ルト否トナ問ハス又書面ニ依ル場合ニハ署名アルト匿名ナルト將タ他人ノ名義ヲ用井タルトヲ論セス同シク誣告罪ヲ構成スルモノトス

○誣告罪ハ個人ノ權利ヲ侵害スルト同時ニ當該官憲ノ職務ヲ誤ラシムル危險アルニ因リ處罰スルモノナルヲ以テ縱令被誣告者ノ承諾アリトスルモ本罪ノ構成ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○誣告罪ノ性質タル裁判權ノ行使ヲ愆ラシメ又ハ愆ラシメントスル虞ヲ生シ以テ公益ヲ害スルト同時ニ直接被誣告者ノ人格ニ對シ侵害ヲ加フルモノニシテ其侵害ハ間接若クハ附從ノモノト云フヲ得ス故ニ一箇ノ行爲ヲ以テ數人ヲ誣告シタル場合ニ於テハ其各人ニ對スル法益ノ侵害アルモノトス

(同主旨)

一片ノ書面ヲ以テ數人ヲ誣告シタル所爲ハ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ其最モ重キ所ニ付キ定メタル刑ヲ適用スルモノトス
一通ノ告訴狀ヲ以テ二人ニ對シ虛偽ノ申告ヲ爲シタルトキハ被申告者各人ニ對スル法益ヲ侵害スルモノナルヲ以テ二箇ノ誣告罪ヲ構成スルモノトス

元	三三七
四二	五二八
元	一五六
二	五四一
四三	七五七
四四	一八四九

誣告罪ハ一方國家ノ裁判ニ對スル公ノ法益侵害タルト同時ニ他方ニ於テ個人ノ名譽信用ニ對スル私ノ法益侵害タルヘキ行爲ニシテ之ニ關スル一箇ノ行爲方誣告ノ罪名ニ觸ルル箇數ヲ測定スルニハ私ノ法益侵害ノ側面ニ就キ計量スヘキモノトス

四五

九七一

○懲戒處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ爲ス虛偽ノ申告カ誣告罪ヲ構成スルニハ必スシモ懲戒處分ヲ審査決行スル職權アル本屬長官ニ對シ之ヲ爲スヲ要セス下僚吏員ノ行爲ヲ監視シ其服務規律ノ違背ヲ本屬長官ニ具申シテ懲戒處分ヲ促スノ職權ヲ有スル者ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

二

七六七

○苟モ虛偽ノ申告ヲ受ケタル者カ懲戒セラレヘキ本人ニ對シ監督權アル吏員ナルコト明カナル以上該申告ハ刑法第七十二條ノ誣告罪ヲ構成スルモノトス

二

七六七

(同左旨)

懲戒處分ヲ受ケシムル爲メノ誣告罪ハ必スシモ訴追權アル本屬長官ニ對シテ之カ申告ヲ爲スヲ要セス監督權アル上官ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足レリトス

四五

四五六

○誣告罪ノ既遂ト爲ルニハ搜查權ヲ有スル官吏又ハ其補助機關タル官吏ニ對シテ虛偽ノ申告ヲ爲スヲ以テ足リ其申告カ起訴權アル官廳ニ到達スルコトヲ必要トセス

二

九二九

(同左旨)

他處ナシテ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ搜查權ヲ有スル官吏ニ對シ不實ノ申告ヲ爲スニ於テハ誣告罪ハ直ニ成立スルモノナルカ故ニ虛偽ノ事實ヲ記載セル告訴狀ヲ警察分署ニ提出シ司法警察官ニ不實ノ申告ヲ爲シタル以上ハ其申告カ檢事ニ到達セサル以前ト雖モ誣告罪ハ完成スルモノトス

二

三六五

○司法警察官ノ補助機關タル巡查ニ對シ虛偽ノ申告ヲ爲スハ不正ニ搜查處分ノ開始ヲ促シタルモノニシテ最早申告者ノ意思ヲ以テ其處分ノ開始ヲ防止スルコトヲ得サルモノナルヲ以テ誣告罪ハ右巡查ニ對シ虛偽ノ申告ヲ爲シタル時ヲ以テ完成スルモノトス

二

九二九

○誣告罪ノ成立ニハ告訴狀カ當該搜查官署ニ到達シ搜查官吏ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ措カルルヲ以テ足リ該官吏之ヲ受理シテ搜查ニ著手シタルコトヲ要セス

三

二〇〇一

○誣告罪ノ場合ニ於ケル申告ノ態様ハ申告ヲ受ケタル搜查官若クハ監督者ヲシテ特定ノ人ニ特定ノ犯罪行爲若クハ特定ノ職務規律違背ノ行爲アルコトヲ認知セシメ因テ以テ犯罪ノ搜查若クハ懲戒處分上ノ取調ヲ促スヘキ程度ニ在ルヲ以テ足ルモノトス

四

二七三

○苟モ刑事又ハ懲戒ノ處分ニ關シ搜查ノ權限ヲ有スル當該官廳ノ職權發動ヲ促スニ足ルヘキ虞アル以上ハ抽象的事實ノモノト雖モ亦刑法第百

七十二條ノ所謂虚偽ノ申告タルニ妨ナキモノトス

○苟モ人ヲシテ刑事處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ檢事局ニ告訴狀ヲ差出シ因テ虚偽ノ申告ヲ爲シタル事實アル以上ハ誣告罪ヲ成立スルモノニシテ檢事局ニ於テ捜査手續ヲ進行シ又ハ起訴ヲ爲シタルト否トハ本罪ノ成否ニ消長ヲ來スモノニ非ス

○誣告罪ノ成立ニハ他人ヲシテ刑事若クハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル結果ヲ發生スヘキコトノ認識ノ下ニ不實ノ申告アルヲ以テ足り必スシモ之ヲ欲望スルコトヲ要セサルモノトス

○苟モ刑事ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ選舉人某カ金錢ノ供與ヲ受ケテ候補者某ニ投票シタルモノナル旨虚偽ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ警察署ニ提出シ不實ノ申告ヲ爲シタル以上ハ金錢ノ供與ヲ受ケタリトシテ舉示セラレタル者ノ中縱令選舉權ヲ有セサル者アリトスルモ誣告罪ノ構成要素ヲ具備スルモノトス

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪

〔第四百七十四條〕

○刑法第七十六條ノ猥褻行爲ヲ公然行ヒタルトキハ別ニ同第七十四

條ノ罪ヲ構成スルモノトス

〔第四百七十五條〕

○風俗ヲ壞亂スル文書圖書ヲ自ラ印刷シテ發賣頒布又ハ所持スル行爲ハ出版法第二十七條ニ依リ處斷スヘク刑法第七十五條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○不定多衆ニ對シテ有價的讓渡ヲ爲ス目的ニ出ツル以上ハ單ニ一人ニ對シ一回ノ有價的讓渡行爲ヲ爲シタル場合ト雖モ刑法第七十五條ニ所謂販賣ト謂フヲ妨ケサルモノトス

〔第四百七十六條〕

○刑法第七十六條ノ猥褻行爲ヲ公然行ヒタルトキハ別ニ同第七十四條ノ罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第七十七條ノ強姦罪ハ姦淫ノ目的ヲ以テ特定ノ婦女ニ對シ同條ノ區別ニ從ヒ暴行脅迫ヲ用キ若クハ用キスシテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ヲ規定セルモノニシテ同第七十六條ノ猥褻罪ハ此等ノ行爲ヲ除外シタル法意ナリトス

○婦人ノ意思ニ反シテ指ヲ陰部ニ挿入スルカ如キハ其自體暴行ニ因リ猥褻行爲ヲ爲スモノト謂ハサルヘカラス

四三 二〇一〇

四 一九七五

六 四八七

四三 二〇一〇

三 一五四一

七 二〇一〇

一三九三

一八三七

四二

七三

〔第七十七條〕

○十三歳ニ滿タサル少女ヲ姦淫シタルトキハ暴行又ハ脅迫ノ有無ヲ問ハス刑法第七十七條ニ該當スルモノナレハ暴力ヲ以テ之ヲ姦淫シタル場合ト雖モ一所爲一罪名ニシテ少女姦淫罪ト強姦罪トノ二罪名ニ觸ルルモノニ非ス從テ同第五十四條ノ適用ナシ

○刑法第八十一條ノ姦淫致傷罪ト同法第七十七條ノ姦淫罪トハ其罪質ヲ同ウスルヲ以テ同一ノ意思發動ニ因リ姦淫致傷ノ所爲ト姦淫ノ所爲トヲ引續キ遂行シタルトキハ連續犯ヲ構成スルモノトス

○刑法第七十七條ノ強姦罪ハ姦淫ノ目的ヲ以テ特定ノ婦女ニ對シ同條ノ區別ニ從ヒ暴行脅迫ヲ用キ若クハ用キスシテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル場合ヲ規定セルモノニシテ同第七十六條ノ猥褻罪ハ此等ノ行爲ヲ除外シタル法意ナリトス

〔第八十條〕

○他人ノ妻ヲ強姦シタル行爲ハ其貞操ニ對スル本夫ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ本夫モ亦被害者トシテ告訴ヲ爲スノ權ヲ有ス從テ其強姦ノ告訴狀ニ本夫トシテ連署シタルハ刑事訴訟法第四十九條ニ據リ告訴ノ意思表示ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ其姦淫事實ノ認定

二
二二五
三
一四三
三
一五四

〔第八十一條〕

如何ニ依リ姦通罪ニ對シテモ亦有效ノ告訴ト爲スニ妨ナキモノトス

○刑法第八十一條所定ノ罪ハ同第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シ其結果人ヲ死傷ニ致スコトニ因テ成立スルモノニシテ被害者ノ死傷ニ關シ故意又ハ過失アルコトヲ必要トセス

○刑法ニ所謂人ヲ傷害ストハ他人ノ身體ノ現狀ヲ不良ニ變更スルノ謂ニシテ必スシモ身體ノ組織ヲ物質的ニ破壞スルコトヲ要セス

○刑法第八十一條ノ罪ハ同法第七十六條乃至第七十八條ニ規定セル強姦其他ノ罪ノ既遂行爲又ハ未遂行爲ニ原因シ他人ニ死傷ノ結果ヲ生セシメタル場合ニ於テ成立スルモノニシテ其結果カ必スシモ猥褻姦淫ノ行爲自體若クハ其手段タル暴行脅迫ノ行爲ニ因リテ發生シタルモノナルコトヲ要セス

○刑法第八十一條ノ罪ハ加重情狀アル同法第七十六條乃至第七十八條ノ罪ナリト雖モ全然獨立シタル別箇ノ犯罪ヲ構成スル以上ハ同法第八十條ニ從ヒ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノニ非ス
○暴行ヲ以テ婦女ヲ姦淫セントシテ實行ニ著手シ因テ其婦女ヲ傷ケタルモ姦淫ノ目的ヲ遂ケサリシ所爲ニ對シテハ刑法第八十一條ヲ適用ス

五
二二九
四
七二
四
七二
四
一三三
四
一三三
四
一三三

ルヲ以テ足ルモノトス

(同主旨)

刑法第七十六條乃至第七十九條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ單一ナル第八十一條ノ犯罪ヲ構成スルニ止マルヲ以テ苟モ其事實ヲ判示シ之ニ同條ヲ適用シタル以上ハ別ニ第七十六條乃至第七十九條ノ適用ヲ示ササルモ擬律錯誤又ハ理由齟齬ナリト云フヲ得ス

○刑法第八十一條ノ姦淫致傷罪ト同法第七十七條ノ姦淫罪トハ其罪質ヲ同ウスルヲ以テ同一ノ意思發動ニ因リ姦淫致傷ノ所爲ト姦淫ノ所爲トヲ引續キ遂行シタルトキハ連續犯ヲ構成スルモノトス

○刑法ニ所謂傷害トハ體軀ノ完全ヲ害スルノ謂ニシテ生活機能ニ障碍ヲ與フル一切ノ場合ヲ包含スルモノトス

○處女膜ハ婦女ノ身體ニ於ケル生理組織ノ一部ヲ成スモノニシテ之ヲ裂傷スル所爲ハ毛髮鬚髯ノ切斷剪除ト異ナリ生活機能ニ障碍ヲ與フルモノナルヲ以テ不法ノ攻撃ニ依リ之ヲ裂傷スルニ於テハ傷害ノ罪責ヲ免レサルモノトス

(同主旨)

八ノ處女膜ヲ裂傷スルハ即チ人ノ身體ヲ傷害シタルモノニ外ナラス故ニ二十三歳未満ノ幼女ヲ姦淫スルニ因テ其處女膜ヲ裂傷シタル所爲ハ刑法第八十一條ニ該當スルモノトス

二

四五

三

一四〇三

三

一四〇三

三

一四〇三

四

三四二

(第八十二條)

○刑法第八十一條ハ姦淫ノ行爲自體ヨリ人ヲ死傷ニ致シタル場合ハ勿論姦淫ノ手段タル暴行脅迫ニ原因シテ死傷ノ結果ヲ生セシメタル場合ヲモ包含スルモノトス

○死亡ノ結果ニ付キ故意ヲ有シ暴行ヲ以テ婦女ヲ姦淫シ因テ死ニ致シタル所爲ハ強姦致死罪及ヒ殺人罪ノ罪名ニ觸ルルモノトス

『第八十二條』

○刑法第八十二條ニハ婦女ノ年齢ヲ區別セサルカ故ニ二十三歳未満ナルト否トヲ問ハス苟モ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シ姦淫ヲ爲サシメタル以上ハ同條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

○賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スニ因リテ成立シ犯人ニ賭博ノ常習アルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ從テ其常習アルト否トニ從ヒ之カ罰條ヲ異ニスルハ犯罪構成要件ノ異ナルカ爲メニ非スシテ法律カ之ヲ處罰スルニ輕重相異ナル別箇ノ刑ヲ以テシタル結果ニ外ナラス

刑法 罪 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

四

二二九

四

二〇八

四五

二三四

二

三五三

〔第八十五條〕

○賭博トハ偶然ノ事情ニ依リテ財物ノ得喪ヲ決スル行爲ヲ謂フモノナルヲ以テ苟モ其得喪ノ結果カ偶然ノ事情ニ繋ル以上ハ縱令其勝敗カ當事者雙方ノ豫期ニ反スルコトアリ得ヘシトスルモ其行爲カ賭博タルノ性質ヲ喪フモノニ非ス

○賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ依リテ財物ノ得喪ヲ争フニ因リテ成立シ現實ニ得喪シタル財物ノ數額如何ハ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○賭博罪ヲ構成スルニハ當事者カ互ニ財物ヲ賭スルコトヲ要スルモ財物ヲ賭スルトハ偶然ノ輸贏ニ依リ一定ノ財物ヲ勝者ニ交付スヘキコトヲ豫メ約束スルノ謂ニシテ現實ニ財物ヲ醸出シテ之ヲ提供スルコトハ必要ニ非ス

○賭博罪ノ成立ニハ得喪ノ目的タル財物ノ數額カ確定シ得ヘキモノナルヲ以テ足り當初ヨリ確定シ居ルコトハ必要ニ非ス

○刑法第八十五條ハ偶然ノ事情ニ付キ何等ノ制限ヲ爲ササルカ故ニ苟モ財物得喪ノ結果ヲ偶然ノ事情ニ繋ラシムル約束ヲ以テ勝敗ヲ決スルニ於テハ他ノ法律若クハ慣行上之ニ對シ賭博ト異ナリタル名稱ヲ付スルコトアリトスルモ刑法ニ所謂賭博中ニ包含セララルモノト解釋スヘキモノトス

キモノトス

○偶然ノ輸贏ニ依リ金錢其物ノ得喪ヲ争ヒタルニ非スシテ唯敗者ヲシテ一時ノ娛樂ニ供スヘキ物ノ對價ヲ負擔セシムル爲メ一定ノ金額ヲ支出セシメタルニ過キサルトキハ賭博罪ヲ構成セサルモノトス

○賭博罪ハ偶然ノ輸贏ニ關シテ財物ヲ賭シ賭事又ハ博戲ヲ爲シタル事實アレハ直ニ完成スルモノナルヲ以テ縱令賭博ノ實行ニ著手シ未タ勝敗ヲ決スルニ至ラス若クハ勝敗ヲ決スルコト能ハサリシトスルモ賭博罪ハ未遂狀態ニ在ルモノニ非ス

〔同三三〕

賭博罪(刑法第八十五條)ハ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲スニ依リ成立シ各場合ニ於テ常ニ必スシモ輸贏ノ決定セララルコトヲ要セス

○一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シ博戲ヲ爲シタル場合ニ於テハ賭博罪ハ成立セサルモノナルヲ以テ事實裁判所カ賭博被告事件ノ審判ヲ爲スニ當リテハ其賭物カ金錢ナル場合ナルト否トヲ區別セスシテ毎ニ之ヲ一時ノ娛樂ニ供スル物ト認ムヘキヤ否ヤヲ審判セサルヘカラス
○賭事ノ當事者カ互ニ利害相反スル結果ヲ豫期シ偶然ノ事項ニ關シテ通常輸贏ヲ決シ得ヘキ方法ヲ執リタル以上ハ現實執リタル方法カ當事者

元	三〇七
二	二五三
二	一四六
三	九五
三	二八七

四	八七
四	九四七
四	九四七
四	九四七

ノ一方又ハ雙方ノ錯誤ニ因リ若クハ其他豫期セサル事情ノ發生ニ因リテ輸贏ヲ決シ能ハサルニ至リタリトスルモ之カ爲メニ現ニ著手シタル行爲カ賭事タルノ性質ヲ喪失スルモノニ非ス

三

八五

○博戯ノ方法カ偶然ノ結果ニ因リ多數當事者中ヨリ一人ノ勝者ト一人ノ敗者トヲ定ムルモノニシテ當事者全員ノ勝敗ヲ決スルニ非サル場合ト雖モ各自互ニ唯一ノ勝者ト爲リ又ハ唯一ノ敗者ト爲ルコトノ可能ナル以上ハ偶然ノ結果ニ因リテ勝敗ヲ争フモノト云ハサルヘカラス

三

一七六

○「チーハー」ノ蟻走ヲ爲スハ賭博ノ實行開始ヨリ其終了ニ至ル迄ノ行爲ニ干與セルモノナレトモ自ラ財物ヲ賭シテ輸贏ヲ決シタルモノニ非サレハ賭博罪ノ實行者ニ非スシテ他人ノ賭博ヲ幫助シタル者ト認ムルヲ相當トス

三

一三四二

○賭博ト富籤トノ異ナル所ハ一ハ抽籤ノ方法ヲ用キサルモ他ハ此方法ニ依リ一ハ賭者ハ其勝敗ノ決スル迄提供シタル財物ノ所有權ヲ失フモノニ非サルモ他ハ其醜集シタル財物ハ直ニ富籤發賣者ニ於テ之ヲ取得スヘク一ハ賭博ニ干與スル胴元ト賭者トノ二者共ニ危險ノ負擔ニ任スルモノナルニ他ニ在リテハ富籤發賣者ハ其賭シタル財物ヲ損失スルノ危險存スルコトナシ

三

一五四八

(同左)

富籤ハ財物ヲ醜集シ抽籤ニ依リ利益ヲ僥倖セシムル行爲ニシテ其發賣者ハ如何ナル場合ト雖モ危險ヲ負擔スルコトナシト雖モ賭博ハ財物ヲ賭スル行爲ニシテ胴元ト張方トノ間ニ取引ノ關係ヲ有シ兩者何レモ危險ノ負擔ニ當ルモノトス

元

二七五

○苟モ當事者雙方カ偶然ノ事情ニ關シ互ニ財物ヲ提供シテ其得喪ヲ争ヒタル以上ハ縱シ右行爲ハ詐欺賭博ニ依リ金圓ヲ騙取シタル後其相手方ヲシテ該賭博ヲ以テ通常賭博ナルカ如ク信セシメンカ爲メニ出テタルニセヨ之ヲ指シテ眞實ノ賭博ヲ爲シタルモノト云フヲ妨ケス

三

一八五

○賭博罪ノ構成ニハ勝敗カ犯人ノ觀念ニ於テ不確定ナル事實ニ繫ルヲ以テ足り其事實カ客觀的ニ不確定ノモノナルコトヲ必要トセス

三

一八六

○取引所法第三十二條ノ五ハ元來賭博行爲中特殊ノ場合ニ關スル制裁法規ナルヲ以テ一面刑法第百八十五條ノ適用ヲ排除スルト共ニ他面常習トシテ該行爲ヲ爲スニ於テハ常習賭博罪トシテ刑法第百八十六條ヲ適用スヘキ關係ニ在ルモノトス

四

三六

○自ラ賭者ト爲リテ賭博ヲ爲ス方法ノ下ニ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタルトキト雖モ其賭場開張行爲ト賭博行爲トノ間ニハ刑法第五十四條第一項後段ニ所謂手段又ハ結果タル關係ヲ有スルモノト云フヲ得ス

四

三九

(同左)

賭場開張罪ト賭博罪トハ別箇獨立ノ犯罪ナルヲ以テ被告カ自己ノ開張シタル賭場ニ於テ自ラ賭博ヲ爲スモ之カ爲メニ其各犯罪ハ獨立ノ性質ヲ失フヘキモノニ非ス
空米相場ニ依ル賭博ヲ爲ス行爲ト其賭博ニ付キ賭場ヲ開張スル行爲トハ互ニ手段又ハ結果ノ關係ヲ有スルモノニ非ス

四四

一六三

○財物ヲ賭シテ輸贏ヲ爭フ行爲ハ技倆ノ優劣カ勝敗ノ數ヲ決スルニ與テカアル場合ト雖モ亦偶然ナル事情ノ影響ヲ受クルコトアルヘキモノ例ヘハ圍碁ノ如キニ於テハ賭博罪ヲ構成スルモノトス

四四

三六

(同主旨)

博戲當事者ノ技倆ニ於テ優劣ノ差等アリトスルモ苟モ其博戲ニシテ一ニ技倆ノ優劣ノミニ因リ勝敗ノ自ラ定マルモノニ非サル限ハ偶然ノ輸贏ニ關シテ博戲ヲ爲シタルモノト云フチ妨ケス

四四

一八八

圍碁ノ勝敗ハ必スシモ當事者平素ノ技倆ノミニ因リテ決スルモノニ非ス又事前ニ於テハ通例不確定ノモノニシテ逆賭シ得サル射倖的條件ヲ存スルカ故ニ其勝敗ニ關シ金錢ヲ賭シタルトキハ賭博罪ヲ構成スルモノトス

四四

八〇五

○金錢ヲ賭シテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル場合ニ於テ其金錢ヲ以テ一時ノ娛樂ノ用ニ供スル物ノ對價トシテ賭シタル事實ノ存セサル限ハ其行爲ハ利益ノ得喪ヲ目的トセルモノトシテ處罰スヘキモノトス

四四

二〇九七

○賭博ノ常習ナキ者カ賭博行爲ヲ數次反覆シテ行フモ其反覆スル行爲ニ依リ賭博ヲ爲ス習癖ノ發現セサル限ハ普通賭博罪ノ連續犯ヲ構成スル

ニ止マルモノトス

(同主旨)

賭博ノ常習ナキ者カ爲シタル賭博ハ縱令其行爲數箇ニシテ繼續ノ意思ニ出テタル場合ト雖モ常習賭博トシテ之ヲ處罰スヘキモノニ非ス

四四

一三二五

○同一回数ノ賭博行爲ト雖モ所犯情狀如何ニ依リテ或ハ普通賭博罪ノ連續犯タルコトアリ或ハ常習賭博罪タルコトアルモノトス

五

三〇一

○賭博トハ偶然ノ事情ニ依リ財物ノ得喪ヲ決スル行爲ニシテ相手方雙方ニ於テ其賭シタル財物ノ得喪ニ付キ危險ノ負擔ニ任スルモノトス

六

四三六

○同日同一場所ニ於テ同一ノ被告人カ同一ノ賭博ヲ續行シタルトキハ時時賭博參加者ニ變動アリタルトキト雖モ單一ノ賭博罪ヲ構成スルニ過キサルモノトス

六

一〇五六

○被告等五名共同シテ花札ヲ使用シ賭錢博戲ヲ爲ス爲メ五名カ花札ノ配付ヲ受ケタル上内二名ハ落チ他ノ三名カ花札ヲ合セ未タ勝敗ノ決セサルニ際リ事發覺シ警察官吏ニ引致セラレタル事實アルトキハ五名ノ賭博行爲ハ既ニ其實行ヲ開始シ賭博罪ハ成立スルモノトス
○賭博者ニ爲ス相場ノ告知ハ賭博者カ財物ノ得喪ヲ決スヘキ偶然ノ事情ヲ賭博者ニ告知スルモノニシテ賭博罪ヲ容易ナラシムル行爲ナルカ故

六

二一八

ニ賭博幫助罪ニ該當シ又賭者ノ誘引ハ賭博場開張者ヲシテ利ヲ圖ル便ヲ得セシムルモノナレハ賭博場開張罪ノ幫助ニ該當スルモノトス

○賭博常習者ニ非サル者カ取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル賭博行為ヲ幫助シタルトキハ刑法第六十五條第二項ニ依リ取引所法第三十二條ノ五刑法第六十二條第一項第六十三條ヲ適用處斷スヘキモノニシテ刑法第八十五條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○賭博實行者ノ爲メニ見張ヲ爲シ其實行ヲ容易ナラシメタルトキハ幫助行為者自身カ賭博常習者ナルト否トニ依リ刑法第六十五條第二項ニ基キ同第八十六條第一項若クハ第八十五條ノ刑ニ照シ減輕シテ處斷スヘキモノナルト同時ニ其見張ノ教唆者モ亦同第六十二條第二項ニ依リ教唆者自身カ常習者ナルト否トニ依リ第八十六條第一項若クハ第八十五條ノ刑ヲ減輕シテ處斷スヘキモノトス

○賭博ノ常習者(刑法第八十六條第一項)ト認ムヘキ者ハ必スシモ常業

トシテ賭博ヲ爲スモノタルコトヲ要セス
○賭博慣行ノ事情アル者ハ所謂博徒ナラサルモ賭博常習者トシテ處罰スヘキモノナレハ判決ニ於テ博徒ナル事實ヲ認メス單ニ常習トシテ賭博ヲ爲シタル事實ノミヲ認メ刑法第八十六條第一項ニ依リ處罰スルモ擬律ノ錯誤ニ非ス

『第八十六條』

○刑法第八十六條ハ舊刑法第二百六十一條ノ如ク現ニ賭博ヲ行ヒタルコトヲ以テ犯罪成立ノ要件ト爲ササルカ故ニ賭博罪ヲ斷スルニ付キ其現行犯ナルヤ否ヤヲ判示セサルモ不法ニ非ス

○賭博ノ常習者(刑法第八十六條第一項)ト認ムヘキ者ハ必スシモ常業

(第八十六條) 六條

六	一三〇九
七	一
七	八四四
四二	一一七六

トシテ賭博ヲ爲スモノタルコトヲ要セス

○賭博慣行ノ事情アル者ハ所謂博徒ナラサルモ賭博常習者トシテ處罰スヘキモノナレハ判決ニ於テ博徒ナル事實ヲ認メス單ニ常習トシテ賭博ヲ爲シタル事實ノミヲ認メ刑法第八十六條第一項ニ依リ處罰スルモ擬律ノ錯誤ニ非ス

○賭博ノ常習トハ反覆シテ賭博行為ヲ爲ス習癖ヲ謂フモノナルヲ以テ單ニ一回ノ賭博ヲ爲シタルノミニテハ之ヲ賭博ノ常習アルモノト云フヲ得ス

○刑法第八十六條第一項ハ同法第八十五條通常賭博罪ノ加重規定ニシテ其加重ハ犯人ノ身分ニ因ル加重ナリト解スヘキモノトス

○常習トシテ賭博ヲ爲ストハ之ヲ數次反覆シテ習癖的ニ爲スノ謂ナレハ犯行カ數回ニ涉リタル事實ニ因リ之ヲ認定スヘキモノニシテ之ヲ集合的一罪ト爲スヘク連續犯ヲ以テ擬スヘキモノニ非ス

○刑法第八十六條第一項ハ習癖トシテ賭博行為ヲ反覆スル者ハ其行為ノ數如何ニ拘ハラズ之ヲ一罪トシテ處斷スルノ法意ナリトス從テ同條項ノ罪ヲ組成スル二箇以上ノ賭博行為ノ間ニ併合罪若クハ連續犯ノ關係アルヘキ理ナシ

四三	一五四九
二	七八五
三	四六五
三	九三二
三	一四三五
三	二四六七

(同(三))

賭博ノ常習アル者カ賭博ヲ爲シタルトキハ其ノ爲カ數回ニ涉ル場合ト雖モ包括的ニ之ヲ觀察シ一罪トシテ刑法第百八十六條第一項ヲ適用スヘキモノトス
連續シテ數回賭博ヲ爲スモ常習トシテ行ヒタル以上ハ其數箇ノ賭博行爲ハ集合シテ一箇ノ犯罪行爲ヲ構成スルニ過キサレハ單ニ刑法第百八十六條第一項ヲ適用スヘキモノトス
賭博慣行ノ事情アル者カ賭博ヲ爲シタルトキハ其行爲ヲ數回反覆シタル場合ト雖モ刑法第百八十六條第一項ニ依リ一罪トシテ之ヲ處分スヘキモノニシテ同法第五十五條ノ規定ヲ適用スルノ要ナキモノトス

刑法第百八十六條第一項ノ罪ハ賭博常習ノ身分ヲ有スル者ノ犯シタル賭博罪ナリト雖モ數次賭博ヲ慣行スルニ於テハ賭博常習ノ身分ヲ有スル者ト爲リ是レ亦賭博常習者ト認メ得ヘキモノナレハ其數次ノ行爲ハ賭博ノ連續犯ニ非スシテ常習賭博ノ集合的一罪ヲ構成スルモノトス

○賭博犯人ニ賭博ノ前科アル事實ハ必スシモ常ニ之ニ依リテ其後ノ賭博行爲ヲ常習犯ト認メサルヘカラサル行爲ヲ常習犯ト認メサルヘカラサルモノニ非サルト同時ニ該事實ニ依リ常習賭博ヲ認定スルモ不法ニ非ス

(同(三))

賭博ノ前科アル事實ハ必スシモ常ニ之ニ依リテ其後ノ賭博行爲ヲ常習犯ト認メサルヘカラサルモノニ非サルト同時ニ前科アル事實ニ依リ常習賭博ヲ認定スルモ不法ニ非ス

○取引所法第三十二條ノ五ハ元來賭博行爲中特殊ノ場合ニ關スル制裁法規ナルヲ以テ一面刑法第百八十五條ノ適用ヲ排除スルト共ニ他面常習

四	八
四	八三
四	三
三	二〇八五
三	二四六七
三	九六〇

トシテ該行爲ヲ爲スニ於テハ常習賭博罪トシテ刑法第百八十六條ヲ適用スヘキ關係ニ在ルモノトス

○賭博ノ常習ナキ者カ爲シタル賭博ハ縱令其行爲數箇ニシテ繼續ノ意思ニ出テタル場合ト雖モ常習賭博トシテ之ヲ處罰スヘキモノニ非ス

○賭博行爲ヲ數次反覆スルハ客觀的ニ賭博ノ累行タルコト論ヲ竣タサレトモ尙ホ主觀的ニ賭博ヲ爲ス習癖ノ成立ヲ認メ得ル時ニ於テ常習賭博罪ヲ構成スルモノトス

○同一回數ノ賭博行爲ト雖モ所犯情狀如何ニ依リテ或ハ普通賭博罪ノ連續犯タルコトアリ或ハ常習賭博罪タルコトアルモノトス

○數回ノ賭博行爲ヲ繰返シタルトキハ連續ノ意思ノ有無ヲ問ハス之ヲ以テ常習トシテ賭博ヲ爲シタルモノト認ムルモ不法ニ非ス

○賭博行爲ノ習癖カ改マラサル限ハ同一意思ノ發動ニ因リ賭博行爲ヲ反覆シタルト箇箇ノ意思ヲ以テ數回ニ賭博ヲ實行シタル場合ナルトヲ問ハス同シク常習賭博罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

○賭博實行者ノ爲メニ見張ヲ爲シ其實行ヲ容易ナラシメタルトキハ幫助行爲者自身カ賭博常習者ナルト否トニ依リ刑法第六十五條第二項ニ基キ同第百八十六條第一項若クハ第百八十五條ノ刑ニ照シ減輕シテ處斷

四	三六
四	一三五
五	三〇一
五	三〇一
六	五五
六	二九二

スヘキモノナルト同時ニ其見張ノ教唆者モ亦同第六十二條第二項ニ依
リ教唆者自身カ常習者ナルト否トニ依リ第八十六條第一項若クハ第
百八十五條ノ刑ヲ減輕シテ處斷スヘキモノトス

七

八四

○賭博開張罪ハ開張者以外ノ者カ互ニ賭博ヲ爲ス爲メノ賭場ニ限ラス開
張者自ラ相手方ト爲リテ賭博ヲ爲ス爲メ賭場ヲ開張シタル場合ニモ亦
成立スルモノトス

四

六六

○博徒ノ黨類ヲ招結シ又ハ賭者ヲ招集シテ博奕ノ便利ヲ與ヘサル者カ單
ニ賭者ヨリ寺錢其他ノ名義ヲ以テ金錢ヲ徵收スルモ其所爲ハ賭場開張
罪又ハ博徒招結罪ヲ構成セス

四

八五

○犯人カ博徒ヲ集合シ一定ノ區域内ニ於テ隨時隨所ニ集會シテ賭博ヲ爲
スノ方便ヲ授ケタルトキハ刑法第八十六條第二項ノ所謂博徒ヲ結合
シタルモノニ該當ス

四

一六九

○苟モ射利心ヲ以テ博徒ヲ結合シ其目的ヲ遂行スヘキ手段方法ヲ執リタ
ル以上ハ博徒結合罪ハ完全ニ成立ス而シテ犯人カ現ニ利益ヲ得タルヤ
否ヤハ本罪ノ構成ニ何等ノ關係ヲ有セス

四

一六九

○苟モ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者カ其統括者タル地位ヲ失却セサル
以上ハ縱令賭博ノ開張及ヒ財物ノ徵收カ數度ニ涉ルモ尙ホ不可分の單

一ノ所爲トシテ刑法第八十六條ヲ適用スヘキモノトス

四

一六九

○苟モ賭博ヲ爲スヘキ場所ヲ開キ賭博者ヲ誘引シ寺錢手數料等ノ名義ヲ
以テ金錢上ノ利益ヲ得ンコトヲ圖リタル以上ハ賭場開張罪ヲ完成スル
モノトス而シテ被告カ其場所ニ於テ賭博ヲ爲シタルト否トハ本罪ノ成
立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

四

一七五

(同罪)

賭場開張罪ハ一定ノ場所ニ賭場ヲ設ケ人ヲシテ博奕ヲ爲サシメ利益ヲ得ルニ因リテ完成ス而
シテ開張者自ラ博奕ニ干與シタルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

四

六六

○賭場開張圖利ノ行爲ト博徒結合圖利ノ行爲トハ縱令法律上刑法第五十
四條ノ適用アル爲メ一罪ヲ構成スルモ其事實ノ内容ハ同一ナリト云フ
ヲ得ス

四

二五七

○博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ノ爲メニ其乾兒タル博徒等ヨリ親分ニ
送付スル年度金ノ取立乾兒間ニ生シタル紛議ノ裁斷及ヒ仲裁若クハ親
分ヨリ乾兒ニ對スル指揮命令ノ傳達等ヲ爲スハ何レモ博徒結合圖利ノ
正犯ヲ幫助スルモノニシテ博徒結合圖利罪ノ從犯ヲ以テ論スヘキモノ
トス

四

二五二

○賭博開張罪ハ利益ヲ得ルノ目的ヲ以テ賭博ヲ爲サシムヘキ場所ヲ開設

○セルニ因リテ成立スルモノニシテ賭博者ヲ招集シ又ハ現實ニ利益ヲ取得スルコトハ其構成要件ニ非ス

四五

六六五

○賭場開張ノ罪ハ賭博場ヲ開張シテ利ヲ圖リタル行爲ニ關スルモノナルヲ以テ苟モ偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戯又ハ賭事ヲ爲ス設備ヲ爲シ因テ財産上ノ利益ヲ獲得セントスル者ハ賭場開張罪ヲ以テ論スヘク現ニ其賭博場ニ於テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者アルト否トヲ問フノ要ナキモノトス

三

九八九

○賭場開張罪ニ在テハ其賭博場ニ於テ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者アルコトヲ要セサルヲ以テ現ニ博奕ヲ爲シタル者アリト認メタル場合ニ於テモ亦各其賭博者及ヒ各賭博者ヨリ獲得シタル手数料ヲ判示スルコトヲ要セス

二

九八九

○賭博場開張罪ニ在テハ現實ニ利益ヲ取得スルコトヲ要件トセサルヲ以テ數回連續シテ客ヨリ口錢ヲ取得シタル事實アリトスルモノヲ以テ該罪ノ連續犯ナリト爲スヲ得ス

三

三九二

○刑法第八十六條第二項ニ所謂利ヲ圖リトハ賭場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シ因テ以テ不正ノ利ヲ獲得スルノ謂ニシテ其利益收受ノ現在ナルト將來ナルトハ該罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

三

八七一

○犯人カ意思繼續シテ一定ノ店舗ヲ本據トシ注文者タル賭者ノ相手方ト爲リ空相場ト稱スル賭博ヲ開張シ手数料ヲ徵シテ利ヲ圖リタルトキハ縱令賭金ヲ爲ス者數名アリ且數回ニ涉リテ注文手仕舞等カ行ハレ數次ニ手数料ヲ徵シ且開張ノ始期ヨリ終期ニ至ル迄十數日ヲ經過シタル事實アリトスルモ單一意思ノ發動ニ因リ單一ナル賭場開張行爲ヲ爲シタルモノナレハ單一ナル賭場開張罪ヲ以テ處分スヘク注文ノ口數若クハ注文者ノ員數毎ニ各別箇ノ賭場開張ノ行爲アリトシ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

四

一八一

○自ラ賭者ト爲リテ賭博ヲ爲ス方法ノ下ニ賭場ヲ開張シテ利ヲ圖リタルトキト雖モ其賭場開張行爲ト賭博行爲トノ間ニハ刑法第五十四條第一項後段ニ所謂手段又ハ結果タル關係ヲ有スルモノト云フヲ得ス

四

三九

(同三三)

賭場開張罪ト賭博罪トハ別箇獨立ノ犯罪ナルヲ以テ被告カ自己ノ開張シタル賭場ニ於テ自ラ賭博ヲ爲スモ之カ爲メニ其各犯罪ハ獨立ノ性質ヲ失フヘキモノニ非ス
空米相場ニ依ル賭博ヲ爲ス行爲ト其賭博ニ付キ賭場ヲ開張スル行爲トハ互ニ手段又ハ結果ノ關係ヲ有スルモノニ非ス

四四

一六二

四

三六

○賭博者ニ爲ス相場ノ告知ハ賭博者カ財物ノ得喪ヲ決スヘキ偶然ノ事情ヲ賭博者ニ告知スルモノニシテ賭博罪ヲ容易ナラシムル行爲ナルカ故

ニ賭博幫助罪ニ該當シ又賭者ノ誘引ハ賭博場開張者ヲシテ利ヲ圖ル便ヲ得セシムルモノナレハ賭博場開張罪ノ幫助ニ該當スルモノトス

(參照)

刑法第八十六條第一項ハ自ラ常習トシテ博戯又ハ賭事ヲ爲シタル者ニ限り適用セラルヘキモノニシテ單ニ他人ノ賭博行爲ヲ幫助シタル場合ニ於テハ縱令其幫助者カ賭博ノ常習アル者ナルトキト雖モ常習賭博ノ從犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(第六十五條三年九三二頁參照)

〔第八十七條〕

○富籤トハ財物ヲ醜集シ抽籤ノ方法ニ依リ富籤者ニ利益ヲ與フルノ行爲ヲ謂フモノトス

○富籤者ニ於テ利益ヲ受クルモ之ト同時ニ富籤セサル者ニ於テ其醜出シタル財物ヲ喪失スルコトナクシテハ富籤罪ヲ構成スルモノニ非ス

○富籤罪構成ノ一要件タル未富籤者ノ醜出シタル財物ノ喪失ナルモノハ現實醜出シタル財物ノ全部又ハ一部ノ喪失ヲ謂フモノニシテ單ニ其醜出シタル財物ノ利息ヲ得ルコト能ハサリシ如キ場合ヲ包含スルモノニ非ス

○賭博ト富籤トノ異ナル所ハ一ハ抽籤ノ方法ヲ用キサルモ他ハ此方法ニ依リ一ハ賭者ハ其勝敗ノ決スル迄提供シタル財物ノ所有權ヲ失フモノ

○ニ非サルモ他ハ其醜集シタル財物ハ直ニ富籤發賣者ニ於テ之ヲ取得スヘク一ハ賭博ニ干與スル胴元ト賭者トノ二者共ニ危險ノ負擔ニ任スルモノナルニ他ニ在リテハ富籤發賣者ハ其賭シタル財物ヲ損失スルノ危險存スルコトナシ

(同主旨)

富籤ハ財物ヲ醜集シ抽籤ニ依リ利益ヲ僥倖セシムル行爲ニシテ其發賣者ハ如何ナル場合ト雖モ危險ヲ負擔スルコトナシト雖モ賭博ハ財物ヲ賭スル行爲ニシテ胴元ト賭者トノ間ニ取引ノ關係ヲ有シ兩者何レモ危險ノ負擔ニ當ルモノトス

○刑法第八十七條ニ定メタル富籤ノ發賣トハ其購買者ヲシテ抽籤ノ方法ニ依リ利益ヲ僥倖セシムル目的ヲ以テ或籤札ヲ發賣スルヲ謂ヒ其籤札ハ右射倖ノ權利ヲ證明スルノ具トシテ賣買授受セラルヘキ有形ノ物體ヲ指スモノトス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

〔第九十條、第九十一條〕

○刑法第九十條ニ所謂遺骨ハ死者ノ祭祀若クハ記念ノ爲メ之ヲ保存シ

刑法 罪 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

六 一〇九

三 二六六

三 一五四

三 一五八

三 一五八

三 一五八

元 二七五

三 二二九

○又ハ保存スヘキモノタルコトヲ要ス故ニ死者ノ遺族其他遺骨ヲ處分スルノ權限ヲ有スル者カ風俗慣習ニ從ヒ正當ニ處分シタルモノハ縱令之ヲ領得スルモ同條ノ犯罪ヲ構成セス

四三

一六〇八

○死體遺棄ノ行爲ハ常ニ必ス殺人行爲ニ伴フモノニ非サルヲ以テ人ヲ殺シタル後更ニ死體ヲ遺棄スルニ於テハ殺人罪ノ外ニ尙ホ死體遺棄罪ヲ構成スルモノトス

四四

一三八八

○遺棄罪ノ客體タル死體ニ付テハ刑法第九十條ハ單ニ死體トノミアリテ何等ノ區別ヲ存セサルカ故ニ苟モ人ノ形體ヲ備ヘタル死屍ナルニ於テハ縱令死胎ナリト雖モ之ヲ死體ト稱セサルヲ得ス

四四

一七五二

○刑法第九十條ニ於テ規定スル犯罪ノ目的物ハ同第九十一條ニ規定スル不法ノ墳墓發掘ニ因リテ損壞遺棄又ハ領得ノ目的ト爲リタルモノヲ除外セル死體遺骨等ヲ包含スルモノトス

三

二〇九五

○適法ニ墳墓ヲ發掘シタル場合若クハ適法ノ目的ヲ以テ墓地域内ヲ掘鑿スルニ因リ過テ棺槨ヲ破壞シタル等ノ場合ニ於テ其發見シタル死體遺骨等ヲ不法ニ損壞遺棄若クハ領得シタル所爲ハ刑法第九十條ニ依リテ之ヲ處斷スヘキモノトス

三

二〇九五

○刑法第九十條及ヒ第九十一條ノ目的ハ公序良俗ノ保護ニ存シ財產

上ノ權利ニ關スル一個人ノ利益ノ保護ニ存セス從テ其領得物ハ贓物ニ非ス
○葬祭ヲ爲スヘキ責務ヲ有スル者カ葬祭ノ意思ナクシテ死體ヲ放置シ其所在ノ場所ヨリ離去スル所爲ハ死體遺棄罪ヲ構成スルモノトス

四

八八六

六

一三〇二

第二十五章 瀆職ノ罪

(第九十三條)

『第九十三條』

○刑法第九十三條ハ公務員カ不法ニ其職權ヲ行使シ他人ヲ強制シテ其人ノ義務ニ屬セサル行爲ヲ爲サシメ若クハ其人ノ當然行フヘキ權利ノ行使ヲ妨害スル行爲ヲ處罰スル規定ニシテ公務員カ職權ヲ濫用シ他人ヲシテ犯罪行爲ヲ實行セシメタル場合ニ該當セス

元

一五七七

(第九十五條)

『第九十五條』

○巡查カ勤務中犯罪嫌疑者ニ對シ陵辱苛虐ノ行爲ヲ加ヘタルトキハ縱令其行爲カ猥褻又ハ姦淫タルノ實質ヲ具フル場合ト雖モ刑法第九十五條ノ罪ヲ構成スルモノトス

四

七一七

○巡查ニシテ權限アル者ノ命令ニ基キ犯罪搜查ノ補助ヲ爲ス以上ハ刑法第九十五條ニ所謂警察ノ職務ヲ補助スル者ナリトス從テ其職務ヲ行

フニ當リ同條所定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ之カ處罰ヲ免ルルコトヲ得

〔第九十七條〕

〔第九十七條〕

- 公務員カ其職務ニ關シ金圓授受ノ條件附約束ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ到來スルト否トニ依リ或ハ贈與者ト爲リ或ハ受贈者ト爲ルヘキトキハ其行爲ハ一箇ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノト云ハサルヲ得ス
- 賄賂收受ノ罪ト賄賂聽許ノ罪トハ既遂罪ト未遂罪ニ於ケル關係ト同シク唯犯罪行爲ノ程度ヲ異ニスルニ止マリ其性質ニ至テハ彼此同一ナルヲ以テ一箇ノ犯罪中ニ右ノ二行爲ヲ包含シ得ルモノトス
- 賄賂罪ノ要件タル請託關係ハ請託者カ事項ヲ特定シテ囑託スルト否トヲ區別セサレハ請託ヲ受クル公務員カ職務ノ範圍内ニ於テ爲シ得ル事項中其見込ニ依リ請託ノ旨趣ニ應スヘキ方法ヲ以テ隨時取計ヲ爲スヘキコトヲ囑託シタル場合モ亦之ニ包含スルモノトス
- 苟モ特定吏員ノ職務ニ屬スル事項ニ付キ賄賂ヲ授受シタル以上ハ其職務ノ執行カ期限若クハ未必的ナル將來ノ出來事ニ繋ル場合ト雖モ賄賂授受罪ノ成立ヲ妨ケス
- 專賣局製造所作業課長ハ製造所處務規定第八條同第九條ノ規定ニ依リ

五	一五五〇
四二	二二九九
四二	一八四三
四三	一三七四
四三	一四一三

- 煙草元賣捌人指定ノ事務ニ干與スヘキ職權ヲ有ス從テ其職務ノ執行ヲ豫期シ賄賂ヲ收受シタル所爲ハ收賄罪ヲ構成スルモノトス
- 苟モ公務員又ハ仲裁人ノ職務ニ關シ賄賂ヲ授受スルニ於テハ賄賂授受罪ハ完全ニ成立スルモノトス從テ其賄賂授受ノ際公務員又ハ仲裁人カ請託ノ旨趣ニ從ヒ職務ノ執行ヲ爲スノ意思不確定ニシテ請託ニ因リ始メテ其意思ヲ決定スルニ至リタルコトハ本罪構成ノ要件ニ非ス
- 被告カ盜贓品タル情ヲ知り乍ラ之ヲ賄賂トシテ收受シタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ收賄及ヒ盜贓收受ノ二罪名ニ觸レタルモノトス
- 收賄罪ハ公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受スルニ因リテ成立シ必スシモ收賄者カ其職務上不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルヘキ旨ノ請託ヲ受クルコトヲ要セス
- 收賄罪ノ成立ニハ必スシモ人ノ請託ヲ受クル事實アルヲ要スルモノニ非スト雖モ請託其モノカ公務員ノ職務上ノ事ヲ目的トスル場合ニ於テ其請託ヲ受クルハ即チ其職務ニ關スルモノニシテ收賄罪ノ成立ヲ認ムル上ニ必要ナル事實ナルヲ以テ判文上之ヲ明示スルノ要アルモノトス
- 縣會議員カ議場ニ出席シテ決議ヲ爲スハ其職務ノ執行タルコト勿論ナレハ賄賂ヲ收受シ因テ議場ニ出席セサリシハ刑法第九十七條第一項

四三	一六七六
四三	一八六三
四四	四八〇
四四	八七九
四四	一〇五七

後段ニ所謂相當ノ行為ヲ爲ササルモノニ該當ス

四

二二七

○縣會議員ハ豫算案ヲ議決スルノ職務ヲ帶有スルモノナルカ故ニ或豫算案ノ可決ニ盡力スヘキ條件ヲ以テ賄賂ヲ約束スルニ於テハ現ニ同豫算案カ縣會ニ提出セラレ居ルト否トニ論ナク又後日提出セラレタルト否トヲ問ハス收賄罪ハ賄賂ノ約束ヲ爲シタル當時直ニ成立スルモノトス

○司法省工手カ裁判所廳舎ノ新築工事監督中請負人ノ依頼ニ因リ報酬ヲ得テ右工事ヲ寛ニシタル行為アリタル場合ニ於テ若シ司法省工手ニシテ公務員ナランカ收賄罪ヲ構成スルト同時ニ背任罪ヲモ構成シ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レタルモノト云フヲ得ヘシ

四五

五五

四五

五七〇

○司法省工手ナル者ハ其性質一般ノ雇員ト異ナルコトナク又現行法令中何等其職務權限ヲ定メタルモノナキヲ以テ刑法第七條ニ所謂公務員ナリト云フヲ得ス從テ其職務ニ關シ金品ノ贈與ヲ受クルコトアルモ之ヲ收賄罪ニ問擬スルヲ得ス

四五

五七〇

○郡長カ舊町村制第百十七條ニ依リ組合事務ノ管理方法ヲ規定スル組合規定ニ基キ町村組合ノ事務ヲ管理スル者ナルトキハ所謂法令ニ依リ公務ニ從事スル者ニシテ即チ公務員ナリトス

四五

六一四

○收賄若クハ贈賄ノ原因タル行為ハ公務員又ハ仲裁人ノ職務自體ナルコトヲ要セス其職務ニ關涉スルモノナルヲ以テ足ルモノトス

二

一三九三

○刑法第百九十七條第一項ノ規定ハ苟モ職務執行ニ關シテ賄賂ヲ收受シタル以上ハ其收受カ職務ノ執行前ナルト否トヲ問ハス之ヲ處罰スルノ法意ナリトス

二

一四二二

(同主旨)

收賄罪ハ常ニ必スシモ將來ニ於ケル職務違反ヲ以テ目的ト爲ササルヘカラサルモノニ非ス故ニ公務員等カ或職務ノ執行後正當ノ理由ナク其報酬トシテ財物ノ收受等ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ構成スルモノトス

公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シテ賄賂ヲ收受シ若クハ之ヲ聽許スルニ於テハ刑法第百九十七條第一項ノ犯罪ヲ完成ス而シテ其賄賂ノ收受又ハ聽許カ職務執行後ニ在リタルコトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

四

一六六

○郡ノ技手トシテ箇箇ノ土木工事ニ付キ一郡長ノ命令アルニ非サレハ職務ヲ執行スル權能ヲ有セサル者ト雖モ其職務ノ執行ヲ豫期シ之ニ關シ不正ノ利益ヲ要求收受シタルトキハ刑法第百九十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

三

EO11

○北海道土功組合法ニ依ル組合ノ役員タル評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ業務執行及ヒ財産ノ狀況ヲ監査スル職責アル者ナレハ其業務執行上ニ

ノ爲メ特定事件ノ擔任未必ノ状態ニ在ル場合ト雖モ其事項發生後之ヲ分擔處理シ得ヘキ地位ニ在ル公務員カ將來ノ利益ヲ期待スル贈賄者ノ意思ヲ諒シテ賄賂ヲ受ケタル以上ハ刑法第百九十七條第一項ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス

(同主旨)

贈賄者カ將來ノ利益ヲ期待シタルニ過キサル場合ト雖モ苟モ公務員カ其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シタル以上ハ收賄罪ノ成立ヲ妨グルモノニ非ス

○賄賂ハ必スシモ不正行爲ニ對スル反對給付タルコトヲ要セサルヲ以テ苟モ公務員又ハ仲裁人カ其職務ニ關シ收受シタル利益ナル以上ハ該職務行爲自體ハ正當ナリトスルモ之ヲ賄賂ナリト解シ得ヘキモノトス
(同主旨)

收賄罪ハ公務員又ハ仲裁人カ職務上ノ行爲ニ付キ報酬トシテ他人ヨリ不法ニ利益ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若クハ約束スルニ依リテ成立ス而シテ其報酬カ職務上ノ行爲ニ關スル以上ハ其行爲ノ正當ナル場合ト雖モ犯罪ヲ構成スルニ妨ナキモノトス

○村會議員カ故ラニ闕席シテ議事ニ干與セサルハ其職務ニ違反スル行爲ニシテ此職務違反ノ行爲モ亦之ヲ職務ニ關スル行爲ト爲スヘキモノトス

○村會議員タル者カ村長タランコトヲ希望スル者ノ爲メニ同僚議員間ニ

五 三 五 八八四
五 九八一
一五八三
四〇二
一七八

斡旋シ之ヲ勸誘シテ村會ニ於テ多數投票ヲ得村長ニ選舉セシムルコトニ運動盡力スルカ如キハ其職務ニ關スル行爲ナルコト明カナレハ之ニ關シテ賄賂ノ收受ヲ約スルハ刑法第百九十七條第一項ノ犯罪ヲ構成スルコト論ヲ竣タス

○刑法第百九十七條第一項ノ罪ト同第百九十八條第一項ノ罪トハ共ニ同一罪質ニ屬スル賄賂罪ナルヲ以テ各罪ノ間ニ連續犯アリト認ムルモ不當ニ非ス

○事務分配上被告カ鐵道院技手トシテ擔任スル事務ニ變更ヲ生スルコトアリトスルモ之カ爲メニ收賄罪ノ構成要素タル公務員ノ職務ニ異同ヲ生スルモノト謂フヲ得ス

○刑法第百九十七條後段ニ所謂不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキトハ積極的若クハ消極的行爲ニ因リ其職務ニ違反スル一切ノ行爲ヲ指稱シ單ニ外部ニ對スル職務上ノ處分行爲ノミヲ謂フモノニ非ス

○千葉縣輕便鐵道管理所長ヨリ任命セラレ其事務ノ分配ヲ受ケ居ル者ハ大正二年千葉縣訓令第十四號及ヒ同告示第九十九號ニ依リ公務員ナリトス

六 七三七
六 一一〇
六 一一五二

○金錢消費貸借ニ於テハ借主ハ其金錢ヲ消費スル權利ヲ得ルモノナレハ
縱令無利子無期限等特別利益ノ事情存セサルモ金融ノ利益ヲ得ルモノ
ト謂フヘク其利益ハ賄賂ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

一四三八

○村長カ村ヲ代表シテ小學校建築ノ請負工事ヲ監督スルハ其當然ノ職務
ナルヲ以テ村長カ其監督ニ關シ財物ヲ收受スルトキハ賄賂收受罪ヲ構
成スルモノトス

一四七二

○賄賂トシテ收受シタル金錢ヲ自己ノ所持セル金錢ト混同シテ判別不能
ニ至ラシメタルハ之ヲ費消シタルモノト同シカラサルハ勿論ナレトモ
判別不能ナルニ於テハ收賄金其物ハ沒收スル能ハサルニ至リタルモノ
ニ外ナラス

五六二

○收賄者カ其收受セル金圓ヲ贈賄者ニ返還シタルトキハ其所爲ハ單純費
消行爲ト同一視スヘキモノニシテ刑法第九十七條第二項ニ所謂賄賂
ノ全部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ相當ス

一八六一

(同左旨)

賄賂ノ沒收及ヒ追徴ハ共ニ收賄罪ニ對スル附加刑ナルヲ以テ一旦收賄罪カ成立シタル以上ハ
其後ニ至リ賄賂ヲ被害者ニ返還スルモ之カ追徴ヲ免レ得ヘキモノニ非ス

五七〇

○甲、乙ノ依頼ニ依リ贈賄ノ目的ヲ以テ加功者丙ト共ニ丁ヲ響應シタル

場合ニ於テ其追徴スヘキ賄賂ノ價額ハ收賄者丁ノ爲メニ要シタル部分
ノミナリトス

二九八

(反對)

普通ノ意義ニ於テ響應トハ酒食ヲ供ヘ他人ヲ優遇欲待スル謂ナレハ響應ノ費用ハ賓客ニ供與
シタル酒食ノ價額ノミナラス之カ接待ノ任ニ當レル主人ノ採レル酒食ノ價額ヲモ包含スルモ
ノトス

一四七三

賄賂ノ目的ヲ以テ人ヲ響應スル場合ニ於テ收賄者ノ利益ハ惟リ自ラ口腹ニ充テタル酒食ニ止
マラス其款待ニ因ル精神的満足ヲモ含ムヘケレハ總テ其響應ニ要シタル費用ヲ以テ賄賂ノ價
額ト認ムヘキモノトス

一四七三

○刑法第九十七條第二項後段ハ性質上沒收ノ不可能ナル場合ニ於テモ
其價格ヲ追徴スルノ法意ナリ

七二二

○公務員其職務ニ關シ賄賂ノ要求又ハ約束ヲ爲シ退職又ハ轉職後其要求
若クハ約束ニ基キ收受シタル財物ハ之ヲ沒收又ハ追徴スヘキモノニ非
ス

一〇一一

○刑法第九十七條第二項ハ二人以上共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ
於テ該犯人中第六十五條第一項ノ規定ニ依リ共犯タル者アリトスル
モ尙ホ其者ヲシテ賄賂分配費消事實ノ有無ニ論ナク身分アル共犯者ト
共ニ平等分擔ノ責任ヲ負ハシムル法意ナリトス

一三二六

(同主旨)

數人共同シテ賄賂ヲ收受シタル場合ニ於テ其賈消シタル賄賂ヲ追徴スルニハ共犯人各自ノ分配額如何ニ拘ハラズ平等ニ分割シテ之ヲ負擔スヘキモノトス

四四 二四一

○賄賂トシテ收受シタル反物ヲ以テ單衣ヲ製シタル場合ノ如キハ未タ其現物ヲ沒收スルコト能ハサル程度ニ加工變更シタルモノト謂フヲ得ス

四五 八八四
四六 一三九

(第百九十
八條)

『第百九十八條』

○賄賂ノ授受アリタル場合ニハ贈賄者ト收賄者トハ相互ニ共犯タルノ關係ヲ有スルモノトス

四三 一三八二

○他人ト共謀シテ賄賂ノ爲メ金圓ノ給付又ハ酒食ノ饗應ヲ爲シタル者ハ縱令金圓費用等ヲ自ラ支出セザリシ場合ト雖モ賄賂提供ノ正犯タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

四三 一八〇八

○公務員ニ直接賄賂ヲ提供セサルモ之ニ提供スヘキ旨趣ヲ以テ其妻ニ差

出シタルトキハ刑法第百九十八條ノ所謂賄賂ヲ提供シタルモノニ該當ス

四三 二四九

○公務員又ハ仲裁人ニ對シ其職務ニ關シテ賄賂ヲ交付提供又ハ約束シタル事實アルニ於テハ賄賂罪ハ直ニ成立スルモノナルヲ以テ請託ノ事實アリヤ否ヤハ本罪成否ノ判定上必要ナル事項ニ非ス

四四 二四一

○賄賂ノ目的タルニハ必スシモ有體物ニ限ラス有形ナルト無形ナルトヲ問ハス一切ノ利益ヲ包含スルモノナルハ費用ヲ負擔セスシテ貸座敷ニ於テ遊興ヲ爲スカ如キモ亦該目的タル一種ノ利益ニ外ナラサルモノトス

四四 一八七五

○收賄若クハ贈賄ノ原因タル行爲ハ公務員又ハ仲裁人ノ職務自體ナルコトヲ要セス其職務ニ關涉スルモノナルヲ以テ足ルモノトス

四二 一三九三

○刑法第百九十八條ニ所謂賄賂ノ約束トハ他人ニ對シ一定ノ地位ヲ供與スヘキ旨ヲ約スルカ如キ場合ヲモ包含スルモノトス

四四 七〇三

○苟モ公務員又ハ仲裁人ノ職務ニ關シ賄賂ヲ交付若クハ提供シタル以上ハ刑法第百九十八條ノ賄賂罪ヲ成立スルモノニシテ其職務執行ノ目的タル事項カ特定シ若クハ特定シ得ヘキモノナルコトヲ要セス

四五 一八四八

○上其數ニ應スル贈賄罪ニ觸ルル一箇ノ行為ニシテ之ヲ包括的ニ觀察シテ單獨ナル一箇ノ贈賄罪ナリト云フヲ得ス

(同主旨)

○被告カ同時ニ二人又ハ二人以上ノ者ニ贈賄シタルトキハ所謂一箇ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條ヲ適用處斷スヘキモノトス

○刑法第九十七條第一項ノ罪ト同第九十八條第一項ノ罪トハ共ニ同一罪質ニ屬スル賄賂罪ナルヲ以テ各罪ノ間ニ連續犯アリト認ムルモ不當ニ非ス

○刑法第九十八條第一項ノ所謂賄賂提供罪ヲ成立スルニハ單ニ贈賄者カ相手方ニ對シ賄賂ノ收受ヲ促スノ意思ヲ表示スルヲ以テ足り必スシモ其賄賂タル利益ヲ現實ニ收受シ得ヘキ状態ニ置クコトヲ要セサルモノトス

○村有財産ノ賣却ニ付キ隨意契約ノ準備トシテ假契約ノ締結ニ盡力シ又本契約ノ締結ニ關シ議案ヲ村會ニ提出シ且其議決ヲ得ルコトニ盡力スルハ村長ノ職務ニ關スル行為ナリト謂ハサルヘカラス故ニ村長ニ對シ右ノ行為ニ付キ報酬ヲ贈與スヘキコトヲ約束スルトキハ賄賂約束罪ヲ構成スルモノトス

第二十六章 殺人ノ罪

(第九十九條)

『第九十九條』

○刑法第九十九條ニ於ケル二箇以上ノ主刑ハ全然刑ノ種類ヲ異ニスルカ故ニ最モ重キ刑ヲ以テ最上限ト爲シ最モ輕キ刑ヲ以テ最下限ト爲シタル一箇ノ刑ノ範圍ヲ構成スルモノト云フヲ得ス

○殺人罪ノ客體タル人ハ犯罪ノ當時生活機能ヲ保有シタルモノナルヲ以テ足り其健康状態カ善良ニシテ相當ノ天壽ヲ享ケ得ヘカリシ者ナルコトヲ要セス

○殺人ノ目的ヲ以テ其實行行為ニ著手シタル後強盜ヲ爲シ遂ニ殺人ノ所爲ヲ遂行シタルトキハ即チ一箇ノ行為ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス從テ其所爲ニ對シ刑法第二百四十條ノミヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

○刑法第二百四十條ノ罪ハ同第九十九條ニ規定スル殺人罪ノ特別ナル場合ニ屬セス全然別種ノ犯罪ヲ成スモノナルカ故ニ殺意ヲ以テ人ヲ殺傷シテ強盜行為ヲ行ヒタルトキハ一面ニ於テ強盜致死又ハ強盜傷人ノ犯罪成立スルト同時ニ他ノ一面ニ於テ殺人又ハ殺人未遂ノ犯罪ヲ構成

六

四三

五

二四六

六

四八一

七

二〇六

七

二四七二

四三

五八

四三

八五七

四三

九三

スルモノトス

(同主旨)

犯人が當初ヨリ入ヲ殺害シ財物ヲ強取セント企テ同一ノ意思ノ發動ノ下ニ先ツ之ヲ毆殺シ金錢ヲ奪取シタル後其妻ヲ脅迫シテ物品ヲ強取シタルトキハ所謂一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ一ノ重キニ從ヒテ處斷セサルヘカラス

○死體遺棄ノ行爲ハ常ニ必ス殺人行爲ニ伴フモノニ非サルヲ以テ人ヲ殺シタル後更ニ死體ヲ遺棄スルニ於テハ殺人罪ノ外ニ尙ホ死體遺棄罪ヲ構成スルモノトス

○家宅侵入ノ行爲ハ殺人未遂罪ヲ犯スノ手段ナルヲ以テ家宅侵入ノ點ニ對シ刑法第三百三十條ヲ適用シ且殺人未遂罪トノ關係上同法第五十四條第一項後段ヲ適用處罰スヘキモノトス

(同主旨)

甲者カ乙者ヲ殺害セント企テ丙者ノ住宅ニ侵入シテ其目的ヲ遂ケタルトキハ右ノ家宅侵入ノ所爲ハ殺人行爲ノ手段ナルカ故ニ刑法第五十四條ヲ適用シテ之ヲ處分スヘキモノトス

○殺人ノ見張ヲ爲シタル行爲ハ殺人行爲ト相俟テ殺人ノ實行行爲ヲ組成スルモノナルヲ以テ見張者ニ對シテハ單ニ共同實行正犯トシテ之ニ關スル罰條ヲ適用スヘク從犯ノ罰條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○一箇ノ殺人罪及ヒ三箇ノ殺人未遂罪ヲ行フ手段トシテ一箇ノ家宅侵入

四三

一七六四

四三

一〇一一

四四

二三八八

四四

二七三

四三

一一一〇

四四

二七三

罪ヲ犯シタルトキハ其各行爲ハ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ重キ

殺人罪ヲ以テ處斷スヘキ一罪ヲ構成スルモノトス從テ輕キ家宅侵入及

ヒ殺人未遂ノ各行爲ハ獨立シテ累犯加重ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

○養育ノ義務ヲ負フ者カ殺害ノ意思ヲ以テ故ラニ被養育者ノ生存ニ必要ナル給與ヲ爲サスシテ之ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第九十九條ノ罪ヲ構成シ單ニ其義務ニ違背シテ生存ニ必要ナル給與ヲ爲サス因テ之ヲ

死ニ致シタルトキハ同法第二百十八條第二百十九條ノ罪ヲ構成スルモノトス

○死亡ノ結果ニ付キ故意ヲ有シ暴行ヲ以テ婦女ヲ姦淫シ因テ死ニ致シタル所爲ハ強姦致死罪及ヒ殺人罪ノ罪名ニ觸ルルモノトス

○甲者ヲ殺害セントスルニ當リ同人ト同寢シ居リタル乙者ヲ傷害シタル場合ニ於テ其行爲カ乙者ヲ甲者ト誤認セルニ由ルカ又ハ未必ノ故意ニ出テタルトキハ殺人未遂罪ヲ構成スレトモ犯人ノ過失ニ因リタルトキハ單ニ過失傷害罪ヲ構成スルニ止マルモノトス

○數人共謀シ各自同時ニ個個ノ人ヲ殺害シタルトキハ其各自ノ方面ニ數箇ノ殺人罪名ニ觸ルル一箇ノ行爲アルモノト解スヘキモノトス

○殺意ヲ以テ二箇ノ異ナル殺害方法ヲ他人ニ施シタルモ第一ノ方法ヲ以

四五

三三八

四

九〇

四

二〇八八

五

一三三三

五

一六九三

○テシテハ殺害ノ結果ヲ惹起スルコト絶對ニ不能ニシテ單々其者ヲ傷害シタルニ止マリ第二ノ方法ヲ用キ始メテ殺害ノ目的ヲ達シタルトキハ第一ノ方法ニ依ル行爲ヲ殺人罪ニ問擬スヘカラサルハ勿論ニシテ該行爲ノ結果カ傷害罪ニ該當スルニ於テハ傷害罪トシテ處斷スヘク第二ノ方法ニ依ル殺人罪ノ既遂ト連續犯ノ關係ヲ有スル未遂ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○傷害罪ト殺人罪トハ同一條章ノ下ニ規定セラレサルノミナラス一ハ生命ニ對スル罪一ハ身體ニ對スル罪ニシテ其罪質ヲ異ニスルヲ以テ連續犯トシテ處分スルコトヲ得ス

○被告カ甲及ヒ其家人ノ必然飲用スヘキ鐵瓶ノ沸湯ニ昇汞ヲ投入シ置キタル以上ハ其家人ノ數及ヒ其名ノ不明且不特定ナル場合ニ於テモ致死ノ結果ヲ豫想スヘキモノト論スルコトヲ得ヘク隨テ右飲用者ノ數ニ應スル殺人罪存スヘキモノナレハ一行爲ニシテ數箇ノ殺人罪名ニ觸ルルモノトス

○殺害ノ目的ヲ以テ同一人ニ對シ日時場所ヲ異ニシテ數次ニ攻撃ヲ加ヘ初ハ著手未遂ニ了リタルモ其後尙ホ意思繼續シテ之ヲ遂行シ其目的ヲ達シタル場合ニ於テハ其目的ヲ達スルニ至ル迄ノ攻撃行爲ハ實行行爲

ノ一部ニ外ナラサレハ之ヲ包括的ニ觀察シ一箇ノ殺害行爲ト看做スヘキモノトス

○爆發物取締罰則ノ規定ト刑法第九十九條以下ノ規定トハ人ノ身體ヲ害スル目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル場合ニ付キ互ニ競合スルモノニシテ此場合ニ於テハ爆發物取締罰則ノ規定ト刑法ノ規定トヲ比較シ重キニ從テ處斷スヘキモノトス

○他人カ食用ノ結果中毒死ニ至ルコトアルヘキヲ豫見シ乍ラ毒物ヲ其飲食シ得ヘキ状態ニ置キタル事實アルトキハ毒殺行爲ニ著手シタルモノニ外ナラス

第二百一

『第二百一條』

○苟モ殺害ノ意思ヲ確定シ之カ豫備ヲ爲シタル以上ハ其殺意ノ條件附ナルト否トニ論ナク刑法第二百一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

○他人ヲ殺害スル目的ヲ以テ其住宅ニ侵入シタル者ノ行爲ハ一面ニ於テ殺人豫備罪ニ該リ他ノ一面ニ於テ家宅侵入罪ニ當ルヲ以テ所謂一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ其重キニ從テ處罰スヘキモノトス

○一旦殺人ノ豫備行爲ニ著手シ其幾分ヲ爲シタルトキハ縱令其後ニ至リ

四四	四二	七	七	七
二三六	七六九	一三五二	六五八	一〇三

六

六

六

九九九

一〇二二

一三六一

○任意ニ之ヲ中止スルモ刑法第二百一條ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

○殺人ノ目的ヲ以テ其豫備行爲ヲ爲シ進テ實行ニ著手シタル後任意ニ之ヲ中止シタルトキハ刑法第九十九條又ハ第二百條ノ刑ヲ減輕シ若クハ免除スルニ止マリ其豫備行爲ニ對シテ別ニ同法第二百一條ノ刑ヲ科スヘキモノニ非ス

『第二百二條、第二百三條』

○被害者カ眞意ナクシテ戲レニ自己ノ殺害ヲ囑託シ加害者之ヲ殺サントシテ手ヲ下シタルモ遂ケサル場合ニ於テハ刑法第三十八條第二項ニ依リ其所爲ニ對シテ同第二百二條第二百三條ノ刑ヲ適用スヘキモノトス
○刑法第二百二條ノ罪ハ自殺者若クハ被殺者タル本人ト犯人トノ間ニ同死スル合意アリタリトスルモ其成立ノ妨ト爲ルヘキモノニ非ス

第二十七章 傷害ノ罪

〔第二百四條〕

○公務員カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタルトキハ同一行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十

四條ニ依リ重キニ從テ處斷セサルヘカラス

(同主旨)

警察吏カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ傷害シタル所爲ハ刑法第五十四條ノ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナリトス從テ公務執行妨害及ヒ傷害ノ所爲中何レカ其一ニ對スル起訴ニハ當然他ノ一ヲモ包含スルモノナリ

○正當ノ理由ナクシテ他人ノ身體ニ不良ノ變更ヲ生セシメタルトキハ器具ヲ其用ニ供シタルト否ト又其器具カ甲ナルト乙ナルトニ拘ハラス傷害罪ヲ構成スルモノナリ

○血腫脹ハ刑法上一種ノ創傷ナリトス

○刑事訴訟法第六十條同第六十一條ノ規定ニ依リ權利ノ實行トシテ被告人ヲ逮捕引致スル場合ト雖モ暴行ノ結果其身體ヲ傷害シタル以上ハ傷害罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

○毆打ノ教唆者ヲ教唆スルニ當リ之カ實行者タルヘキ者ヲ限定スルト否トハ毆打ノ間接教唆トシテ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホササルノミナラス其情狀ニモ變更ナキモノトス

○傷害ハ暴行ニ因リテ他人ノ生活機能ヲ毀損スルノ謂ナレハ暴行ノ方法程度兇器ノ有無及ヒ其種類ノ如キハ傷害罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ

四二	四三	四三	四二	四三	四三	四二	四二
一三六	九二〇	一七四九	一七四九	八二八	二二九	三四五	

四	四三	五	五
四八七	七六〇	六八五	六八五

- 刑法ニ所謂人ヲ傷害ストハ他人ノ身體ノ現狀ヲ不良ニ變更スルノ謂ニシテ必スシモ身體ノ組織ヲ物質的ニ破壊スルコトヲ要セス
- 刑法第二百四條ノ傷害罪ハ他人ノ身體ニ對スル暴行ニ因リ其生活機能ノ毀損ヲ惹起スルコトニ因リテ成立スルモノナレハ不法ニ人ノ毛髮鬚髯ヲ截斷シ若クハ剃去スル行為ハ之ヲ以テ直ニ健康狀態ノ不良變更ヲ來シタルモノト云フヲ得ス從テ同條ノ所謂傷害罪ニ該當セス
- 決闘ニ因ル傷害ノ行為ハ明治二十二年法律第三十四號第三條ニ依リ刑法所定ノ傷害罪ノ刑ヲ適用處罰スヘキモノニ該ル特別法犯ナレハ刑法ノ傷害罪トシテ之ヲ論スルヲ得サルハ勿論一箇ノ傷害行為カ刑法ノ傷害罪ト特別法ノ傷害罪トノ二罪名ニ觸ルル場合ニモ該當セス
- 刑法ニ所謂傷害トハ體軀ノ完全ヲ害スルノ謂ニシテ生活機能ニ障礙ヲ與フル一切ノ場合ヲ包含スルモノトス
- 小兒ヲ背負ヒタル者ヲ突飛ハス行為ハ其小兒ニ對シテモ亦暴行ナルコト論ヲ竣タス從テ之カ爲メ小兒ニ負傷セシメタルトキハ傷害罪ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス
- 人ノ住居ヲ侵害シ其者ニ傷害ヲ加フルニ於テハ其住居侵害ハ侵入ナルト不退去ナルトヲ問ハス傷害ノ手段ニシテ獨立ノ犯罪ヲ構成セス

四	三	三	二	四	四
四四四	二二六	一四〇二	二六一	八九六	七二

(同主旨)

- 人ヲ毆打スル爲メ其家宅ニ侵入シタルトキハ刑法第五十四條第一項ニ依リ該侵入行為ハ傷害ノ行為ト相合シ一罪トシテ處分セラルヘキモノナレハ其毆打ノ事實ニ對スル起訴ニハ當然家宅侵入ノ行為ヲ包含スルモノトス
- 人ヲ傷害スル爲メ其住居ニ侵入シタル場合ニ在テハ住居侵入ノ行為ハ人ヲ傷害スル手段ナルヲ以テ刑法第五十四條ヲ適用スヘキモノトス
- 同一意思ノ發動ニ基キ數箇ノ舉動ヲ以テ同一人ニ暴行ヲ加ヘ其身體ヲ傷害シタルトキハ數箇ノ舉動ハ之ヲ包括シテ一箇ノ傷害行為ト觀ルヲ相當トス
- 傷害罪ハ結果罪ナルカ故ニ暴行ヲ加フルノ故意アルヲ以テ足り傷害ノ結果ニ付キ認識アルコトヲ必要トセス

(同主旨)

- 苟モ故意ヲ以テ他人ノ身體ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ傷害ヲ豫期スルト否トニ論ナク其結果ニ付キ責任ヲ負ハサルヘカラス
- 傷害罪若クハ傷害致死罪ノ構成ニハ犯人ニ於テ其原因タルヘキ行為ヲ爲スノ意思アレハ足り其結果ニ對スル故意アルコトヲ要セス
- 傷害罪ノ成立ニ必要ナル犯意ハ犯人ニ於テ人ニ對シ暴行ヲ加フルコトヲ認識スレハ足り其暴行ニ因テ傷害ノ發生スルコトヲ認識スルヲ要セス
- 殺意ヲ以テ一箇ノ異ナル殺害方法ヲ他人ニ施シタルモ第一ノ方法ヲ以

四三	四三	四二	六	五	四四	四三
二二九	三九三	四三八	二二九	二二六	一九八九	一四八五

テシテハ殺害ノ結果ヲ惹起スルコト絶對ニ不能ニシテ單タ其者ヲ傷害シタルニ止マリ第二ノ方法ヲ用キ始メテ殺害ノ目的ヲ達シタルトキハ第一ノ方法ニ依ル行爲ヲ殺人罪ニ問擬スヘカラサルハ勿論ニシテ該行爲ノ結果カ傷害罪ニ該當スルニ於テハ傷害罪トシテ處斷スヘク第二ノ方法ニ依ル殺人罪ノ既遂ト連續犯ノ關係ヲ有スル未遂ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

○傷害罪ト殺人罪トハ同一條章ノ下ニ規定セラレサルノミナラス一ハ生命ニ對スル罪一ハ身體ニ對スル罪ニシテ其罪質ヲ異ニスルヲ以テ連續犯トシテ處分スルコトヲ得ス

○苟モ他人ニ對シ故意ニ暴行ヲ加ヘ傷害ノ結果ヲ生セシメタル以上ハ縱令其傷害ノ結果カ犯人ノ目的トシタル者ト異ナル客體ノ上ニ生シタル場合ト雖モ暴行ノ意思ト傷害ノ結果トノ間ニ因果關係ノ存在ヲ認ムルコトヲ得ヘキヲ以テ傷害罪ノ成立要件ニ缺クル所ナケレハ刑法第二百四條ノ罪責ヲ負フヘク暴行ノ認識ナキ過失傷害罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

〔同主旨〕

苟モ人ヲ毆打スルノ意思ヲ以テ暴行ヲ加ヘタル以上ハ縱令傷害ノ結果カ犯人ノ觀察セサリシ

六	九九九
六	一〇二二
六	一三六二

客體ノ上ニ發生スルモ毆打創傷罪ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

○傷害罪ノ共犯ヲ認ムルニハ犯人カ各自相互ニ暴行ヲ爲スノ意思アルヲ認識シテ共ニ暴行ヲ爲シ傷害ノ結果ヲ惹起スルヲ以テ足り犯人間ニ謀議ノ事實アルコトヲ要セサルモノトス

〔參照〕

人ノ身體ハ之ヲ包括シテ一箇ノ法益ト觀察スルヲ得サレハ數人ニ對スル傷害ノ行爲ハ併合罪ノ例ニ依リ之ヲ處分セサルヘカラス(第五十五條二年一八五頁參照)

〔第二百五條〕

○傷害罪若クハ傷害致死罪ノ構成ニハ犯人ニ於テ其原因タルヘキ行爲ヲ爲スノ意思アレハ足り其結果ニ對スル故意アルコトヲ要セス

○被害者カ直接ニ身體ノ衰弱ニ因リテ死亡セシ場合ト雖モ其衰弱ニシテ傷害ニ基因シタル以上ハ傷害ヲ以テ直ニ死亡ノ原因ト判斷スルモ失當ニ非ス

○凡ソ結果ノ發生ニ原因ヲ與ヘタルトキハ其原因カ直接ナルト間接ナルトハ之ヲ論スルヲ要セス又其原因ノミニテハ結果ヲ發生セスシテ他ノ原因ト相合シテ結果ヲ發生シタル場合ナルト否トハ問フ所ニ非ス
○特定ノ行爲カ原因ト爲リ特定ノ結果ヲ發生シ又ハ發生スルコトアルヘ

四二	二三七
七	三二九
四三	八九五
四三	三九三
四三	一五八九
二	八八四

キコトカ吾人ノ知識經驗ニ依リ之ヲ認識シ得ヘキ場合ニ於テハ其行爲ヲ爲シタル者ハ其結果ノ發生ニ付キ原因ヲ與ヘタルモノトス

二

八八四

○創傷ノ爲メ膿毒症ヲ發シ之カ爲メ死亡シタルモノナルトキハ其死亡ノ結果ハ直接膿毒症ヨリ生シタルモノナルモ之ヲ以テ傷害致死ノ罪責ヲ免ルルヲ得ス

三

一五七九

○強盜ヲ爲スニ當リ傷害ノ故意ヲ以テ人ヲ傷害シ之ヲ死ニ致シタルトキハ其行爲ハ傷害致死罪ニ觸ルルコト論ヲ竣タスト雖モ刑法第二百四十條後段ノ罪ハ如上ノ行爲ヲモ包含スルヲ以テ單ニ同條ノミニ問擬スヘキモノトス

五

五二三

○人ノ身體ヲ不正ニ侵害スルノ認識ヲ以テ爲シタル意思活動ニ因リ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ傷害致死罪ヲ構成スルモノニシテ此意思活動カ一原因タルニ於テハ斯ル認識ナキ犯人ノ舉動カ之ニ附加結合シテ致死ノ結果ヲ生スルニ至リタル場合ト雖モ該意思活動ト致死ノ結果トノ間ニ因果關係ノ存在ヲ認ムルコトヲ得ルモノトス

七

一四六一

○被告カ被害者ニ對シ暴行傷害ヲ加ヘタル後既ニ死亡シタルモノト誤信シテ水中ニ投入シタル舉動ノ附加ニ因リ相合シテ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ被告ノ行爲ハ包括的ニ單一ノ傷害致死罪ヲ構成スルモノトス

七

一四六一

(第二百七條)

『第二百七條』

○刑法第二百七條ハ共同者ニ非スシテ二人以上暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ノ規定ナルカ故ニ二人以上共同シテ人ヲ傷害シタル場合ニハ之ヲ適用スルノ要ナシ

四

二四六

(同主旨)

○刑法第二百七條ノ規定ハ二人以上共謀シテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ之ヲ適用スヘキモノニ非ス

四

一八四一

○苟モ二人以上ノ者カ共同シテ他人ニ暴行ヲ加ヘタル以上ハ傷害ヲ生セシメタルト否ト又傷害ノ輕重ヲ問ハス總テ普通ノ共犯例ニ依ルヘキモノトス

四

三四五

○數名カ一箇ノ決闘行爲ヲ共謀實行シ因リテ相手方數名ニ傷害ノ結果ヲ生セシメタル場合ニ於テハ傷害ヲ生セシメサリシ者ト雖モ苟モ決闘行爲ニ干與シタル以上ハ刑法第六十條ニ依リ其罪責ヲ負フヘク同第二百七條ニ依リ其責ヲ負フヘキモノニ非ス

二

二六一

○數人ノ暴行者間ニ意思ノ連絡ヲ缺ク場合ニ於テハ各自ヲシテ其現ニ加ヘタル傷害ニ對シテ責任ヲ負ハシムヘク其傷害ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ刑法第二百

七條ヲ適用シ共犯ニ關スル第六十條ニ準據シ各自傷害ノ結果ニ對シテ全部ノ責任ヲ負フモノトス

〔第二百八條〕

○板片ヲ以テ他人ヲ毆打シタル後更ニ擊殺セントテピストルヲ差向ケ脅迫シタル場合ニ於テハ暴行及ヒ脅迫ノ二罪成立スルモノトス
○人ノ毛髮鬚髯ヲ截斷若クハ剃去スル行為ハ人ノ身體ノ一部ニ對スル不法侵害タル暴行ニシテ唯傷害ノ結果ヲ生セシメサルニ過キササルヲ以テ刑法第二百八條ノ暴行罪ヲ以テ之ヲ處罰スヘキモノトス

第二十八章 過失傷害ノ罪

〔第二百九條〕

○苟モ自己ノ過失ト他人ノ傷害トノ間ニ因果ノ關係存スル以上ハ常ニ過失傷害罪ヲ構成ス而シテ其過失カ傷害ノ直接原因タルト否トハ問フ所ニ非ス

○甲者ヲ殺害セントスルニ當リ同人ト同寢シ居リタル乙者ヲ傷害シタル場合ニ於テ其行為カ乙者ヲ甲者ト誤認セルニ由ルカ又ハ未必ノ故意ニ出テタルトキハ殺人未遂罪ヲ構成スレトモ犯人ノ過失ニ因リタルトキ

五 一三三

六 一三六

四三 一七

四三 一五一

〔第二百十條〕

ハ單ニ過失傷害罪ヲ構成スルニ止マルモノトス
○苟モ他人ニ對シ故意ニ暴行ヲ加ヘ傷害ノ結果ヲ生セシメタル以上ハ縱令其傷害ノ結果カ犯人ノ目的トシタル者ト異ナル客體ノ上ニ生シタル場合ト雖モ暴行ノ意思ト傷害ノ結果トノ間ニ因果關係ノ存在ヲ認ムルコトヲ得ヘキヲ以テ傷害罪ノ成立要件ニ缺クル所ナケレハ刑法第二百四條ノ罪責ヲ負フヘク暴行ノ認識ナキ過失傷害罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

〔第二百十條〕

○苟モ自己ノ過失ト他人ノ死亡トノ間ニ因果關係存在スル以上ハ其關係ノ直接タルト否トヲ論セス過失致死罪(刑法第二百十條)ヲ構成スルモノトス

○苟モ自己ノ過失ニ因リ他人ノ死亡ニ對シテ一ノ條件ヲ與ヘタル以上ハ其過失カ該結果ニ對シ唯一ノ原因ヲ成シタルト將タ他人ノ過失ト相俟テ共同的原因ヲ與ヘタルトヲ問ハス等シク過失致死ノ罪責ヲ負フヘキモノトス

○一箇ノ過失行為ニ因リ數人ヲ死ニ致シタルトキハ數罪ヲ構成スルモノニ非スト雖モ刑法第五十四條ニ所謂同一ノ行為ニシテ數箇ノ罪名ニ觸

ルルモノナルヲ以テ同條ヲ適用處斷スヘキモノトス

(同主旨)

凡ソ過失犯ノ如ク結果ノ發生ヲ以テ構成要件ト爲ス犯罪ニ在リテハ其犯罪タル結果ガ數箇アルトキハ之ニ應シテ數箇ノ犯罪存スヘキモノニシテ其數箇ノ犯罪カ一箇ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テハ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス

○被告カ被害者ニ對シ暴行傷害ヲ加ヘタル後既ニ死亡シタルモノト誤信シテ水中ニ投入シタル舉動ノ附加ニ因リ相合シテ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ被告ノ行爲ハ包括的ニ單一ノ傷害致死罪ヲ構成スルモノトス

『第二百一十一條』

○刑法第二百一十一條ノ罪ハ其行爲ノ積極ナルト消極ナルトヲ問ハス構成シ得ヘキモノトス

○電車ノ前路ニ於テ線路ヲ橫斷セントスル通行人ハ衝突ノ虞ナキ時期ヲ選擇シテ線路ニ入ルコトヲ要スルモノニシテ運轉手ハ進行中ノ電車ヲ停止シ通行人ヲシテ先ツ線路ニ入り之ヲ橫斷セシメ其通過スルヲ待テ電車ノ進行ヲ繼續スルノ義務ナキモノトス

○運轉手カ電車ヲ操縦スルニ當リテハ常ニ其進路ノ前方ヲ警戒シ危害ヲ未然ニ豫防スル周到ナル注意ヲ爲スコトヲ要スルモノナルヲ以テ通行

七

二

七

二

三

四

一三六

一四六

六〇一

二七八

人カ其姿勢態度其他ノ情況ニ依リ電車ノ進行ニ介意セスシテ線路ヲ橫斷セントスルノ危險アリト信スヘキ理由アルトキハ通行人ニ過失ノ責アルト否トニ拘ハラヌ衝突ヲ避クルニ必要ナル注意ヲ爲スノ要アルモノトス

三

二七八

○明治四十一年廣島縣令第四十七號電氣鐵道取締規則中縱令從業者ノ注意義務ニ關シ特別ノ規定アリトスルモ之カ爲メ其業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ノ刑法上ノ責任ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス

三

五七四

○運轉手ハ電車ノ前方ニ於テ線路ヲ橫斷スヘキ方向ヲ執リ進行シ來ル通行人ヲ認メタル場合ト雖モ警鈴ヲ鳴ラシ其他危險ノ注意ヲ與フル方法ヲ執リテ前進スル以上ハ萬一通行人カ危險ヲ冒シ線路ヲ橫斷スルニ因リ電車ニ觸接シ若クハ之ト衝突シ傷害ヲ受クルモ之ヲ以テ運轉手ノ過失ニ歸セシムルヲ得ス

三

六一九

○電車運轉手ノ注意義務ハ通常人ニ比シ大ナルモノナルヲ以テ苟モ危險ヲ發生スル虞アル場合ニ於テハ常ニ之カ豫防ニ付キ多大ノ注意ヲ費ササルヘカラス從テ電車進行ノ前方ニ於テ通行人カ電車ト衝突スヘキ虞アルコトヲ疑ハシムヘキ相當ノ理由存在スルニ拘ハラヌ之ニ留意セス

シテ電車ヲ進行セシメ傷害ノ結果ヲ發生セシメタルトキハ過失犯ヲ以テ論スヘキモノトス

○行政上特殊ノ危険業務ヲ行フ者ニ對スル取締規則ハ普通危険發生ノ虞アル行爲ヲ取締ルニ過キサレハ業務執行者ハ其以外ニ於テ法律上若クハ慣習上必要トスル一般ノ注意義務ヲ遵守スルコトヲ要スルハ固ヨリ明文ヲ竣タサル所ナリトス從テ業務執行者カ行政上ノ取締規則ノ命スル注意義務ノミヲ履行スルモ業務上一切ノ責任ヲ悉シタルモノト云フヲ得ス

○鐵道車掌ハ列車進行中絶エス前方ヲ警戒スヘキハ勿論其進行ヲ始ムル前ト雖モ運轉ノ前途支障ナキヤ否ヤ特ニ各種規定ノ標識ヲ確認シ危害ヲ未然ニ防止スルノ注意ヲ怠ルヘカラサルハ寧ロ業務上當然ノ職責ナリトス

○列車カ停車場ニ在ル場合ニ驛長助役ノ發車合圖アルトキハ車掌ハ之ニ從テ發車ノ信號ヲ爲スヘキモノナリト雖モ此等ノ者ノ發車合圖アルニ因リ自己當然ノ職責ニ屬スル標識確認ノ義務ヲ免ルヘキモノニ非ス
○過失傷害犯人ノ過失カ其傷害ノ唯一ノ原因ニ非ストスルモ苟モ其原因ノ一部分ヲ成セル以上ハ過失傷害罪成立スルモノトス

三

六一九

三

六一九

三

一〇一一

三

一〇一一

四

三四五

○刑法第二百一十一條ニ所謂業務トハ法規ニ基キタル職務ノミヲ指稱スルニ非スシテ契約其他慣例等ニ從ヒ或業務ニ從事スル場合ハ舉ゲテ之ヲ包含スルモノトス

○小學校長及ヒ教員カ懲戒權ヲ行フニ當テハ其職務上周到ナル注意ヲ用キ兒童ノ身體ヲ傷ケ健康ヲ害スルカ如キ結果ノ發生ヲ避止スルノ義務アルヲ以テ此等ノ注意ヲ怠リ爲メニ傷害ヲ與フルトキハ刑法第二百一十一條ノ制裁ヲ免レサルモノトス

○業務上ノ不注意ニ基ク所爲ト他人ノ殺傷トノ間ニ因果ノ關係アル以上ハ不注意ノ狀態發生シタル後他人ヲ殺傷セサル爲メ各種ノ措置ヲ講シタルト否トニ論ナク業務上ノ過失殺傷罪ヲ構成スルモノトス

○被告カ醫師ニ雇ハレ薬局生トシテ調劑ノ業務ニ從事中自己ノ過失ニ依リ人ヲ死ニ致シタル所爲ニ對シ被告ニ業務上ノ過失アリトシ刑法第二百一十一條ヲ適用處斷シタル判決ハ正當ナリ

○一定ノ業務ニ従事スル者ハ其業務ノ執行ニ因リ人ノ生命身體等ニ對シ危害ヲ醸スコトヲ豫防スヘキ注意義務ヲ有スルコト條理上當然ナレハ此義務ヲ怠ルトキハ過失ノ責任ヲ免レサルモノトス
○法令ニ依リ職務ヲ行フ者ト雖モ如上ノ注意義務ヲ有スルモノニシテ此

四

四五〇

五

一一一

五

一一九

六

一四八〇

七

三七

○點ニ付キ法令ニ依ル職務ト他ノ業務トヲ區別スルノ理由ナキモノトス
 ○被告カ運輸従事員服務規程等ニ依リ轉轍手トシテ試運轉線ニ修繕貨車
 ノ蹴リ込ヲ爲スニ當リテハ單ニ該規定ニ依リ轉轍器ノ作用ノ完全ヲ計
 ルニ止マラス轉轍器ノ所在地點及ヒ被告ノ看視スルコトヲ得ル其附近
 地點ニ於テ蹴リ込ニ因リ人命ニ對シ危險ヲ生セサルヤ否ヲ確メ若シ其
 危險ノ存スルトキハ之ヲ豫防スルニ相當ナル注意ヲ爲シ然ル後ニ蹴リ
 込ノ合圖ヲ爲スヘク此義務ヲ懈リ危險ノ有無ヲ確ムルコトナク蹴リ込
 ノ合圖ヲ爲シ蹴リ込貨車ノ爲メ人ヲ轢死スルニ至ラシメタルトキハ業
 務上ノ過失致死罪ヲ以テ論スヘキモノトス
 ○自動車運轉手タル免狀ヲ有シ自動車ノ運轉ヲ教授スル者ハ自動車ノ運
 轉ヲ業トスル者ニ外ナラサレハ教授ノ際ナルト否トヲ問ハス苟モ自動
 車ヲ運轉スルニ當リテ其注意ヲ怠リ爲メニ人ヲ傷害シ又ハ死ニ致シタ
 ルトキハ業務上ノ傷害罪ヲ構成シ刑法第二百一十一條ノ罪責ヲ免レサル
 モノトス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條

『第二百十二條』

七 七 七

三七 二四二

第二百十三條

『第二百十三條』

○墮胎罪ハ自然ノ分娩期ニ先チ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシムル
 ニ因リテ成立シ其結果トシテ胎兒カ死亡スルト否トハ犯罪ノ成否ニ影
 響ヲ及ホスコトナシ
 ○一面墮胎手術者ノ教唆者ヲ教唆シタルト同時ニ之ニヨリ他面懷胎ノ婦
 女ノ墮胎ノ實行ヲ容易ナラシメタルトキハ墮胎幫助行爲ヲ爲シタルモ
 ノニ該當スルモノトス
 ○苟モ人爲ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシムルトキハ母體保護ノ爲メ醫
 術上ノ必要ニ基ク場合ノ外墮胎罪ヲ構成スヘク墮胎後ニ於ケル其生兒
 ノ生活力ノ有無ハ本罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○懷胎ノ婦女ノ囑託ヲ受ケ之ヲ墮胎セシメタル者ハ其囑託者ト共犯關係
 ヲ有スルモノトス

○(同主旨)
 他人ノ教唆ニ因リ墮胎センコトヲ決意シタル婦女ノ依囑ヲ受ケ之ヲ墮胎セシメタル者ハ右教
 唆者及ヒ依囑者ト共犯關係ヲ有スルモノニシテ獨立ノ犯罪ナリト云フヲ得ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條

『第二百十七條』

刑法 罪 遺棄ノ罪

四 六 七 六 四

二八 一五七 六〇九 二〇八 二〇九

○疾病ノ爲メ他人ノ扶助ヲ受クルニ非サレハ生存スル能ハサル状態ニ陥
 リタル者カ同一住所ニ寢臥スル以上ハ縦シヤ法令若クハ契約ニ基ク扶
 助ノ義務ナシトスルモ之ヲ扶助セスシテ遺棄スルカ如キハ刑法第二百
 十七條ニ所謂疾病ノ爲メ扶助ヲ要スヘキ者ヲ遺棄シタル者ニ該當ス
 ○刑法第二百十七條ノ罪ハ扶助ヲ要スヘキ者幼者不具者又ハ病者ヲ遺
 棄スルニ因リ直ニ成立スルモノニシテ其行爲ノ結果現實ニ生命身體ニ
 對スル危険ヲ發生セシメタルト否トニ關係ナキモノトス

○刑法第二百十七條所定ノ扶助ヲ要スヘキ者トハ老幼不具又ハ疾病ニ因
 リテ精神上若クハ身體上ノ缺陷ヲ生シ他人ノ扶助力ヲ待ツニ非サレ
 ハ自ラ日常ノ生活ヲ營ムヘキ動作ヲ爲ス能ハサル者ヲ總稱スルモノニ
 シテ其生活資料ヲ自給シ得ルト否トニ關係ナキモノトス

『第二百十八條、第二百十九條』

○養育ノ義務ヲ負フ者カ殺害ノ意思ヲ以テ故ラニ被養育者ノ生存ニ必要
 ナル給與ヲ爲サスシテ之ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第九十九條ノ罪
 ヲ構成シ單ニ其義務ニ違背シテ生存ニ必要ナル給與ヲ爲サス因テ之ヲ
 死ニ致シタルトキハ同法第二百十八條第二百十九條ノ罪ヲ構成スルモ
 ノトス

(第二百十八條、第二百十九條)

四五 一〇八三
 四 六七〇
 四 六七〇
 四 九〇

○刑法第二百十八條第一項ニ所謂老幼者不具者又ハ病者ヲ保護スヘキ
 責任アル者トハ必スシモ法令上扶養ノ義務ヲ負擔セル者ノミニ限ラス
 契約其他ノ事由ニ依リ之ヲ保護スヘキ責任アル者ヲモ包含セルモノト
 ス

○民法ノ規定ニ依リ實父タル老者ニ對シ扶養義務ヲ負擔スル者ハ刑法第
 二百十八條ニ所謂老者等ヲ保護スヘキ責任アル者ニ該當スルモノトス

○被告ハ其實父タル老者ト家ヲ同フセサルカ故ニ扶養義務者トシテノ順
 位ハ家ヲ同フスル甲ノ次位ニ在リト雖モ甲ハ既ニ老者ノ許ヲ離レ被告
 ニ於テ之ヲ看護スヘキ状態ニ在リタル以上ハ被告モ亦保護責任者トシ
 テ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ス義務ヲ有スルモノトス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

(第二百二十條)

『第二百二十條』

○恐喝罪ヲ遂行スル爲メ官名ヲ詐稱シ又ハ他人ヲ制縛シタルトキハ此等
 ノ所爲ハ該犯罪ノ具體的構成事實ナルモ其特別構成要素ニ屬セサルヲ
 以テ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル
 ルモノナリトス

五 一三四
 七 二三五
 七 二三五
 四 一六五

○契約ニ因リ工業主ノ爲メ一定ノ勞務ニ服スル職工ノ如キハ其契約時間中ハ契約ノ旨趣ニ從ヒ勞務ヲ強要セラルヘキモ其勞務ノ遂行ヲ妨害セサル限り一切ノ自由ヲ奪ハルヘキモノニ非サレハ出入口ノ戸ニ鎖鑰ヲ施シテ外出ヲ禁シ以テ職工ノ自由ヲ奪フトキハ監禁罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第二百二十條ノ逮捕及ヒ監禁罪ハ共ニ同一法條ニ規定シタル同一性質ノ犯罪ニシテ單ニ其態様ヲ異ニスルニ過キサレハ人ヲ逮捕シ且引續キ之ヲ監禁シタルトキハ之ヲ包括的ニ觀察シテ單一ナル犯罪ト爲スヘク手段結果ノ關係アル二箇ノ行爲ト爲シ又ハ連續シタル數箇ノ行爲ト爲スヘキモノニ非ス

〔第二百二十一條〕

○刑法ニ於テ某罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從ヒ處斷スト規定スルハ某罪ノ刑ト傷害罪ノ刑トヲ比較シテ重キ刑ヲ定メタル罰條ヲ適用處斷スヘシトノ謂ニシテ必スシモ重キ刑ヲ科スヘシトノ旨趣ニ非ス

第三十一章 脅迫ノ罪

〔第二百二十二條、第二百二十三條〕

○人ノ生命財産ニ對シテ害ヲ加フヘキコトヲ不法ニ通告シタル以上ハ縱令虛無人ノ名義ヲ用ウルモ脅迫罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

○一定ノ地域ニ於ケル住民ト雖モ法律上交際ヲ強要スルノ權利存在セサルヲ以テ一人カ他人ニ對シテ從來繼續シタル交際ヲ謝絶シタリトスルモノヲ以テ其人ノ權利ヲ侵害シタルモノト云フヲ得ス

○一定ノ地域ニ於ケル住民カ一定ノ制裁ヲ以テ團結シ其一部ノ人ニ對シテ絶交ヲ宣言スル行爲ハ是レ其人ノ人格ヲ蔑如シ名譽ヲ毀損スルモノト云ハサルヘカラス

○板片ヲ以テ他人ヲ毆打シタル後更ニ擊殺セントテピストルヲ差向ケ脅迫シタル場合ニ於テハ暴行及ヒ脅迫ノ二罪成立スルモノトス

○刑法第二百二十二條及ヒ同第二百二十三條所定ノ脅迫罪ハ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ事實ヲ摘發シ之ヲ相手方ニ通告スルヲ以テ足り如何ナル名譽毀損ノ事實ヲ摘發スヘシト具體的事實ヲ通告スルコトヲ必要トセス

○多數ノ部落民ト共ニ同部落ノ一人ニ對シ絶交ノ決議ヲ爲シ之ヲ其者ニ通告シタル行爲ハ之ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ害惡ヲ通知シタルモノトス

元

四四

四四

四四

四三

一四四五

一八七五

一五二〇

一五二〇

一九三七

四二

六

四

一七三二

一一三

一八九二

- ニ外ナラサレハ脅迫罪ヲ構成スルコト多言ヲ要セス
- 多衆共同シテ爲シタル絶交ハ縦シ被絶交者ノ人格ヲ傷ケ之ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムルモノトスルモ名譽毀損罪ヲ構成セサルヲ以テ其通告ハ常ニ必スシモ脅迫罪ヲ成立セシムルモノニ非スシテ通告セラレタル絶交カ違法性ヲ有スル場合ニ限り該犯罪ヲ構成スルモノトス
- 多衆共同ノ絶交カ正當ナル道義上ノ觀念ニ出テ被絶交者カ其非行ニ因リ自ラ招キタルトキハ之ニ對シテ救済ヲ與フルノ必要ナク絶交者カ之ニ因リテ被絶交者ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合又ハ其絶交カ正當ノ理由ナキトキニ限り違法性ヲ有スルモノトス
- 苟モ他人ヲシテ畏怖心ヲ生セシムヘキモノナルコトヲ認識シテ脅迫行爲ヲ實行スルニ於テハ縱令其最終ノ目的カ危害ノ通告ヲ受ケタル他人ヲシテ畏怖セシムル以外ニ於テ存ストスルモ脅迫罪ノ成立ニハ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス
- 誣告ヲ受ケタル者カ眞ニ誣告罪ノ告訴ヲ爲ス意思ナキニ拘ハラス誣告者ヲ畏怖セシムル目的ヲ以テ該告訴ヲ爲スヘキ旨ノ通告ヲ爲シタルトキハ脅迫罪ヲ構成ス

二	二四七
二	一三四九
二	一三四九
三	一一〇一
三	一一〇一
三	一一〇三

- 巡查ニ對シ取締ヲ嚴重ニスルナラハ爆發物ニテ一家ヲ塵殺スル旨ノ書面ヲ送致シタル行爲ハ脅迫罪ヲ構成ス而シテ其告知ヲ受ケタル者ニ於テ告知セラレタル害悪カ眞實ニ發生スルモノト信シタルト否ト又現實ニ畏怖ノ念ヲ生シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ消長ナシ
- 苟モ他人ヲ畏怖セシムル意思ヲ以テ其人ヲシテ畏怖セシムヘキ危險アル害悪ヲ通告シタル以上ハ害悪ノ發生ヲ欲望セサルモ又他人ニ畏怖心ヲ生セシメサリシトスルモ脅迫罪ヲ以テ論スヘキモノトス

(同罪)

- 脅迫罪(刑法第二百二十二條)ハ同條ニ列記シタル法益ニ對シテ危害ノ至ルヘキコトヲ不法ニ通告スルニ因リ成立シ必スシモ被通告者ニ於テ畏怖ノ念ヲ起シタルコトヲ要セス
- 脅迫罪ノ成立スルニハ人々ニ畏怖セシムルノ目的アルコトヲ要スト雖モ被通告者ニ畏怖ヲ生シタルノ事實アルコトヲ要スルモノニ非ス
- 如上ノ通告カ明白ニ戲謔ニ出テ被害者ヲシテ畏怖心ヲ生セシムルノ意思ナキ場合ハ犯罪ヲ構成セサルモノトス
- 脅迫カ單ニ刑法第二百二十三條所定法益ノ一箇ニ對スルモ將タ同時ニ其一箇以上ノ法益ニ對スルモ同條ノ所謂他人ヲ強制シテ義務ナキコトヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨ケタル罪ノ成立ニ付キ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

四	一三七
六	一九五
四	九五三
四	一九三七
六	一九五
五	一三七

○苟モ脅迫又ハ暴行ニ因リ強要シタル行爲ノ一部ニ他人ノ義務ニ屬セサル事項アル以上ハ縱令其他ノ部分ニ義務ニ屬スル事項アリトスルモ之カ爲メニ刑法第二百二十三條ノ罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

『第二百二十四條、第二百二十五條』

第二百二十四條、第二百二十五條

○未成年者ノ略取罪(刑法第二百二十四條)ハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ法ニ幼者ヲ自己ノ實力内ニ移シ一方ニ於テ監督者ノ監督權ヲ侵害スルト同時ニ他方ニ於テハ幼者ノ自由ヲ拘束スル所爲ナリトス

○實際上意思能力アル未成年者ト雖モ苟モ之ヲ欺罔シテ他所ニ誘致シ自己ノ支配内ニ置クトキハ誘拐罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第二百二十五條ニ所謂營利ノ目的トハ略取誘拐ノ行爲ニ因リテ利益ヲ收得スルコトヲ目的トスルノ謂ニシテ營業的ニ利益ヲ收得スルコトヲ必要トスルモノニ非ス

○苟モ刑法第二百二十五條所定ノ目的ヲ以テ人ヲ誘拐シタル以上ハ縱令其被誘拐者カ未成年者ナル場合ト雖モ單一ナル同條ノ犯罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ同法第二百二十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス

五六

一五六九

四九七

二〇〇一

二二六八

○刑法第二百二十五條ノ誘拐罪ハ他人ヲ自己ノ實力の支配内ニ措キタル時ヲ以テ完成スルモノナルカ故ニ其後被誘拐者カ犯人ノ支配ヨリ脱出シタルニ因リ犯人カ營利其他ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ト雖モ同罪ノ未遂ト爲ルモノニ非ス

○誘拐ハ誘惑手段ヲ要スト雖モ必スシモ虛偽ノ事實ヲ以テ被害者ヲ錯誤ニ陥ルルコトヲ要スルモノニ非ス

第二百二十七條

『第二百二十七條』

○刑法第二百二十七條ニ所謂藏匿トハ被拐取者ニ其發見ヲ妨クヘキ場所ヲ供給スルコトヲ指稱スルモノトス

第二百二十九條

『第二百二十九條』

○未成年者ヲ誘惑シテ其父母若クハ後見人ニ代リ監護權ヲ有セサル雇主ト雇傭關係ヲ離脱セシムルモ未成年者自身若クハ眞ノ監護權者ニ對スル關係ニ於テ誘拐罪ノ成立スルハ格別之カ爲メニ當然雇主ノ監護權ニ對スル侵害ナリト謂フヲ得ス從テ雇主ノ告訴ハ誘拐罪ノ起訴條件タル效力ナキモノトス

第三十四章 名譽ニ對スル罪

三

七

四

七

五五九

二二六八

一四七七

一三二六

(第二百三十條)

【第二百三十條】

○書面ヲ流布シテ人ノ妻カ他人ト姦通シタル事實ヲ公表スルハ直接ニ本夫ノ名譽ヲ毀損スルモノニ非サルヲ以テ之ニ對スル名譽毀損罪ヲ構成スルコトナシ

一〇一

○風聞モ亦事實ニ外ナラサルヲ以テ惡事醜行ニ關スル風聞ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ刑法第二百三十條ニ所謂公然事實ヲ摘示シタルモノニ該當ス

一四八三

○新聞雜誌ノ如キ公刊ノ文書ニ依リテ他人ノ名譽ヲ毀損スル罪ハ名譽毀損ノ記事ヲ掲載發行シ公衆ノ閱讀シ得ヘキ状態ニ措クニ因リテ成立シ右記事カ公衆ノ閱讀ヲ經タルコトヲ必要トセス

九二七

○毎日發行スル新聞紙上ニ包括的ニ一人ノ名譽ヲ毀損スヘキ一箇若クハ數箇ノ事實ヲ掲載シ之ヲ發行シタルトキハ一箇ノ名譽毀損罪成立スルモノニシテ掲載日數ノ多少ハ犯罪ノ構成ニ何等消長ヲ來スコトナシ

九二七

○中學校長タル者ニ對スル新聞紙所載ノ論評カ縱令公人ニ對スル論評ナリトスルモ苟モ刑法上ノ名譽毀損罪ニ觸ルルニ於テハ其罪責ヲ免ルヘカラサルハ勿論ニシテ言論自由ノ範圍ニ屬セス

三〇八

○多衆共同シテ爲シタル絶交ハ縱シ被絶交者ノ人格ヲ傷ケ之ヲシテ畏怖

ノ念ヲ生セシムルモノトスルモ名譽毀損罪ヲ構成セサルヲ以テ其通告ハ常ニ必スシモ脅迫罪ヲ成立セシムルモノニ非スシテ通告セラレタル

絶交カ違法性ヲ有スル場合ニ限り該犯罪ヲ構成スルモノトス

一三四九

○犯罪其他ノ違法行爲ヲ爲シタル者ト雖モ亦名譽即チ利益ナル批判ヲ受クヘキ社會上ノ地位ヲ有ス從テ公然事實ヲ摘示シ其者ノ名譽ヲ毀損シタルトキハ刑法第二百三十條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

二二〇

○一箇ノ文章ヲ以テ人ヲ非議スル者カ侮辱ノ語ヲ雜ヘテ惡事ヲ摘示シ之ヲ公表シテ其名譽ヲ毀損スル場合ハ侮辱ノ語ト事實ノ摘示ト相俟テ名譽毀損罪ノ體様ヲ成スニ過キサレハ其所爲ハ單ニ名譽毀損ノ一罪名ニ觸ルルモノトス

二二六五

○新聞雜誌等ニ掲ケタル名譽毀損ノ記事中被害者ノ氏名容貌異名若クハ雅號等ヲ直ニ知リ得ヘキ文詞ナシト雖モ他ノ事情ト綜合シテ其何人ナルカヲ推知シ得ル以上ハ名譽毀損ノ事實ヲ認メ之ヲ處斷スルニ何等ノ妨ナキモノトス

二五八四

○府會議員候補者ノ名譽ヲ毀損スル記事ヲ印刷シ其書面ヲ市内特別郵便ニ付シテ選舉區民ニ配布シタル行爲ハ一般的ニ多衆ニ對シテ他人ノ名譽ヲ毀損スル事實ヲ通知シタルモノナレハ刑法第二百三十條ニ所謂公

ニ於テハ名譽毀損行為ノ外特ニ侮辱罪ヲ構成スヘキモノニ非ス從テ名譽毀損罪ノ點ニ關シ新聞紙法第四十五條ニ依リ事實證明ヲ得タリトシテ處罰セサル以上ハ右侮辱罪ノ點ヲモ併セ事件全體ニ付キ無罪ヲ宣告スヘキモノトス

【第二百三十二條】

○妻ノ名譽ヲ毀損シタル行為ニ對シ夫カ自己及ヒ其一家ノ名譽ヲ毀損シタルモノト爲シ之カ告訴ヲ爲スモ妻ノ名譽毀損ニ對スル告訴ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ該犯罪ニ對シテハ訴訟條件ヲ缺如シ本案ノ判決ヲ爲ス能ハサルモノトス

○名譽毀損事件ニ於ケル共同被告人ノ一名ニ對スル告訴ノ效力ハ他ノ共同被告人ニ及フモノナレハ從テ其一名ニ對スル告訴取下ノ效力モ亦他ノ共同被告人ニ及フヘキモノトス

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

【第二百三十三條】

○偽計ヲ用キテ執行裁判所ニ於ケル競賣ヲ妨害シタル所爲ハ警察犯處罰

令第二條第四號ニ謂フ入札ノ妨害ヲ爲シタルモノニ非スシテ新刑法第二百三十三條ニ所謂偽計ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタルモノナリトス

○刑法第二百三十三條ニ虛偽ノ風説ヲ流布シタルハ虛偽ノ風説ヲ公衆ニ傳播スルノ謂ナリ從テ同條ノ犯罪ヲ構成スルニハ世人ヲシテ虛偽ノ風説ヲ傳唱セシムルコトヲ要セス

○刑法第二百三十三條ニ人ノ信用ヲ毀損シタルハ人ノ社會ニ於ケル財產上ノ信用ヲ害スルノ義ニシテ其所謂虛偽ノ風説ハ必スシモ惡事醜行ノ觀念ヲ含有スルコトヲ要セス

○人ノ信用ヲ毀損スル行為ハ必スシモ其財產權ヲ侵害スル結果ヲ惹起スヘキモノニ非ス

○刑法第二百三十三條ニ於ケル信用毀損若クハ民法第七百九條ニ於ケル損害賠償ヲ論スル場合ニハ信用ト財産權トハ必スヤ之ヲ甄別スルコトヲ要ス

○刑法第二百三十三條ニ所謂流布トハ多數ノ人ニ傳播スル行為ヲ謂フモノナレハ虛偽ノ風説ヲ數回反覆シテ數人ニ傳ヘ因テ他人ノ業務ヲ妨害スルモ單純ナル一箇ノ業務妨害罪ヲ構成スルモノニシテ連續セル數箇ノ犯行アリト爲スヲ得ス

五

一六四

四

一〇一

元

一三三

三

二〇

四

一五九

四

五二

四

五五七

四

五五七

四

二二七

- 法人ニ非サル團體ノ信用ヲ毀損スル行爲ハ團體ヲ組織スル各人ノ信用ヲ毀損スルモノニシテ均シク信用毀損罪ヲ構成スルモノトス 四五 二〇九五
- 刑法第二百三十三條ノ罪ノ成立ニ付テハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ以テ他人ノ信用ヲ毀損スルコトヲ要スルノミ其之ヲ毀損スルニ付キ必スシモ具體的不正ノ事實ヲ指摘スルコトヲ要スルモノニ非ス 四五 二〇九五
- 刑法第二百三十三條ニ虛偽ノ風説ヲ流布シトアルハ虛偽ノ事項ヲ内容トスル風説ヲ世上ニ傳播スルコトヲ意味スルモノナレハ其風説カ被告ニ依リ創作セラレタルト否トハ風説ノ虛偽ナルコトニ消長スル所ナシ 二 八五
- 刑法第二百三十三條ニ規定セル信用毀損罪ノ成立ニハ人ノ信用ヲ害スル虞アル虛偽ノ風説ヲ流布スルヲ必要トスルモ現實ニ信用毀損ノ結果ヲ生シタルヲ必要トセス 二 八五
- 他人ノ營業ヲ妨害スヘキ虛偽ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シ出金セサルニ於テハ引續キ其記事ヲ掲載スヘキ態度ヲ示シ因テ金員ヲ交付セシメタルトキハ右營業妨害ノ行爲ハ恐喝罪ノ具體的構成事實ナリト雖モ金員ノ交付ヲ爲サシムル爲メニ施シタル手段ニ外ナラサルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノトス 二 一一四

三三三

- 被告カ他人ノ漁業ヲ妨害センコトヲ企テ外面ヨリ容易ニ窺知シ得サル程度ニ於テ其漁場ノ海底ニ障害物ヲ沈メ置キ該漁業者ヲシテ平常ノ如ク漁業ニ從事セシメ其漁網ヲ破損シ漁獲不能ニ致シタル所爲ハ刑法第二百三十三條ノ犯罪ヲ構成ス 三 三三三
- 新聞紙ノ改題ナル行爲自體ハ違法性ナシト雖モ他人ノ業務妨害ノ手段トシテ之ヲ行フトキハ刑法第二百三十三條ノ所謂偽計ニ相當シ同條ノ罪ヲ組成スル行爲ト爲ルモノトス 四 八一
- 名譽毀損罪ハ事實ノ有無ヲ問ハス公然之ヲ摘示シテ人ノ社會上ノ地位又ハ價值ニ侵害ヲ加フルニ因リテ成立シ信用毀損罪ハ虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用キテ人ノ支拂資力又ハ支拂意思ヲ有スルコトニ對スル他人ノ信賴ニ危害ヲ加フルニ因リテ成立スヘキモノトス 五 八五四
- 虛偽ノ事實ヲ流布シタル行爲ハ場合ニ依リ信用毀損及ヒ名譽毀損ノ二罪名ニ觸ルルコトアリ又單ニ信用毀損若クハ名譽毀損ノ一罪名ニ觸ルルコトアルモノトス 五 八五四
- 刑法第二百三十三條ニ所謂信用ハ同法第二百三十條第一項ニ所謂名譽ノ一部ニ屬スルモノニ非スシテ其範圍外ニ於テ獨立ノ存在ヲ有スルモノトス 五 一一五

○虚偽風説ノ流布ニ依ル業務妨害罪ハ故意ニ虚偽ノ事實ヲ傳播シ人ノ職業其他繼續從事スル事務又ハ事業ノ執行經營ニ障害ヲ加フルニ因リテ成立スルモノトス

○刑法第二百三十三條ニ所謂「虚偽ノ風説ヲ流布シ」トハ虚偽ノ事實ヲ不定多數ノ人ニ傳播セシムルノ謂ニシテ必スシモ犯人カ直接ニ不定多數ノ人ニ對シテ虚偽ノ事實ヲ告知スルコトヲ要スルモノニ非ス

〔第二百三十四條〕

○刑法第二百三十四條ニ所謂威力トハ人ノ意思ヲ制壓スル勢力ヲ指稱シ管ニ犯人カ相手方ニ對シテ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ノミナラス其恐喝又ハ位置權勢ニ因リテ相手方ヲ畏怖セシムルカ如キ場合ヲモ包含スルモノトス

○刑法第二百三十四條ニハ人ノ業務トアリテ業務ノ主體タル人ニ付キ制限スル所ナケレハ其妨害カ一人ニノミ及ヒタル場合ト雖モ犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

〔第二百三十五條〕

○他人ノ預金通帳及ヒ印章ヲ竊取シタル行爲ト之ヲ使用シテ他ヨリ財物ヲ騙取シタル行爲トハ法律上其性質ヲ同ウセサレハ擬律ノ點ニ於テモ亦各別ニ之ヲ論スヘキモノトス

○甲者カ乙者ノ教唆ニ應シ連續シテ數回ニ他人ノ財物ヲ竊取シタル場合ト雖モ乙者ハ唯一回其教唆ヲ爲シタルニ過キサルトキハ刑法第五十五條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

○他人ヨリ俵入肥料ノ運送ヲ委託セラレタル者カ擅ニ其俵ヲ破リ又ハ結束ヲ解キ在中ノ肥料ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス而シテ其肥料ヲ賣却シタル所爲ノ如キハ竊盜罪當然ノ目的ニ包含セララルヲ以テ別罪ト爲ラサルモノトス

○親族ノ所有物ト雖モ親族以外ノ者カ其利益ノ爲メニ占有シ居ル場合ニ於テ之ヲ竊取シタルトキハ刑法第二百四十四條ヲ適用スヘキモノニ非スシテ普通竊盜ノ罰條タル同第二百三十五條ヲ適用スヘキモノトス

○葉煙草ヲ竊取シタル犯人カ其贓物ヲ處分シタルトキハ後ノ處分行爲ハ前ノ竊取ニ因リ既ニ領得セシ目的物ニ對シテ横領ノ目的ヲ實行シタルニ過キサレハ竊盜罪ノ外別ニ何等ノ罪名ニモ觸ルヘキモノニ非ス
○政府ニ納付スヘキ葉煙草ヲ他ニ讓渡スル行爲ト葉煙草ノ竊取行爲トハ

四一	五八八
四二	二四七二
四三	一五四九
四四	一一〇三
四五	一七三八

四三	二四七
四四	一四七
四五	一九〇九
五	一一五三
五	八四四
五	二二二

各犯罪ノ性質上互ニ手段タリ若クハ結果タル關係ヲ有セス從テ其竊取行為カ讓渡行為ニ對シテ具體的ニ手段タリ又ハ結果タル關係アリトスルモ刑法第五十四條第一項後段ノ規定ニ依リ一箇ノ牽連犯ヲ以テ處斷スヘキモノニ非ス

四三

一七六

○登記所ノ保管ニ係ル登記書類ニ貼附シアル印紙ヲ剝離シテ之ヲ竊取シタル場合ニハ該官文書ノ毀棄ハ刑法上竊盜ニ伴フヘキ當然ノ結果ニ非サルヲ以テ其毀棄ノ責任ハ當然竊盜ノ責任中ニ吸收セララルヘキモノニ非ス

四四

一四二

○竊盜罪ノ目的物ハ必スシモ經濟的交換價值ヲ有スル物ニ限ラス財產權ノ目的タル物ナルヲ以テ足ル從テ消印濟ノ收入印紙ト雖モ獨立シテ若クハ證書ニ貼用セラレ證書ノ一部ヲ成シテ財產權ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

四四

一四八

(同主旨)

裁判所ノ消印アル收入印紙ハ印紙タルノ價值ナシト雖モ所有權ノ目的タルコトヲ得ヘキモノニシテ刑法第二百三十五條ノ所謂財物ニ包含セララルモノトス

四三

一四八

○差押官吏カ燒酎又ハ醪ノ容器ニ封印ヲ施シタル上之ヲ所有者ニ保管セシメタル場合ニ於テハ右物件ハ依然差押官吏ノ占有ニ屬スルモノナル

ヲ以テ所有者カ右封印ヲ破壞シ竊ニ之ヲ取出シタルトキハ竊盜罪ヲ構成スルモノニシテ横領罪ヲ構成スルモノニ非ス

四五

二八五

(同主旨)

○當該收稅官吏カ被告ノ密造シタル清酒ヲ押收シ樽入封印ノ儘之ニ保管セシメタルトキハ其清酒ハ依然收稅官吏ノ占有ニ屬スルモノトス從テ該物件ヲ竊取シタル被告ノ所爲ハ刑法第二百四十二條第二百三十五條ノ犯罪ヲ構成ス

四三

二六四

○郵便集配人ハ其配達中ニ係ル郵便物自體ニ付テハ事實上ノ支配アルヘキモ封入ノ物件ハ依然他人ノ占有内ニ存スルモノナルヲ以テ其物件ヲ奪取シタル所爲ハ横領罪ニ非スシテ竊盜罪ヲ構成スヘキモノトス

四五

五三六

○他人ノ印章ヲ竊取スルト其竊取シタル印章ヲ不正ニ使用スルトハ一ハ他人ノ財產權ヲ害シ他ハ公ノ信用ヲ害スル行為ニシテ全然行為ノ性質及ヒ侵害セラレタル法益ヲ異ニスルヲ以テ各獨立シテ別箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四五

六五八

○家宅侵入ノ行為ハ盜罪ノ要素ニ屬セス單ニ盜罪遂行ノ手段ニ外ナラサレハ盜罪ノ既遂タルト未遂タルトヲ問ハス別ニ家宅侵入罪ヲ構成スルコト論ヲ竣タス

四五

六五八

○刑法第二百五十二條及ヒ第二百五十三條ノ横領罪ノ目的物ハ自己ニ領

○得スル意思ニ非スシテ占有ヲ始メタルモノナラサルヘカラス故ニ當初ヨリ自己ニ領得スル意思ヲ以テ不法ニ他人ノ物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ニ於テハ竊盜詐欺其他ノ犯罪ヲ構成スヘキモ之カ費消其他ノ處分行爲ニ因リテ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○衆議院議員投票用紙ハ村役場係員ノ支配内ニ在リテ衆議院議員ノ選舉權執行ニ付キ重要ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ其經濟上ノ價值ヲ有スルト否トヲ問ハス竊盜罪ノ目的物タル財物タルコトヲ妨ケス

○刑法第二百三十五條ノ竊盜罪ト同第二百三十六條ノ強盜罪トハ等シク他人ノ占有セル財物ヲ奪取スルニ因リテ成立スル犯罪行爲ニシテ其本質ニ於テ異ナルコトナキヲ以テ同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ實行セラレタルトキハ一箇ノ連續犯ヲ以テ論スヘキモノトス

○三等補充往復乗車券ノ用紙ト雖モ同乗車券ノ作成ニ付キ便宜ナル點ヨリ觀察スルトキハ之ヲ以テ相當價值ヲ有スル財物ニ非スト云フヲ得ス

○不法ニ領得スルノ意思ヲ以テ事實上他人ノ支配内ニ存スル物件ヲ自己ノ支配内ニ移シタルトキハ竊盜罪ハ完全ニ成立スルモノニシテ必スシモ犯人カ之ヲ自由ニ處分シ得ヘキ安全ナル位置ニ持去ルコトヲ要スルモノニ非ス

四五 九六
二 九
三 一〇一
三 一五二
三 一六七

○漁業法第六十條ニ依ル漁業權ノ侵害罪ハ必スシモ他人ノ水産動植物ニ關スル財産權ヲ侵害スル事實アルコトヲ要セサルヲ以テ他人ニ於テ探捕シ且移殖シ置キタル眞珠貝ヲ竊取スルニ因リ其他人ノ專用漁業權ヲ侵害シタルトキハ一箇ノ行爲ニシテ刑法ノ竊盜罪及ヒ漁業法第六十條違反罪ノ二罪名ニ觸ルルモノトス

○人ノ所有物カ何人ノ占有ニモ屬セサル堂宇其他ノ場所ニ存在スル場合ト雖モ所有者ニ於テ其存在ヲ意識シ特ニ之ヲ該場所ニ置キタルモノナルトキハ其物件ハ常ニ所有者ノ占有ニ屬スルモノト認メ得ヘキヲ以テ之ヲ竊取シタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス

○他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル罪ト其贓物ヲ收受スル罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係ヲ有ス從テ贓物收受罪ノ公訴事實中ニハ竊盜罪ノ事實モ亦包含セララルモノトス

三 一八〇六
三 一八九八
三 二〇七九
三 一八九八

(同左)

贓物罪ト盜罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ノ領得ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係アリ從テ犯人ニ對シ贓物罪ノ起訴アリタル以上ハ其範圍ニ於テ贓物收受罪ノ外竊盜教唆ノ事實ヲ審理判決スルモ不法ニ非ス

○收稅官吏カ甲者ノ酒造稅法違反嫌疑事件ニ付キ乙者ノ住所ニ於テ其内

○縁ノ妻丙者ノ甲者ヨリ預リタル書類在中ノ風呂敷包ヲ證憑物件トシテ差押ヘ丙者ヲ尋問シ居ル際乙者カ當該官吏ノ隙ヲ窺ヒ之ヲ竊取逃走シテ丁者方ノ池中ニ投入シ該犯則事件ノ證憑ヲ湮滅セシメタル所爲ハ刑法第五十四條前段ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナリトス

○財産ニ對スル犯罪ニ於テ被害物件カ所有者ヲ異ニシ而モ各別箇ノ監督内ニ在ルトキハ之ニ對スル侵害ハ所有者ノ數ニ應スル數箇ノ法益ヲ侵害シタルモノニシテ若シ一箇ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトス

○刑法第二百三十五條ニ所謂竊取トハ物ニ對スル他人ノ所持ヲ侵シ其意ニ反シテ竊ニ之ヲ自己ノ所持ニ移スコトヲ云ヒ其所持トハ一般ノ慣習ニ從ヒ事實上物ヲ支配スル關係ヲ云フモノトス

○竊盜罪ノ成立ニ必要ナル故意アリトスルニハ法定ノ犯罪構成要件タル事實ニ對スル認識ノ外尙ホ不法ニ物ヲ自己ニ領得スルノ意思アルコトヲ要スルモノトス

○物ノ經濟的價值カ寡少ナリトスルモ苟モ財産權ノ目的ト爲リ得ルニ於テハ其物ハ竊盜罪ノ目的タルニ妨ナキモノトス

(同罪目)

一塊ノ石ト雖モ苟モ他人ノ所有ニ屬スル以上ハ其經濟的價值ノ如何ニ論ナク刑法ニ所謂財物タルコトヲ失ハス故ニ之ヲ奪取シタル行爲ハ當然竊盜罪ヲ以テ論スヘキモノトス
刑法第二百三十五條ニ所謂財物トハ財産權殊ニ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ヘキ物ヲ謂フモノニシテ金錢的價值ヲ有スルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

○畑地ニ生育スル他人所有ノ桑葉約十貫餘ヲ竊取シタル所爲ハ刑法上ノ竊盜罪ヲ構成スルモノニシテ警察犯處罰令第二條第二十九號ヲ以テ擬スヘキモノニ非ス

○竊盜罪ノ成立スルニハ常ニ所有權ノ侵害以外ニ仍ホ所持ノ侵害アルコトヲ要スルモノニシテ刑法第二百四十二條ノ場合ト雖モ其例外ヲ爲スモノニ非ス

○執達吏カ差押ヘ封印シタル物件ハ其執達吏ノ占有ニ屬スルモノナレハ被差押者同居ノ實弟カ之ヲ竊取スルモ刑法第二百四十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○盜罪ノ成立ニ必要ナル自己領得ノ意思ハ權利者ヲ排除シ他人ノ物ヲ自己ノ所有物トシテ經濟的用法ニ從ヒ利用若クハ處分スルノ意思タルヲ以テ足り永久的ニ其物ノ經濟的利益ヲ保持スルノ意思タルコトヲ要セス

五	四	四	四	三	元
一	一三六	二八四	八九	三六	四二

四	四	四	四	三
八七九	六六三	三〇九	二四	二二〇

○野生ノ禽獸ト雖モ一タヒ馴養セラレテ一定人ノ所有ニ屬スル以上ハ所有者ニ於テ之ヲ自由ノ状態ニ放任スルニ因リ其實上ノ支配ヲ及ホシ得ヘキ地域外ニ出遊スルコトアルモ一定ノ棲息場所ニ復歸スル慣習ヲ失ハサルカ又ハ他人カ現實ニ拘束ヲ加ヘサル限ハ之カ爲メニ所有者ノ支配ヲ離脱スルコトナキヲ以テ其所持内ニ在ルモノト云フヲ妨ケス

○盜賊故買罪ト竊盜罪若クハ竊盜教唆罪トハ各別箇獨立ノ犯罪ナルカ故ニ同一人カ贓物故買ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ竊盜ヲ教唆シ其盜賊ヲ故買シタルトキト雖モ後者ハ前者ニ吸收セラレテ獨立ノ存在ヲ失フヘキモノニ非ス

(同罪旨)

竊盜教唆罪ト贓物故買罪トハ法律上其罪質ナ同ウセサルカ故ニ縱令被告カ人ヲ教唆シテ竊取セシメタル贓物ヲ故買シタルトスルモ其故買ノ所爲ハ竊盜教唆罪ニ吸收セラルヘキモノニ非ス

竊盜教唆ト贓物故買トハ各其罪質ヲ異ニスルヲ以テ人ヲ教唆シテ財物ヲ竊取セシメ以テ贓物ヲ故買シタルトキハ竊盜教唆及ヒ贓物故買ノ二罪成立スルモノトス

教唆者ハ實行行爲ヲ爲スモノニ非サレハ竊盜ノ教唆者カ其贓物ヲ寄藏シタル行爲ハ竊盜教唆贓物寄藏ノ併合罪ヲ構成スルモノトス

○防腐劑「フオルムアルデヒッド」ヲ含有スル清酒ハ一般取引ノ目的ト爲

五	六二
四	九八
四	二五八
四	七四五
四	四三八

スコトヲ得サルモ行政廳カ明治三十三年法律第十五號第一條ニ依リ之ヲ廢棄シ若クハ廢棄セシメサル限ハ依然所有權ノ目的ト爲シ得ヘキモノナルヲ以テ之ヲ竊取シタル行爲ハ當然竊盜罪ヲ構成スルモノトス

○住居侵入行爲カ竊盜又ハ強盜行爲ニ對スル手段結果ノ關係ヲ有スル他ノ住居侵入行爲ト共ニ連續ノ一罪ヲ構成スル場合ニ於テハ該住居侵入行爲ヲ包含スル住居侵入ノ連續犯ハ竊盜又ハ強盜ニ對シ牽連關係ヲ有スルモノトス

○運送業者ニ運送ヲ委託シタル荷物ト雖モ荷主ニ於テ之ニ封印ヲ施シタル以上ハ其荷物ヲ成ス箇箇ノ物件ハ運送者ニ於テ自由ニ支配シ得ル状態ニ在ラサルカ故ニ其占有ハ依然荷主ニ存ス隨テ運送者カ其箇箇ノ物件ヲ取出シテ自己ノ占有ニ移ス所爲ハ竊盜罪ヲ構成スルモノトス

(同罪旨)

委託者カ或容器ニ物品ヲ入レ鎖鑰ヲ施シ之ヲ他人ニ寄託シタル場合ニ於テハ其在中物品ノ占有ハ依然トシテ委託者ニ存スルモノトス從テ受託者カ其容器ノ鎖鑰ヲ開キ物品ヲ取出シタル所爲ハ竊盜罪ヲ構成ス

金品在中ノ容器ニ鎖鑰又ハ封印ヲ施シ之ヲ寄託スルモ寄託者ハ依然トシテ在中ノ金品上ニ現實支配力ヲ有シ受託者ハ之ヲ有セサルヲ以テ受託者カ該金品ヲ取出シ之ヲ自己ノ支配力内ニ移スノ所爲ハ竊盜罪ニシテ横領罪ニ非ス

五	一七三
五	一五八九
五	二二七
四	一〇四
四	二九〇

鎖鑰ヲ施セル容器内若クハ封緘ヲ爲セル包裹内ニ存在セル他人ノ物ハ容器若クハ包裹ノ占有者カ自由ニ支配シ得ル状態ニ在ラサルヲ以テ其占有ハ依然所有者ニ存スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ容器若クハ包裹ノ占有者カ鎖鑰又ハ封緘ヲ開披シ其内容物ヲ自己ノ占有ニ移スニ於テハ竊盜罪成立スルモノトス

二

三五二

○被告ノ所有ニ係ル物件ヲ執達吏カ差押手續ニ依リ自己ノ占有ニ歸屬セシメタル後占有者トシテ更ニ被告ノ妻ニ封印ヲ施シタル儘看守ヲ命スルカ如キハ法律ノ禁スル所ニ非サレハ該差押物件ハ刑法第二百四十二條ニ該當スルモノトス而シテ斯ル場合ニ於テ看守者タル妻ハ固ヨリ其内包物ノ占有者ニ非サルカ故ニ被告カ右差押物ノ一部ヲ取出シタル所爲ハ看守者ト共謀ニ出テタルト否トヲ問ハス竊盜罪ヲ構成スルコト勿論ナリ

六

三五

○鑛物不法掘採ニ付テハ鑛業法第九十四條ヲ適用スヘキモノニシテ刑法第二百三十五條ヲ適用スヘキモノニ非ス

六

八二〇

○他人ノ財物ヲ領得スル意思ニ出ツル行爲ト雖モ未タ他人ノ事實上ノ支配ヲ侵スニ付キ密接ノ程度ニ達セサル場合ハ竊盜罪ニ著手シタルモノト謂フヲ得ス

六

一〇七六

○他人ノ財物在中ノ衣囊ニ手ヲ差入レ金品ヲ竊取セントシテ遂ケサリシ

トキハ他人ノ事實上ノ支配ヲ侵シ竊盜行爲ニ著手シ遂ケサリシ事實ニ該當スルモノナレハ竊盜未遂罪ヲ以テ論スヘキモノトス

六

一〇七六

○雇人カ雇主ノ居宅ニ於テ雇主ノ物品ヲ販賣スル場合ニ在テハ其物品ハ雇主ノ占有ニ屬シ雇人ノ占有ニ屬スルモノニ非ス從テ雇人カ雇主ノ右占有ヲ侵ストキハ竊盜罪ヲ成立シ横領罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

七

三三

○被告カ通信事務員トシテ郵便物ノ區分ニ從事中爲替證書在中ノ郵便物ヲ竊取シ尙ホ爲替證書ニ受取人ノ氏名ヲ僞署シ名下ニ僞造印ヲ押捺シ之ヲ郵便局ニ提出行使シタルトキハ該文書僞造ト其行使トノ間ニハ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條後段第十條ヲ適用スヘキモノナリト雖モ此等ノ罪ト如上竊盜罪トノ間ニハ牽連關係ヲ存セス全然并立スル犯罪ナルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス

七

三三七

○強盜致死罪ハ強盜罪ノ一種ニシテ竊盜罪ト共ニ刑法第二編第三十六章ニ規定セラレタルモノナレハ同一意思ヲ繼續シテ右兩行爲ヲ爲シタルトキハ一ノ連續犯トシテ強盜致死罪ニ付キ定メタル刑ニ從ヒ處分スルヲ相當トス

七

四八一

(同旨)

強盜ノ結果人ノ身體ヲ傷害スルニ至リタル場合ニ於テモ其罪實ハ強盜罪ナリトス從テ被告人

カ犯意繼續シテ爲シタル竊盜同未遂強盜未遂強盜傷入ノ各行爲ヲ同一罪名ニ觸ルル連續的數箇ノ行爲ナリトシ連續犯ニ間擬シタルハ正當ナリ
同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ竊盜未遂ト強盜致死トヲ實行シタルトキハ連續犯ヲ以テ處斷スヘキモノトス

【第二百三十六條】

○強盜ノ目的ヲ以テ人ヲ脅迫シ新ニ約束手形ヲ作成セシメタルトキハ其手形ハ法律上無効ニシテ金錢的價値ヲ有セサルモ所有權ノ目的ト爲リ得ヘキ有體物ナルヲ以テ之ヲ作成者ノ所持内ヨリ強取シタル所爲ハ強盜罪ヲ構成ス

○刑法第二百三十六條及ヒ第二百三十八條ノ脅迫手段ハ他人ヲ畏怖セシムヘキ害惡ノ通知アルノミヲ以テ足り加害者カ現實其通知シタル害惡ヲ加フルノ能力ヲ具有スルヤ否ヤハ該手段ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○苟モ財物強取ノ目的ヲ以テ他人ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル以上ハ強盜罪ヲ構成スヘク暴行脅迫ノ施用セラレタル者カ必スシモ財物ノ所有者若クハ占有者タルコトヲ要セス

○財物強取ノ意思ヲ以テ暴行ヲ爲シ因リテ人ヲ死ニ致シ財物ヲ奪取セル

五	一五八九
五	一八四〇
四	二五六
四	七七八
元	二二二

以上ハ其財物中ニ當初奪取ノ目的ト爲ササリシモノヲ包含スルモ該財物ニ付キ強盜罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

○刑法第二百三十五條ノ竊盜罪ト同第二百三十六條ノ強盜罪トハ等シク他人ノ占有セル財物ヲ奪取スルニ因リテ成立スル犯罪行爲ニシテ其本質ニ於テ異ナルコトナキヲ以テ同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ實行セラレタルトキハ一箇ノ連續犯ヲ以テ論スヘキモノトス

(反對)

犯人カ同一ノ人ニ對シ單一ノ盜罪ヲ犯サント企テ先ツ金品ヲ竊取シ更ニ暴行脅迫ヲ以テ金圓ヲ強取シタルトキハ其前後ノ奪取行爲相合シテ單一ノ犯罪行爲ヲ組成スルモノトス

○通行人カ懷中物ヲ所持スルカ如キハ普通豫想シ得ヘキ事實ナレハ之ヲ奪取セントスル行爲ハ其結果ヲ發生スル可能性ヲ有スルモノニシテ實害ヲ生スル危險アルヲ以テ行爲ノ當時偶被害者カ懷中物ヲ所持セザリシトスルモ強盜未遂犯ノ構成ニ何等影響ヲ及ボスモノニ非ス

○執達吏カ假差押ノ爲メ金錢ヲ占有シタルトキハ其執行上之ヲ供託スル手續ヲ爲ササルヘカラス從テ執達吏カ假差押ノ爲メ金錢ヲ占有スルヤ暴行ヲ爲シ其場ニ於テ之ヲ奪取シタル行爲ハ強盜ナルト同時ニ假差押ノ手續ヲ妨害シタルモノナルコト論ヲ竣タス

二	九八二
三	一〇一
四	一三四
三	一五四六
六	二六九

○稅務署屬カ過テ物置小屋ヲ搜索シタルニ付キ紛失物等アリタルトキハ相當辨償スル旨ノ訖書ハ單純ナル謝罪狀ニ止マラス紛失物アリタル場合ニ於ケル賠償ヲ豫約セル債務證書タルノ性質ヲ有スルヲ以テ所有權ノ目的ト爲リ得ヘキモノナレハ財物ト稱スルヲ妨ケサルモノトス

○暴行又ハ脅迫ノ手段ニ依ル不法利得ノ罪(刑法第二百三十六條第二項)ノ成立ニハ犯人カ此等ノ手段ヲ用キテ不法ニ財産上無形ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムル爲メ他人ニ對シ財産上ノ處分ヲ強制スルコトヲ要ス從テ債務者カ債務ノ履行ヲ免ルル目的ヲ以テ單ニ債權者ヲ殺害セル行爲ノ如キハ同條項ノ強盜罪ヲ以テ論スルヲ得ス

【第二百三十八條】

○刑法第二百三十八條ノ規定ハ竊盜犯人カ財物ノ取還ヲ拒キ若クハ逮捕ヲ免ルル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ其暴行脅迫ヲ以テ財物盜取ノ方法ト爲シタル場合ニ準シ強盜トシテ之ヲ處分スヘシトノ旨趣ニシテ犯人カ財物ヲ得タルト否トニ論ナク常ニ強盜既遂ノ刑ヲ科スルノ法意ニ非ス

○被告カ竊盜罪ヲ犯シタル際巡查ノ逮捕ヲ免ルル爲メ之ニ對シ暴行ヲ加ヘテ創傷ヲ負ハシメタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ刑法第九十五條

四

四

六

一三〇

一一〇

六五七

【第二百四十條】

第一項及ヒ同第二百三十八條第二百四十條前段ノ二罪名ニ觸ルルモノナレハ其最モ重キ後者ニ對スル刑ヲ以テ處斷セサルヘカラス

○刑法第二百三十八條ハ犯人カ既ニ竊取シタル財物ノ取還ヲ拒ク爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル以上ハ被害者ニ於テ其財物ヲ取還セントスル行爲ヲ爲シタルト否トニ拘ハラズ強盜ヲ以テ論スルノ律意ナリ

○刑法第二百三十六條及ヒ第二百三十八條ノ脅迫手段ハ他人ヲ畏怖セシムヘキ害惡ノ通知アルノミヲ以テ足り加害者カ現實其通知シタル害惡ヲ加フルノ能力ヲ具有スルヤ否ヤハ該手段ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○竊盜犯者カ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スルノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル事實アルニ於テハ縱令財物ヲ得サリシ場合ト雖モ刑法第二百三十八條ニ所謂強盜ヲ以テ論スヘキモノトス

○刑法第二百三十八條ハ竊盜カ同條所定ノ行爲ヲ爲シタルトキハ強盜トシテ其罪ヲ論スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ單純ナル竊盜ノ加重情狀ニ關スル規定ニ非ス

【第二百四十條】

○甲者カ乙者ニ對シ丙者ニ暴行ヲ加ヘテ或財物ヲ奪取スヘキコトヲ命シ

四

四

四

四

四

二二六

七〇八

七八

一三二

二二五

タル以上ハ特ニ丙者ヲ毆傷スヘシトノ指揮ヲ爲ササルモ乙者カ加ヘタル暴力ノ結果ニ付キ刑事上ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○被告カ竊盜罪ヲ犯シタル際巡査ノ逮捕ヲ免ルル爲メ之ニ對シ暴行ヲ加ヘテ創傷ヲ負ハシメタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ刑法第九十五條第一項及ヒ同第二百三十八條第二百四十條前段ノ二罪名ニ觸ルルモノナレハ其最モ重キ後者ニ對スル刑ヲ以テ處斷セサルヘカラス

○刑法第二百四十條ノ所謂強盜ニハ同第二百三十八條ニ依リ強盜ヲ以テ論スヘキモノヲモ包含ス

○殺人ノ目的ヲ以テ其實行行爲ニ著手シタル後強盜ヲ爲シ遂ニ殺人ノ所爲ヲ遂行シタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス從テ其所爲ニ對シ刑法第二百四十條ノミヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

○刑法第二百四十條ノ罪ハ同第九十九條ニ規定スル殺人罪ノ特別ナル場合ニ屬セス全然別種ノ犯罪ヲ成スモノナルカ故ニ殺意ヲ以テ人ヲ殺傷シテ強盜行爲ヲ行ヒタルトキハ一面ニ於テ強盜致死又ハ強盜傷人ノ犯罪成立スルト同時ニ他ノ一面ニ於テ殺人又ハ殺人未遂ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四	五二
四	三六
四	六〇
四	九三
四	一七四

(同主旨)

犯人カ當初ヨリ人ヲ殺害シ財物ヲ強取セント企テ同一意思ノ發動ノ下ニ先ツ之ヲ毆殺シ金錢ヲ奪取シタル後其妻ヲ脅迫シテ物品ヲ強取シタルトキハ所謂一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ一ノ重キニ從ヒテ處斷セサルヘカラス

○一箇ノ強盜罪ヲ犯ス爲メニ數人ヲ殺害シタルトキハ縱令其殺人行爲ハ同一ノ目的ヲ遂行スルノ手段トシテ行ヒタル場合ト雖モ之ヲ數箇ノ強盜致死罪ニ間擬スルヲ當然トス

(同主旨)

金圓ヲ強取スル爲メ同時同所ニ於テ二人ヲ死ニ致シタル所爲ハ二箇ノ強盜殺人罪ヲ構成ス殺人罪ハ單一ノ決意ヲ以テ之ヲ行フモ被害者毎ニ一罪ヲ構成スルモノトス從テ強盜ヲ爲スニ當リ二人以上ノ人ヲ死ニ致シタルトキハ縱令強盜ノ行爲ハ一箇ナルモ其死ニ至リタル被害者毎ニ各別ノ強盜致死罪ヲ構成ス

○刑法第二百四十條後段ノ強盜殺人罪ハ強盜カ財物強取ノ行爲ニ因リテ人ヲ死ニ致シタル事實アレハ直ニ成立スルモノニシテ致死ノ結果カ財物強取ノ前ニ在ルト其後ニ在ルトハ同罪ノ成立ニ影響ナシ

○強盜ノ手段タル暴行トハ被害者ノ反抗ヲ抑壓スヘキ行爲ヲ謂フ而シテ殺害行爲ハ被害者ノ反抗ヲ全然不能ナラシムルモノナレハ暴行ナルコト論ヲ竣タス

四	一〇一一
四	二二二
四	七六
四	七九
二	九二
三	一三三

○刑法第二百四十條ニ所謂致死若クハ傷人ノ觀念中ニハ犯人ニ於テ死亡ノ結果ヲ認識シタル場合ト之ヲ認識セサル場合トヲ包含スルモノニシテ其認識ハ同條犯罪ノ構成要件ニ非サレハ財物強取ノ手段トシテ故意ニ人ヲ殺害シ若クハ殺害行為ニ著手シタルモ之ヲ中止シ人ヲ傷害スルニ止マリタル場合ニ於テハ一面結果ノ方面ノミヨリ觀察シテ同條ヲ、他面意思ノ方面ヨリ觀察シテ殺人罪若クハ其中止犯ノ規定ヲ併セ適用シテ之ヲ處斷セサルヘカラサルモノトス

(同主旨)

刑法第二百四十條ハ強盜カ財物ヲ強取スル爲メ暴行脅迫ヲ行フニ因リテ人ヲ殺傷シタル所爲ヲ處罰スル規定ニシテ其殺意ニ出テタルト否トナ問フコトナシ

○刑法第二百四十條ニ所謂「人ヲ傷シタル」トハ人ノ生活機能ニ障害ヲ與ヘタル一切ノ場合ヲ包含スルモノトス

○強盜ヲ爲スニ當リ傷害ノ故意ヲ以テ人ヲ傷害シ之ヲ死ニ致シタルトキハ其行為ハ傷害致死罪ニ觸ルルコト論ヲ竣タスト雖モ刑法第二百四十條後段ノ罪ハ如上ノ行為ヲモ包含スルヲ以テ單ニ同條ノミニ問擬スヘキモノトス

○竊盜ヲ爲シタル者カ逮捕ヲ免ルル目的ヲ以テ他人ヲ傷害シタルトキハ

四 一六四
四 一七六
四 一六二
五 五三二

○法律上強盜傷人ノ一罪ヲ構成スルニ過キサレハ其成立要素タル竊盜行為ノ手段トシテ行ハレタル建造物侵入ノ所爲ハ強盜傷人罪ノ手段ナリト論斷スルヲ相當トス

○強盜致死罪ハ強盜罪ノ一種ニシテ竊盜罪ト共ニ刑法第二編第三十六章ニ規定セラレタルモノナレハ同一意思ヲ繼續シテ右兩行為ヲ爲シタルトキハ一ノ連續犯トシテ強盜致死罪ニ付キ定メタル刑ニ從ヒ處分スルヲ相當トス

(同主旨)

強盜ノ結果人ノ身體ヲ傷害スルニ至リタル場合ニ於テモ其罪實ハ強盜罪ナリトス從テ被告人カ犯意繼續シテ爲シタル竊盜同未遂強盜未遂強盜傷人ノ各行為ヲ同一罪名ニ觸ルル連續的數箇ノ行為ナリトシ連續犯ニ問擬シタルハ正當ナリ
同一ノ意思發動ニ因リ連續シテ竊盜未遂ト強盜致死トヲ實行シタルトキハ連續犯ヲ以テ處斷スヘキモノトス

第二百四十二條

『第二百四十二條』

○自己ノ財物ニシテ差押ヲ受ケ封印又ハ差押ノ標示ヲ施サレタルモノヲ竊取スル行為(刑法第二百四十二條)ニハ其手段トシテ封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ若クハ其他ノ方法ニ因リ之ヲ無効ナラシムル所爲ヲ伴フハ必然ナルカ故ニ此等ノ所爲ハ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル

五 一八四〇
五 一五八九
七 四八二
五 一三三

行爲ナリトス

○收税官吏カ差押ノ爲メ封印ヲ施セル酒類在中ノ徳利ヲ竊取シ其所在ヲ不明ナラシメタル所爲ハ二箇獨立ノ法益ヲ侵害スルモノナレハ封印ノ證據ヲ失ハシメタル點ヲ以テ差押物件奪取ノ結果ニシテ其罪名ニ吸收セララルモノナリト云フヲ得ス

○差押官吏カ燒酎又ハ醪ノ容器ニ封印ヲ施シタル上之ヲ所有者ニ保管セシメタル場合ニ於テハ右物件ハ依然差押官吏ノ占有ニ屬スルモノナルヲ以テ所有者カ右封印ヲ破壊シ竊ニ之ヲ取出シタルトキハ竊盜罪ヲ構成スルモノニシテ横領罪ヲ構成スルモノニ非ス

(同主旨)

當該收税官吏カ被告ノ密造シタル清酒ヲ押收シ樽入封印ノ儘之ニ保管セシメタルトキハ其清酒ハ依然收税官吏ノ占有ニ屬スルモノトス從テ該物件ヲ竊取シタル被告ノ所爲ハ刑法第二百四十二條第二百三十五條ノ犯罪ヲ構成ス

○竊盜罪ノ成立スルニハ常ニ所有權ノ侵害以外ニ仍ホ所持ノ侵害アルコトヲ要スルモノニシテ刑法第二百四十二條ノ場合ト雖モ其例外ヲ爲スモノニ非ス

○被告ノ所有ニ係ル物件ヲ執達吏カ差押手續ニ依リ自己ノ占有ニ歸屬セ

シメタル後占有者トシテ更ニ被告ノ妻ニ封印ヲ施シタル儘看守ヲ命スルカ如キハ法律ノ禁スル所ニ非サレハ該差押物件ハ刑法第二百四十二條ニ該當スルモノトス而シテ斯ル場合ニ於テ看守者タル妻ハ固ヨリ其内包物ノ占有者ニ非サルカ故ニ被告カ右差押物ノ一部ヲ取出シタル所爲ハ看守者ト共謀ニ出テタルト否トヲ問ハス竊盜罪ヲ構成スルコト勿論ナリ

○公務所ノ命ニ因リ看守ストハ公務所ノ處分ニ因リテ所有者ノ事實上ノ支配力ヲ排除シ以テ公務所ノ事實上ノ支配内ニ移シタル物ヲ第三者カ公務所ノ命ヲ承ケ自己ノ事實上ノ支配内ニ置クノ意義ナリトス

○刑法第二百四十二條第同二百五十一條ノ規定ハ占有者カ適法ニ其占有權ヲ以テ所有者ニ對抗シ得ル場合ニ限り適用セララルヘキモノトス
○恩給年金ノ帶有者カ其證書ヲ債權擔保ノ爲メ債權者ニ交付シタル後債權者ノ意ニ反シ又ハ之ヲ欺罔シテ其占有ヲ回復スルコトアルモ刑法第二百四十二條同第二百五十一條ニ依リ竊盜罪又ハ詐欺罪ニ問擬スヘキモノニ非ス

(第二百四十四條)

『第二百四十四條』

○親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ成立ニ必要ナル實體的條件ニ非スシテ其

四

四五三

四

二二三

四五

二八五

四三

二六四

四

二八四

六

三五

六

二二六

七

二二九

七

二二九

○ 訴追ヲ被害者ノ意思ニ係ラシムル形式の條件ニ外ナラス從テ或犯罪事
件カ其起訴ノ當時效力ヲ保有セル訴訟手續ニ準據シテ適法ニ裁判所ニ
繫屬シタル以上ハ爾後法律ノ改正ニ依リ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ之カ
爲メ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○ 親族ノ所有物ト雖モ親族以外ノ者カ其利益ノ爲メニ占有シ居ル場合ニ
於テ之ヲ竊取シタルトキハ刑法第二百四十四條ヲ適用スヘキモノニ非
スシテ普通竊盜ノ罰條タル同第二百三十五條ヲ適用スヘキモノトス
○ 執達吏カ差押ヘ封印シタル物件ハ其執達吏ノ占有ニ屬スルモノナレハ
被差押者同居ノ實弟カ之ヲ竊取スルモ刑法第二百四十四條ヲ適用スヘ
キモノニ非ス

○ 刑法第二百四十四條第一項ハ同條所定ノ親族又ハ家族ノ間ニ行ハレタ
ル竊盜ノ罪又ハ其未遂罪ニ付テ特例ヲ規定シタルモノナレハ親族又ハ
家族ニ非サル共犯ノ罪ヲ論斷スルニハ同條第二項ヲ援用スルコトヲ要
セサルモノトス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

〔第二百四十六條〕

〔第二百四十六條〕

○ 新刑法第二百四十六條第一項ノ規定ハ汎ク代金騙取ノ目的ヲ以テ冒認
販賣ヲ爲シタル場合ヲモ包含セルモノトス故ニ他人ノ動産不動産ヲ自
己ノ所有ナリト欺キ之ヲ販賣シタル事實ノミヲ認メ其代金ノ交付ヲ受
ケタルヤ否ヤヲ說示セサル判決ハ不法ナリ

○ 詐欺取財ヲ爲スニ因リ公正證書ヲ偽造行使シタル場合ニ於テハ該證書
作成ノ委任狀ハ公正證書ノ成立ト分離スヘカラサル密接ノ關係ヲ有シ
二者相待テ詐欺取財罪ノ實行手段タルヘキ行爲ニ外ナラス故ニ裁判所
カ右委任狀偽造ノ行爲ニ對シ刑法第五十四條第一項ヲ適用シタルハ相
當ナリ

○ 他人ノ預金通帳及ヒ印章ヲ竊取シタル行爲ト之ヲ使用シテ他ヨリ財物
ヲ騙取シタル行爲トハ法律上其性質ヲ同ウセサレハ擬律ノ點ニ於テモ
亦各別ニ之ヲ論スヘキモノトス

○ 小切手ハ刑法第二百四十六條第一項ニ所謂財物ノ一種ナリトス
○ 苟モ人ヲ欺罔シテ小切手ヲ騙取シタル以上ハ其當時尙ホ振出日附以前
ニ屬シ未タ小切手タルノ效力ヲ生セサル場合ト雖モ詐欺取財罪ノ成立
ヲ妨ケス
○ 人ヲ欺罔シテ其不動産ヲ犯人ノ自由ニ處分シ得ヘキ状態ニ置カシメタ

四一 1074
四三 1101
四 1368
五 1830

四一 1011
四二 1011
四三 1011
四四 1011
四五 1011
四六 1011
四七 1011
四八 1011
四九 1011
五〇 1011
五一 1011
五二 1011
五三 1011
五四 1011
五五 1011
五六 1011
五七 1011
五八 1011
五九 1011
六〇 1011

○ル所爲ハ不動産騙取罪ヲ構成ス而シテ被害者カ眞ニ其所有權ヲ犯人ニ移付スルノ意思ヲ表示シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ關係ナシ

四三

七三

○不動産ノ競落人カ裁判所ニ買入代金ヲ納付シタル後欺罔手段ヲ用キ之ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ財物騙取未遂罪ヲ構成ス

四三

八八五

○被告カ公正證書ノ原本ヲ偽造シタル場合ト雖モ當該吏員ニ於テ正當ノ手續ヲ履行シ第三者ニ交付シタル該證書ノ正本ハ其成立ノ點ニ付キ原本ト異ナル所アルヲ以テ苟モ他人ノ手裡ニ存スル正本ヲ騙取シタル以上ハ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

四三

一五三六

○公正證書ヲ作成スヘキ條件ヲ以テ金圓ヲ騙取シタル場合ト雖モ其作成ニシテ金圓騙取ノ後之カ發覺ヲ豫防スル爲メニ行ハレタルトキハ之ヲ以テ騙取罪ノ手段又ハ結果ナリト云フヲ得ス

四三

一五六六

○二人ニ對シテ唯一ノ詐術ヲ施シ同時ニ其術中ニ陷レ金圓ヲ騙取シタル以上ハ縱令騙取ノ日時又ハ場所ニ異同アルモ單一ナル一罪ト認ムヘキモノニシテ連續犯ヲ以テ論スヘキモノニ非ス(第五十四條第一項前段六年一三四五頁參照)

四三

二〇三二

○連續犯タル詐欺取財ノ成立ニハ其連續シタル數箇ノ行爲ヲ各箇ニ分離シテ之ヲ觀察スルモ其各行爲カ獨立シテ孰レモ一箇ノ詐欺取財罪ヲ構成スルニ足ルヘキ要件ヲ具備セサルヘカラス

成スルニ足ルヘキ要件ヲ具備セサルヘカラス

四三

四六

○判決確定後又ハ支拂命令ニ對スル執行命令確定シタル後該判決又ハ命令カ偽造證書ノ行使ニ基因シタルコトノ情ヲ知り乍ラ強制執行ヲ爲スモ其行爲ハ詐欺取財罪ヲ構成セス

四三

一一三

○他人カ詐欺取財ヲ爲サンコトヲ企テ偽造證書ヲ行使シテ確定判決若クハ支拂命令ニ對スル確定ノ執行命令ヲ得タル上進テ強制執行ヲ爲サントスルニ當リ其情ヲ知り乍ラ之ニ加擔シ執行上財物ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス

四三

一一三

○預ケ人カ小切手ヲ銀行ニ提出シテ預金ト爲シタルトキハ現金ノ授受アリシモノト看ルヲ當然トス

四三

一八九

○詐欺取財罪ハ欺罔者及ヒ被欺罔者間ニ於テ直接若クハ間接ニ財物ノ授受アルコトヲ要スルモ必スシモ合意ヲ以テ其成立要素ト爲スモノニ非ス

四三

四八九

○被告カ當初ヨリ食鹽ヲ外國ニ輸出スル意思ナキニ拘ハラヌ之ヲ輸出スルモノノ如ク裝ヒ特別ノ定價ヲ當該官吏ニ提供シ賣下ヲ受クルヲ名トシテ之ヲ騙取シタル所爲ハ詐欺罪(刑法第二百四十六條第一項)ヲ構成ス

四三

五四〇

○官吏カ同一犯意ニ基キ反覆シテ自己ノ職務ニ關スル虚偽ノ案内仕拂命令書及ヒ仕拂命令書ヲ作成行使シ本金庫係員ヲ欺罔シテ不正ニ金圓ヲ受領シタルトキハ其詐欺取財ノ反覆行為ハ之ヲ包括的ニ觀察シ詐欺罪(刑法第二百四十六條第一項)ナル一箇ノ連續犯トシテ處斷スヘキモノトス

四三

八〇〇

○他人カ酩酊ノ結果心神喪失ノ狀況ニ在ルニ乘シ之ヲ利用シテ其印ヲ盜用シ文書ヲ偽造シタル後登記官吏ヲシテ不動産登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲シ且之ヲ登記所ニ備付ケシムルモ欺罔ノ手段ヲ施シタル事實ナキヲ以テ舊刑法ノ詐欺取財罪又ハ刑法ノ詐欺罪ニ間擬スルコトヲ得ス

四二

八七一

○苟モ財物騙取ノ手段トシテ欺罔手段ヲ用キタル以上ハ之ト共ニ眞實ナル手段ヲ併用シタルト將タ財物ノ騙取ニ際シ犯人ヨリ被害者ニ與ヘタル財産上ノ利益カ被害者ノ蒙ムリタル損失ヲ償ヒ得ルト否トハ詐欺取財罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

四三

八七九

○苟モ詐欺ノ手段ニ因リ人ヲ欺罔シテ財物ヲ交付セシメタル以上ハ縱令其交付カ不法ノ原因ニ基キタルモノニシテ民法上被害者ヨリ其返還ヲ請求スルコト能ハサル場合ト雖モ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

四三

九〇六

(同左頁)

人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル以上ハ縱令其給付カ不法ノ原因ニ出テタル爲メ被害者ニ於テ民法上救済ヲ求ムルコト能ハサル場合ト雖モ詐欺取財罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

四二

八二二

詐欺取財罪ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立ス而シテ其財物ノ交付カ不法ノ原因ニ出テタル爲メ被欺罔者ニ於テ之カ返還若クハ損害賠償ヲ請求シ能ハサル事實ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

四二

一四九〇

○詐欺取財ノ目的ヲ以テ偽造證書ニ基キ訴訟上ノ救助ヲ請求スルハ詐欺罪ノ豫備行為ニ過キス而シテ犯人カ爾後訴訟ヲ提起シタルトキハ即チ其實行行為ニ著手シタルモノトス

四三

九六〇

○家資分散ノ際虚偽ノ債權ニ基キ競賣代金ノ配當ヲ要求シ債權者ヲ害スルコトアルモ其所爲ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル罪ノ當然ノ結果ニシテ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四三

一〇五五

○甲者ノ署名アル乙者宛ノ文書作成ノ用ニ供スヘキ白紙ハ交換價值ヲ有セサルモノヲ利用シテ一定ノ證明文書ヲ作成シ得ヘキモノナレハ刑法ノ所謂財物ニ外ナラス

四三

一一三八

○苟モ詐欺ノ方法ヲ用キテ裁判所ヲ欺キ債權者ノ損害ニ於テ差押不動産ヲ競落シ之カ所有權ヲ取得シタル以上ハ縱令債務者タル不動産所有者ノ利益ノ爲メニシ且其承諾ニ出テタリトスルモ詐欺罪ノ成立ヲ妨ケス

四三

一五三七